

この本の読みかた

本書は、次の6つの章と付録で構成されています。右側のページの右端には、マークをつけてあります。マークは章ごとに一段ずつ下げているので、目的の章を検索するときにご利用ください。

1章 パソコンの基本操作を覚えよう

パソコンの各部の名前から始まり、パソコン本体に用意されているボタンやスロット、さまざまな機能について説明しています。

2章 ネットワークの世界へ

パソコンを外の世界と結ぶネットワーク。世界中と結ぶインターネットから、家族と結ぶLANまで、各ネットワークについて説明しています。

3章 周辺機器を使って機能を広げよう

パソコン本体に用意されているコネクタにいろいろな機器をつないで、機能を広げることができます。本パソコンにはどんなコネクタが用意されていて、どんな機器が接続できるのかを説明しています。

4章 バッテリ駆動で使う

屋外やテラスなど、電源コンセントがない場所で使用するために、本パソコンにはバッテリー駆動の機能が用意されています。バッテリー駆動で使用するための充電方法や、バッテリーを効率良く使うための方法を説明しています。

5章 システム環境の変更

RAID 機能や BIOS セットアップといった、パソコンのシステム構成を変更する方法を説明しています。

6章 パソコンの動作がおかしいときは

なんだか動きがおかしい、故障?と思うようなとき、また使用上困ってしまってもうもないときなどのトラブル解消方法を紹介します。

付録

無線 LAN や Bluetooth のご使用になれる国/地域や、技術基準についての規格文書を掲載しています。

1章

2章

3章

4章

5章

6章

付録

もくじ

この本の読みかた	1
もくじ	2
はじめに	6

1 章 パソコンの基本操作を覚えよう 9

1 各部の名称 - 外観図 -	10
① 前面図	10
② 背面図	13
③ 裏面図	13
2 ポインタを動かす／ファイルを開く - タッチパッドとマウス -	15
① タッチパッドで操作する	15
② タッチパッドをもっと使いやすくしよう	16
③ マウスの使いかた	17
④ マウスをもっと使いやすくしよう	18
3 CD や DVD を使う - ドライブ -	20
① 使えるメディアを確認しよう	20
② 使える CD を確認しよう	20
③ 使える DVD を確認しよう	21
④ CD / DVD を使うとき (セット)	22
⑤ CD / DVD を使い終わったとき (取り出し)	23
4 画面を見やすく調整する - ディスプレイ -	25
① 画面の明るさを調整する	25
5 いろいろなメディアカードを使う - ブリッジメディアスロット -	26
① SD メモリカードを使う前に	26
② メモリースティックを使う前に	26
③ xD-ピクチャーカードを使う前に	27
④ マルチメディアカードを使う前に	27
⑤ メディアのセットと取り出し	27

2章 ネットワークの世界へ 29

1 インターネットへ接続する	30
① ブロードバンドで接続する	30
② ダイヤルアップ接続をする	32
2 家庭内ネットワークで広がる世界	34
① LAN 接続はこんなに便利	34
② ワイヤレス（無線）LAN を使う	34
③ 「Bluetooth」 を使ってみる	37

3章 周辺機器を使って機能を広げよう 39

1 周辺機器を使う前に	40
① ドライバをインストールする	40
2 パソコンの動作をスムーズにする –メモリの増設–	41
3 USB 対応機器を使う	44
4 i.LINK(IEEE1394)対応機器を使う	45
5 パソコンの画面をテレビに映す –テレビの接続–	46
6 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す –外部ディスプレイの接続–	51
7 インターネットチャットや音声ソフトを使う –マイクロホンやヘッドホンの接続–	52
① マイクロホンを使う	52
② ヘッドホンを使う	52
8 PC カードを使う	53
① PC カードを使う前に	53
② PC カードを使う	53
9 ExpressCard を使う	55
① ExpressCard を使う前に	55
② ExpressCard を使う	55
10 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を使う	57

4章 バッテリ駆動で使う 59

1 バッテリについて	60
① バッテリ充電量を確認する	60
② バッテリを充電する	61
③ バッテリパックを交換する	62

5章 システム環境の変更 65

1 システム環境の変更とは	66
2 東芝 RAID	67
① 東芝 RAID とは	67
② 東芝 RAID を使う設定をする	69
3 BIOS セットアップを使う	72
① 起動と終了 / BIOS セットアップの操作	72
② BIOS セットアップの画面	73
③ 設定項目	73

6章 パソコンの動作がおかしいときは 79

1 トラブルを解消するまでの流れ	80
① トラブルの原因をつき止めよう	80
② トラブル事例をしてみる	82
③ 電話で問い合わせる	84
④ 修理に出す	85
2 トラブル解消によく使う操作	86
① パソコンを再起動する	86
3 問題の切り分け方法	87
① パソコンの情報を見る / 状態を診断する	87
② システム構成ユーティリティを使う	87
③ 正常な状態で起動しなおす	88
4 Q&A 集	89
5 問い合わせ先 - OS / アプリケーション / プロバイダー	100
① OS の問い合わせ先	100
② アプリケーションの問い合わせ先	100
③ プロバイダの問い合わせ先	103

1 技術基準適合について 106

2 無線 LAN について 108

3 Bluetooth について 109






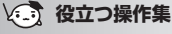

さくいん 110

はじめに

本製品を安全に正しく使うために重要な事項が、同梱の冊子『安心してお使いいただくために』に記載されています。必ずお読みになり、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるようにお手元に大切に保管してください。

本書は、次の決まりに従って書かれています。

記号の意味

 危険	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことがあり、その切迫の度合いが高いこと”を示します。
 警告	“取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（*1）を負うことが想定されること”を示します。
 注意	“取扱いを誤った場合、使用者が傷害（*2）を負うことが想定されるか、または物的損害（*3）の発生が想定されること”を示します。
 お願い	データの消失や、故障、性能低下を起こさないために守ってほしい内容、仕様や機能に関して知っておいてほしい内容を示します。
 メモ	知っていると便利な内容を示します。
 役立つ操作集	知っていると役に立つ操作を示します。
 参照	このマニュアルや他のマニュアルへの参照先を示します。 このマニュアルへの参照の場合…「 」 他のマニュアルへの参照の場合…『 』 オンラインマニュアル、 できる dynabook への参照の場合 …〈 〉 オンラインマニュアルにはさまざまな情報が記載されています。

- *1 重傷とは、失明やけが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで、後遺症が残るものおよび治療に入院・長期の通院を要するものをさします。
- *2 傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さないけが・やけど・感電などをさします。
- *3 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペット等にかかわる拡大損害をさします。

用語について

本書では、次のように定義します。

システム

特に説明がない場合は、使用しているオペレーティングシステム（OS）を示します。本製品のシステムは Windows XP です。

アプリケーションまたはアプリケーションソフト

アプリケーションソフトウェアを示します。

Windows XP

特に説明がない場合は、Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system 日本語版を示します。

MS-IME


Microsoft® IME 2003 / ナチュラル インプット 2003 を示します。

オンラインマニュアル

パソコン上で見ることのできる、電子マニュアルを示します。デスクトップ上の [オンラインマニュアル] アイコンをダブルクリックして起動します。

ドライブ

DVD スーパーマルチドライブを示します。

 詳細について 「1 章 3 CD や DVD を使う」

Office 搭載モデル

Microsoft® Office Personal Edition 2003 および Microsoft® Office OneNote® 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

OneNote 搭載モデル

Microsoft® Office OneNote® 2003 がプレインストールされているモデルを示します。

Bluetooth モデル

Bluetooth 機能が搭載されているモデルを示します。

記載について

- ・記載内容によっては、一部のモデルにのみ該当する項目があります。その場合は、「用語について」のモデル分けに準じて、「***モデルのみ」と注記します。
- ・インターネット接続については、内蔵モデムを使用した接続を前提に説明しています。
- ・アプリケーションについては、本製品にプレインストールまたは同梱の CD / DVD からインストールしたバージョンを使用することを前提に説明しています。
- ・本書に記載している画面やイラストは一部省略したり、実際の表示とは異なる場合があります。

Trademarks

- ・ Microsoft、Windows、Windows Media、OneNote、Outlook は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Intel、インテル、Pentium、Centrino は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標、または登録商標です。
- ・ BeatJam、MediaMarina、ホームページミックスは、株式会社ジャストシステムの登録商標です。
- ・ BeatJam、MediaMarina、ホームページミックス /R.2 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、BeatJam、MediaMarina、ホームページミックス /R.2 にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。
- ・ MagicGate、メモリスティック、メモリスティックロゴ、メモリスティック Duo、メモリスティック PRO、メモリスティック PRO Duo は、ソニー株式会社の商標です。
- ・ xD-ピクチャーカード™ は、富士写真フイルム株式会社の商標です。
- ・ i.LINK、i.LINK ロゴは商標です。
- ・ Fast Ethernet、Ethernet は富士ゼロックス株式会社の商標または登録商標です。
- ・ Bluetooth は、その商標権者が所有しており、東芝はライセンスに基づき使用しています。
- ・ LaLaVoice、ConfigFree は株式会社東芝の登録商標です。「駅前探検倶楽部」、「駅探」は登録商標です。
- ・ The 翻訳、The 翻訳インターネットは東芝ソリューション株式会社の商標です。
- ・ Adobe、Adobe Reader は Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における商標ならびに登録商標です。
- ・ InterVideo、WinDVD、WinDVD Creator は InterVideo, Inc. の登録商標または商標です。
- ・ Ulead および Ulead Video ToolBox は Ulead Systems, Inc. の登録商標です。
- ・ 駅すばあととは、株式会社ヴァル研究所の登録商標です。
- ・ プロアトラスは、株式会社アルプス社および株式会社アルプス出版社の登録商標です。
- ・ 筆ぐるめは、富士ソフト ABC 株式会社の登録商標です。
- ・ Symantec、Norton AntiVirus、LiveUpdate は Symantec Corporation の登録商標です。
- ・ Norton Internet Security は Symantec Corporation の商標です。
- ・ McAfee、VirusScan およびマカフィーは米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。
- ・ Java はサンマイクロシステムズ社の米国および他の国における登録商標または商標です。
- ・ goo スティックは、NTT レゾナント株式会社の商標です。
- ・ 「i-フィルター」は、デジタルアーツ株式会社の商標です。
- ・ Sonic RecordNow! は Sonic Solutions の登録商標です。
- ・ 「できる」は、株式会社インプレスの登録商標です。
- ・ infoPepper は東芝情報システム株式会社の登録商標です。
- ・ アメリカ・オンラインおよび AOL は AOL の登録商標です。
- ・ BIGLOBE は日本電気株式会社の登録商標です。
- ・ DION は KDDI 株式会社の登録商標です。
- ・ OCN は NTT コミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ・ ODN は日本テレコム株式会社の商標です。
- ・ So-net、ソネット、および So-net のロゴはソニー株式会社の商標、または登録商標です。

- ・ かるがるネットは株式会社ジーエムエス総合研究所の登録商標です。

取扱説明書に掲載の商品の名称は、それぞれ各社が商標および登録商標として使用している場合があります。

インテル Centrino モバイル・テクノロジーについて

次の 3 つのコンポーネントを搭載したパソコンをインテル Centrino モバイル・テクノロジー搭載と呼びます。

- ・ インテル Pentium M プロセッサ
- ・ モバイル インテル 915 Express チップセット・ファミリ
- ・ インテル PRO/Wireless ネットワーク・コネクション・ファミリ

プロセッサ (CPU) に関するご注意

本製品に使われているプロセッサ (CPU) の処理能力は次のような条件によって違いが現れます。

- ・ 周辺機器を接続して本製品を使用する場合
- ・ AC アダプタを接続せずバッテリー駆動にて本製品を使用する場合
- ・ マルチメディアゲームや特殊効果を含む映像を本製品にてお楽しみの場合
- ・ 本製品を通常の電話回線、もしくは低速のネットワークに接続して使用する場合
- ・ 複雑な造形に使用するソフト (例えば、運用に高性能コンピュータが必要に設計されているデザイン用アプリケーションソフト) を本製品上で使用する場合
- ・ 気圧が低い高所にて本製品を使用する場合
目安として、標高 1,000 メートル (3,280 フィート) 以上をお考えください。
- ・ 目安として、気温 5 ~ 30℃ (高所の場合 25℃) の範囲を超えるような外気温の状態では本製品を使用する場合

本製品のハードウェア構成に変更が生じる場合、CPU の処理能力が実際には仕様と異なる場合があります。

また、ある状況下においては、本製品は自動的にシャットダウンする場合があります。これは、当社が推奨する設定、使用環境の範囲を超えた状態で本製品が使用された場合、お客様のデータの喪失、破損、本製品自体に対する損害の危険を減らすための通常の保護機能です。なお、このようにデータの喪失、破損の危険がありますので、必ず定期的にデータを外部記録機器にて保存してください。また、プロセッサが最適の処理能力を發揮するよう、当社が推奨する状態にて本製品をご使用ください。

この他の使用制限事項につきましては取扱説明書をお読みください。また、詳細な情報については東芝 PC ダイヤル 0120-97-1048* にお問い合わせください。

- * 2005 年 9 月 13 日 (火) から、
2005 年 9 月 12 日 (月) までは 0570-00-3100 にお問い合わせください。

著作権について

音楽、映像、コンピュータ・プログラム、データベースなどは著作権法により、その著作者および著作権者の権利が保護されています。こうした著作物を複製することは、個人的にまたは家庭内で使用する目的でのみ行うことができます。上記の目的を超えて、権利者の了解なくこれを複製（データ形式の変換を含む）、改変、複製物の譲渡、ネットワーク上での配信などを行うと、「著作権侵害」「著作者人格権侵害」として損害賠償の請求や刑事処罰を受けることがあります。本製品を使用して複製などをする場合には、著作権法を遵守のうえ、適切な使用を心がけてください。

リリース情報について

「リリース情報」には、本製品を使用するうえでの注意事項などが記述されています。必ずお読みください。次の操作を行うと表示されます。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [はじめに]
→ [リリース情報] をクリックする

お願い

- ・本製品の内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱の CD / DVD からインストールしたシステム (OS)、アプリケーション以外をインストールした場合の動作保証はできません。
- ・Windows 標準のシステムツールまたは『セットアップガイド』に記載している手順以外の方法で、パーティションを変更・削除・追加しないでください。ソフトウェアの領域を壊すおそれがあります。
- ・内蔵ハードディスクにインストールされている、または同梱の CD / DVD からインストールしたシステム (OS)、アプリケーションは、本製品でのみ利用できます。
- ・購入時に定められた条件以外で、製品およびソフトウェアの複製もしくはコピーをすることは禁じられています。取り扱いには注意してください。
- ・パスワードを設定した場合は、忘れたときのために必ずパスワードを控えておいてください。パスワードを忘れてしまって、パスワードを解除できなくなった場合は、使用している機種（型番）を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書（お客様自身を確認できる物）の提示が必要となります。
- ・本製品はセキュリティ対策のためのパスワード設定や、無線 LAN の暗号化設定などの機能を備えていますが、完全なセキュリティ保護を保証するものではありません。セキュリティの問題の発生や、生じた損害に関し、弊社は一切の責任を負いません。
- ・ご使用の際は必ず本書をはじめとする取扱説明書と『エンドユーザ使用許諾契約書』および『ソフトウェアに関する注意事項』をお読みください。
- ・一部のアプリケーションでは初回起動時に使用許諾書が表示されます。アプリケーションを使用するには使用許諾書に同意してください。使用許諾書に同意すると、2 回目以降は使用許諾書の表示はされませんが、再セットアップを行った場合には使用許諾書が表示されます。
- ・『東芝保証書兼お客様登録カード』は、「東芝保証書」と「お客様登録カード」を中央の切り取り線で切り離せます。「東芝保証書」は記入内容を確認のうえ、大切に保管してください。

本製品のお客様登録（ユーザ登録）をあらかじめ行っていただくようお願いしております。本体同梱の『お客様登録カード』または弊社ホームページで登録できます。

参照 ▶ 詳細について

『セットアップガイド 5 章 1 お客様登録の手続き』

1 章

パソコンの基本操作を覚えよう

このパソコン本体の各部について、役割、基本の使いかたなどを説明しています。

1	各部の名称 - 外観図 -	10
2	ポインタを動かす / ファイルを開く - タッチパッドとマウス -	15
3	CD や DVD を使う - ドライブ -	20
4	画面を見やすく調整する - ディスプレー -	25
5	いろいろなメディアカードを使う - ブリッジメディアスロット -	26

1

各部の名称

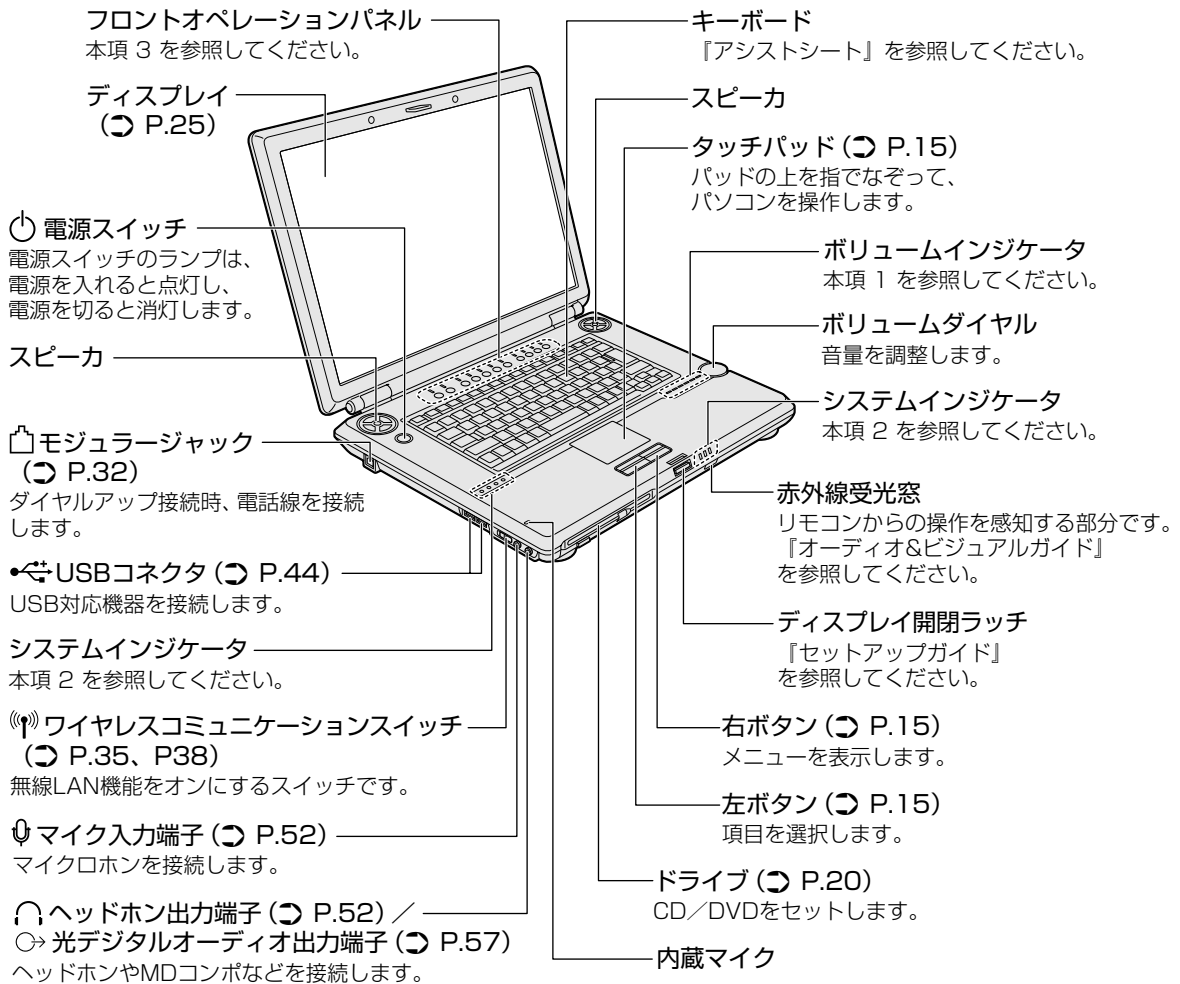
－ 外観図 －

ここでは、各部の名前と機能を簡単に説明します。
それぞれについての詳しい説明は、各参照ページや各マニュアルを確認してください。

メモ

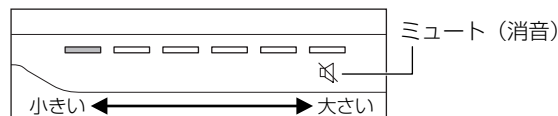
- 本製品に表示されている、コネクタ、LED、スイッチのマーク（アイコン）、およびキーボード上のマーク（アイコン）は最大構成を想定した設計となっています。ご購入いただいたモデルによっては、機能のないものがあります。

① 前面図



1 ボリュームインジケータ

音量レベルの状態は、ボリュームインジケータで確認できます。



2 システムインジケータ

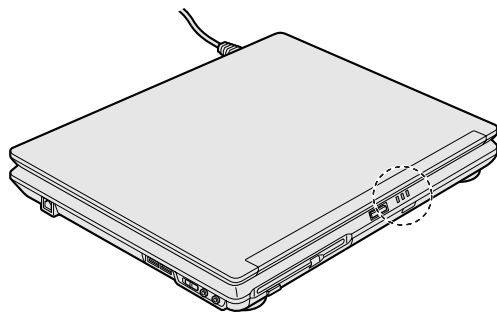
システムインジケータの点灯状態によって、パソコン本体がどのような動作をしているのかを知ることができます。



	DC IN LED	電源コード接続の状態	参照 ▶ 『セットアップガイド 1 章』
	Power LED	電源の状態	参照 ▶ 『セットアップガイド 1 章』
	Battery LED	バッテリーの状態	参照 ▶ P.60
	Disk LED	ハードディスクドライブにアクセスしている	
	CD/DVD LED	ドライブにアクセスしている	参照 ▶ P.23
	ブリッジメディア LED	ブリッジメディアスロットにアクセスしている	参照 ▶ P.27
	ワイヤレスコミュニケーション LED	無線通信機能の状態	参照 ▶ P.35、38

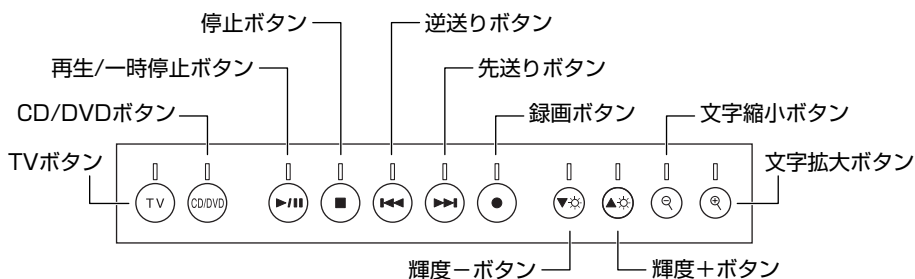
ディスプレイを閉じたとき

DC IN LED、Power LED、Battery LEDは、ディスプレイを閉じた状態でも確認することができます。



3 フロントオペレーションパネル

パソコンでテレビやDVD-Videoを見たり音楽を聴いたりするとき、フロントオペレーションパネルを使用すると簡単に操作することができます。また、本体液晶ディスプレイの輝度を調節したり、画面やアイコンなどを拡大することもできます。



ボタンの操作方法

操作するボタン（アイコン）を、指で触れてください。触れたボタンに割り当てられている機能を実行します。ボタンに割り当てられている機能は「東芝コントロール」で変更できます。詳しくは、《オンラインマニュアル（検索）：ボタンに割り当てるアプリケーションを変更する》を参照して、設定を変更してください。

ボタンに触れると、ピープ音が鳴り、触れたボタンのLEDの状態が変わります。触れる前に消灯していた場合は点灯し、点灯していた場合は消灯します。指を離すと、ボタンのLEDは触れる前の状態に戻ります。

ご購入時の状態では、各ボタンのLEDの点灯/消灯の状態は次のとおりです。

- TV ボタン、CD/DVD ボタン
 - パソコン本体の電源が入っているとき : 点灯している
 - 電源が入っていない、スタンバイ、休止状態のとき : 消灯している
- その他のボタン
 - 消灯している

ピープ音の音量やLEDの点灯/消灯の状態は、「BIOS セットアップ」で変更することができます。詳しくは、「5 章 3-③ 設定項目」を確認して、設定を変更してください。

お願い 操作にあたって

- ボタンを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。ボタンが故障するおそれがあります。

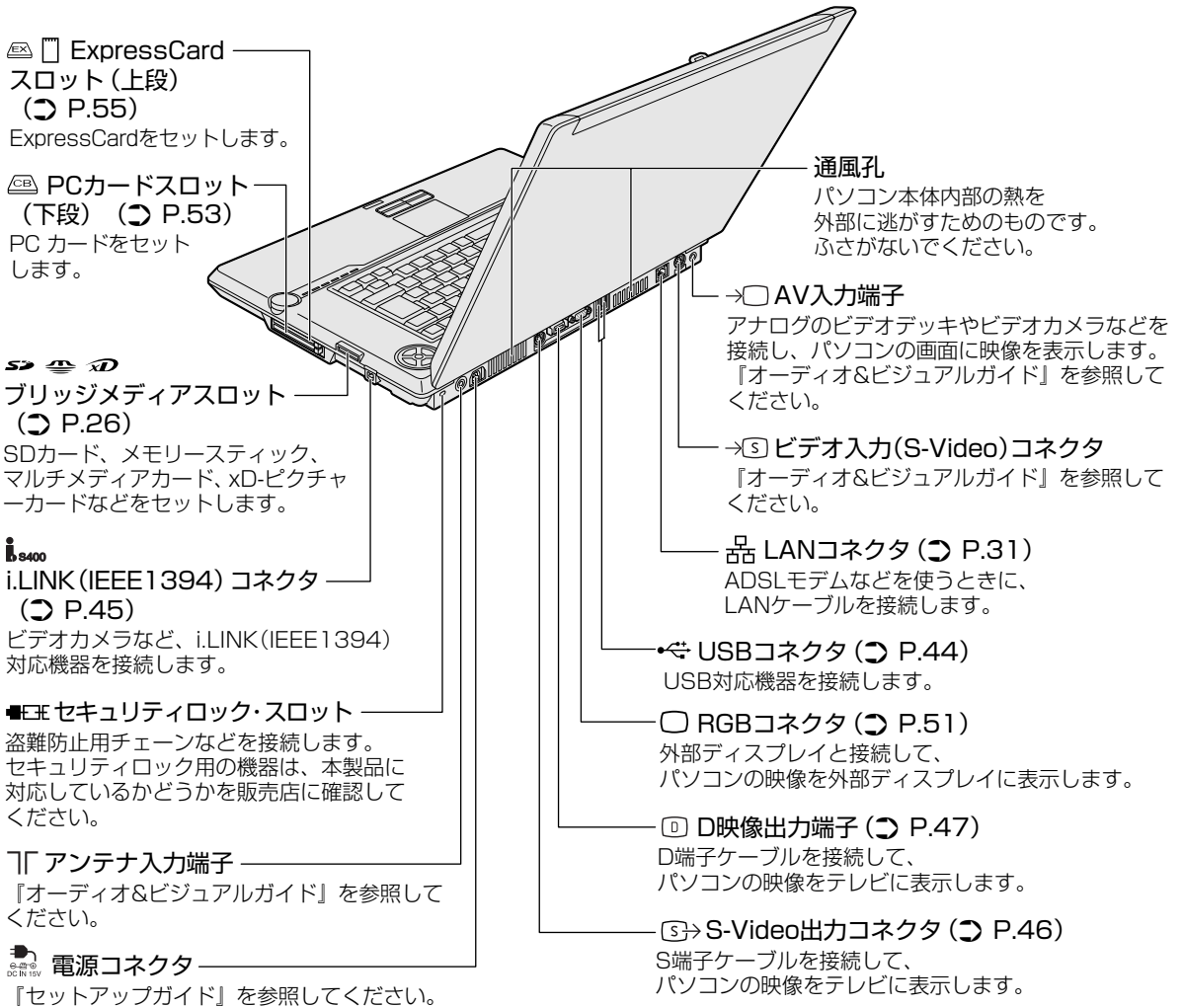
ボタンの機能

それぞれのボタンの機能は、次のようになっています。

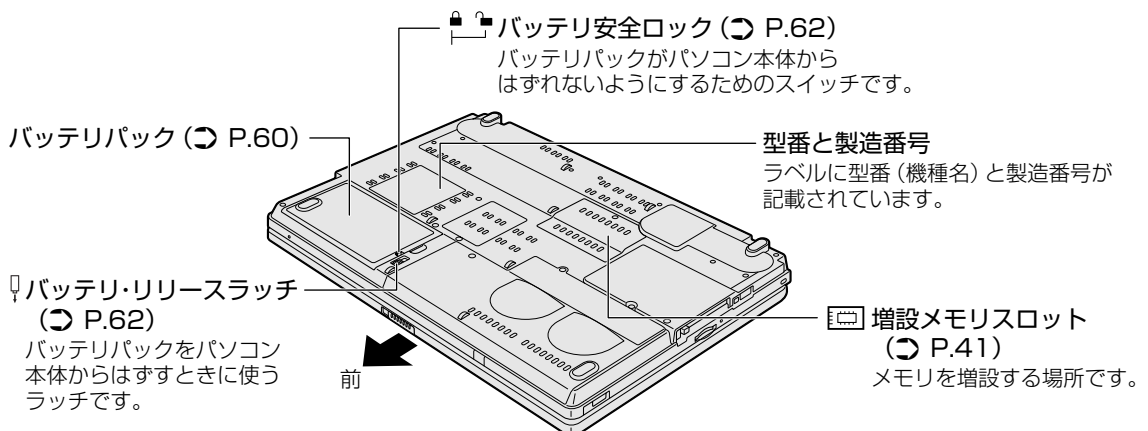
TV ボタン	Windows が起動しているとき、またはスタンバイ状態の場合は「Qosmio AV Center *」のテレビ画面を起動します。 パソコン本体に電源が入っていない、または休止状態の場合は、「QosmioPlayer (TV) *」を起動します。
CD/DVD ボタン	音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。起動するアプリケーションは、次のものです。 ドライブに DVD がセットされている場合 : WinDVD * ドライブに DVD 以外がセットされている、 または何もセットされていない場合 : RoomStylePlayer * パソコン本体に電源が入っていない、または休止状態の場合は、「QosmioPlayer *」の次の機能を起動します。 ドライブに CD がセットされている場合 : QosmioPlayer (CD) * ドライブに DVD がセットされている場合 : QosmioPlayer (DVD) *
再生 / 一時停止 ボタン	音楽や映像を再生するアプリケーションを起動します。起動するアプリケーションは、次のものです。 ドライブに DVD がセットされている場合 : WinDVD * ドライブに DVD 以外がセットされている、 または何もセットされていない場合 : RoomStylePlayer * すでに再生するアプリケーションが起動している場合には、一時停止または一時停止を解除します。 また「QosmioPlayer * (TV)」を起動しているときに触れると、録画したテレビ映像がある場合は、その映像を再生します。
停止ボタン	そのとき操作しているアプリケーションを、停止します。 このボタンは、「RoomStylePlayer *」「WinDVD *」「QosmioPlayer (TV) * (録画、再生時のみ)」「QosmioPlayer (CD) *」「QosmioPlayer (DVD) *」に対して、操作可能です。
逆送りボタン	そのとき再生している音楽や映像のトラック / チャプタを 1 つ前またはトラック / チャプタの先頭に戻します。 このボタンは、「RoomStylePlayer *」「WinDVD *」「QosmioPlayer (CD) *」「QosmioPlayer (DVD) *」に対して、操作可能です。
先送りボタン	そのとき再生している音楽や映像のトラック / チャプタを 1 つ進めます。 このボタンは、「RoomStylePlayer *」「WinDVD *」「QosmioPlayer (CD) *」「QosmioPlayer (DVD) *」に対して、操作可能です。
録画ボタン	「Qosmio AV Center *」のテレビ画面または「QosmioPlayer (TV) *」を起動しているときに押すと、録画を開始します。
輝度 - ボタン	1 回触れるごとに、本体液晶ディスプレイの明るさが 1 段階ずつ暗くなります。明るさは 8 段階あり、初期状態は「8」(最高輝度)に設定されています。 このボタンは、Windows が起動しているときと、「QosmioPlayer *」に対して、操作可能です。
輝度 + ボタン	1 回触れるごとに、本体液晶ディスプレイの明るさが 1 段階ずつ明るくなります。明るさは 8 段階あり、初期状態は「8」(最高輝度)に設定されています。 このボタンは、Windows が起動しているときと、「QosmioPlayer *」に対して、操作可能です。
文字縮小ボタン	画面やアイコンなどを縮小します。このボタンは、Windows が起動しているときに操作可能です。
文字拡大ボタン	画面やアイコンなどを拡大します。このボタンは、Windows が起動しているときに操作可能です。

* 「Qosmio AV Center」、 「QosmioPlayer (QosmioPlayer (TV)、QosmioPlayer (CD)、QosmioPlayer (DVD) を含む)」、 「RoomStylePlayer」、 「WinDVD」については『オーディオ & ビジュアルガイド』を参照してください。

② 背面図



③ 裏面図



通風孔は、パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。ふさがないでください。

警告

- 必ず、本製品付属のACアダプタを使用すること
本製品付属以外のACアダプタを使用すると電圧や(+)(-)の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- パソコン本体にACアダプタを接続する場合、必ず『セットアップガイド』に記載してある順番を守って接続すること
順番を守らないと、ACアダプタのDC出力プラグが帯電し、感電または軽いケガをする場合があります。また、ACアダプタのプラグをパソコン本体の電源コネクタ以外の金属部分に触れないようにしてください。

注意

- お手入れの前には、必ずパソコンやパソコンの周辺機器の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜くこと
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電するおそれがあります。

お願い

- 機器に強い衝撃や外圧を与えないように注意してください。製品には精密部品を使用しておりますので、強い衝撃や外圧を加えると部品が故障するおそれがあります。

【電源コードの仕様】

本製品に同梱されている電源コードは、日本の規格にのみ準拠しています。

使用できる電圧(AC)は、100Vです。

必ずAC100Vのコンセントで使用してください。

* 取得規格は、電気用品安全法です。

その他の地域で使用する場合は、当該国・地域の法令・安全規格に適合した電源コードを購入してください。

【ACアダプタの仕様】

入力：AC100～240V、1.7-0.75A、50-60Hz

出力：DC15V、8A

お願い

パソコン本体／ACアダプタ／電源コードの取り扱いと手入れ

- 『安心してお使いいただくために』に、パソコン本体、ACアダプタ、電源コードを使用するときに守ってほしいことが記述されています。
あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。
- パソコン本体表面の汚れは、本製品に同梱されている布(以下：クリーナークロス)または柔らかくきれいな乾いた布などでふき取ってください。クリーナークロスは、きれいな状態でご使用ください。汚れた状態・濡れた状態では使用しないでください。また、使い終わったらパソコン本体の上に置いたままにしないで、すぐに片付けてください。汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってからふいてください。中性洗剤、揮発性の有機溶剤(ベンジン、シンナーなど)、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 薬品や殺虫剤などをかけないでください。
- ディスプレイは静かに閉じてください。
- 使用できる環境は次のとおりです。^{*1}
温度5～35℃、湿度20～80%
- 次のような場所で使用や保管をしないでください。
直射日光の当たる場所／非常に高温または低温になる場所／急激な温度変化のある場所(結露を防ぐため)／強い磁気を帯びた場所(スピーカなどの近く)／ホコリの多い場所／振動の激しい場所／薬品の充満している場所／薬品に触れる場所
- 使用中に本体の底面やACアダプタが熱くなることがあります。本体の動作状況により発熱しているだけで、故障ではありません。

*1 使用環境条件は、本製品の動作を保証する温湿度条件であり、性能を保証するものではありません。

お願い

キーボードの取り扱いと手入れ


- 柔らかい乾いた素材のきれいな布でふいてください。
汚れがひどいときは、水に浸した布を固くしぼってふきます。
キーのすきまにゴミが入ったときは、エアーで吹き飛ばすタイプのクリーナーで取り除きます。ゴミが取れないときは、使用している機種名を確認してから、購入店、または保守サービスに相談してください。
コーヒーなど飲み物をこぼしたときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスに相談してください。

2

ポインタを動かす／ファイルを開く

－ タッチパッドとマウス －

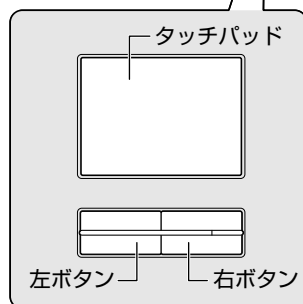
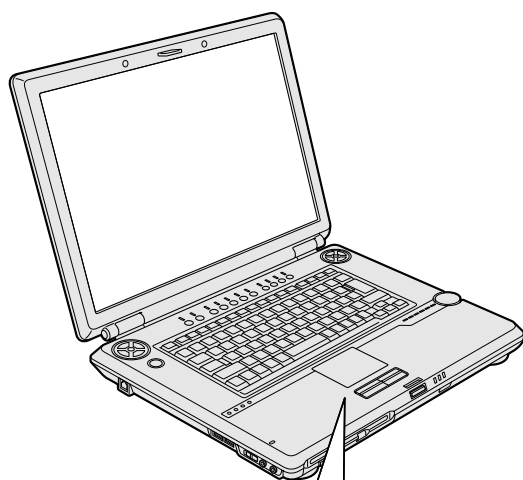
① タッチパッドで操作する

電源を入れてWindowsを起動すると、パソコンのディスプレイに  が表示されます。この矢印を「ポインタ」といい、操作の開始位置を示しています。この「ポインタ」を動かしながらパソコンを操作していきます。パソコン本体には、「ポインタ」を動かすタッチパッドと、操作の指示を与える左ボタン／右ボタンがあります。

タッチパッドと左ボタン／右ボタンを使ってポインタを動かす、パソコンを操作してみましょう。ここでは、タッチパッドと左ボタン／右ボタンの基本的な機能を説明します。

お願い 操作にあたって

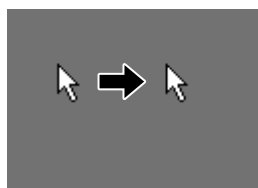
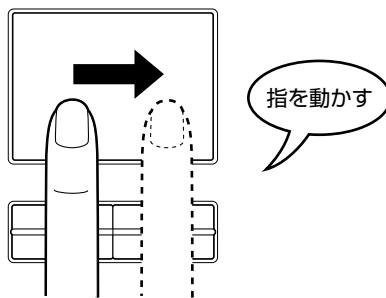
- タッチパッドを強く押さえたり、ボールペンなどの先の鋭いものを使わないでください。タッチパッドが故障するおそれがあります。



1 矢印（ポインタ）を動かす

操作を始める位置を示す矢印（ポインタ）。タッチパッドに置いた指の方向にあわせて動きます。指を上下左右に動かしてみましょう。

指がタッチパッドの端までできてしまい、それ以上動かせなくなったときは、いったん指を離してから、タッチパッドの中央に置き直して操作します。

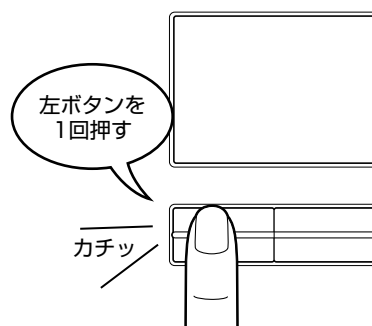


(画面)

2 アイコンを選択する

アイコン、文字などを選択するには、ポインタを目的のアイコンや文字などの位置にあわせて、左ボタンを1回押します（クリック）。

アイコンなどを選択すると、色が変わります。これを「反転表示」といいます。



〈クリックする前〉



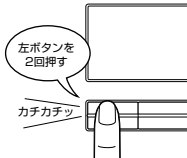
〈クリックした後〉



🐼 役立つ操作集

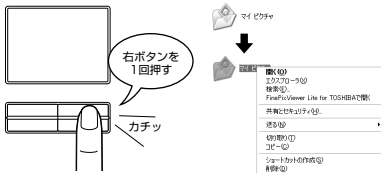
ダブルクリックする

ダブルクリックすると、ファイルを開いたりアプリケーションを起動できます。ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンをすばやく2回押します。



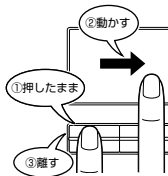
右クリックする

右クリックすると、メニューが表示され、そこから行いたいことをクリックして選択できます。ポインタを目的の位置にあわせて、右ボタンを1回押します。



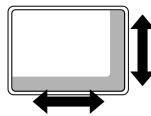
ドラッグアンドドロップする

ドラッグアンドドロップをするとき、アイコンやウィンドウを移動したり、複数の文字やアイコンを選択したりできます。ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを押したまま①、別の指でタッチパッドを使ってポインタを動かします②（ドラッグ）。ポインタが目的の位置に移動したら、左ボタンから指を離します③（ドロップ）。



スクロールする

スクロールとは画面を動かすことです。スクロールすると画面に表示しきれない部分を見ることができます。タッチパッドの右側に指を置いて上下に動かすと、上下にスクロールします。タッチパッドの下辺に指を置いて左右に動かすと、左右にスクロールします。

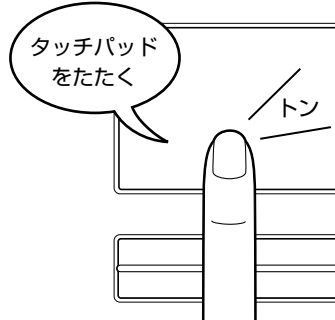


3 慣れてきたら

慣れてきたら、左ボタンを使わなくても、次のような基本的な操作ができます。

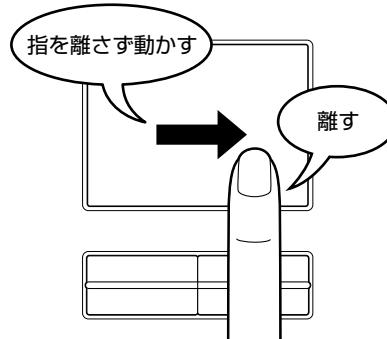
【クリック/ダブルクリック】

タッチパッドを1回軽くたたくとクリック、2回たたくとダブルクリックができます。



【ドラッグアンドドロップ】

タッチパッドを続けて2回たたき、2回目はタッチパッドから指を離さずに目的の位置まで移動し、指を離します。



お願い タッチパッドの手入れ

- 乾いた柔らかい素材のきれいな布でふいてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯に浸した布を固くしぼってからふきます。

② タッチパッドをもっと使いやすくしよう

タッチパッドやポインタの設定は、[マウスのプロパティ]で行います。

1 この画面で設定する

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする

2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする

3 [マウス] をクリックする

「マウスのプロパティ」画面が表示されます。



4 各タブで機能を設定し、[OK] ボタンをクリックする

各機能の設定については、《オンラインマニュアル（検索）：タッチパッドの使用環境を設定する》を参照してください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、設定が変更されません。

役立つ操作集

タッチパッドを無効／有効にするには

[タッチパッド ON/OFF] タブの [無効] をチェックすると、タッチパッドからの操作ができなくなります。[有効] をチェックすると、タッチパッドが使用可能になります。



タッチパッドの無効／有効は、(FN)+(F9)キーでも切り替えることができます。

参照 (FN)+(F9)キーについて

《オンラインマニュアル（検索）：タッチパッドの使用環境を設定する》

メモ PadTouch 機能を使う

- 「PadTouch」は、タッチパッドの操作により、画面に表示された「テーブル」を使ってさまざまな機能を簡単に実行できるアプリケーションです。次のようなときに使用すると便利です。
 - ・ウィンドウでデスクトップが隠れているときに、デスクトップ上のファイルを開きたい
 - ・Internet Explorerの【お気に入り】に登録されているホームページを開きたい
 - ・現在実行中のウィンドウの一覧を表示して、アクティブなウィンドウを切り替えたい

詳しい操作方法については、《オンラインマニュアル（検索）：アプリケーションを簡単に起動したい》を参照してください。

③ マウスの使いかた

マウスはタッチパッドの左ボタン／右ボタンと同じ動きをします。

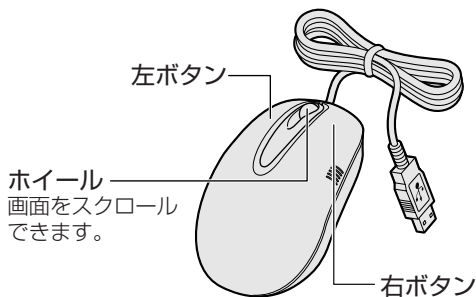
本製品には、USB 対応の光学式マウスが同梱されています。USB コネクタに接続して使用してください。

マウスは、Windows のセットアップが終わった後に接続してください。

参照 マウスの接続について

「3章 3 USB 対応機器を使う」

マウスを使ってポインタを動かしたり、クリック、ダブルクリックなどをしてみましょう。

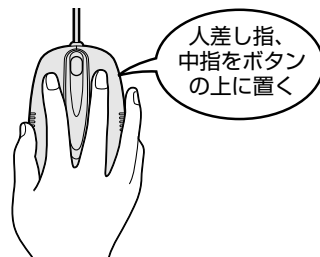


注意

- マウス底面の光学式センサーの赤い光を直接見ないこと、目を痛めるおそれがあります。

マウスの持ちかた

マウスを手のひらで包むように持ち、人さし指と中指を各ボタンの上に置きます。



マウスをうまく動かすポイント

マウスを動かす場所がなくなったときは、いったんマウスを持ち上げ、マウスを動かせる位置に戻します。

● マウスの使用場所

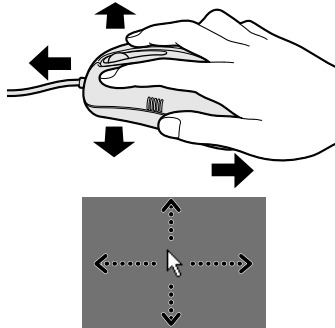
マウスは平らな場所で使用してください。

グリッドなどの細かい模様のあるもの、または専用のマウスパッド上での使用を推奨します。

また、ガラスなどの透明な素材、鏡や光沢のあるビニールなどの光を反射する素材の上では使用しないでください。光学式センサーがうまく動作しない場合があります。

1 ポインタを動かす

滑らせるようにしてマウスを上下左右に動かします。ポインタがマウスの動きにあわせて動きます。



2 アイコンを選択する

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを1回押します。



役立つ操作集

ダブルクリックする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンをすばやく2回押すことです。ダブルクリックするとき、マウスが動かないように固定した状態でボタンを押してください。



右クリックする

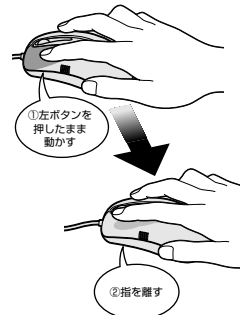
ポインタを目的の位置にあわせて、右ボタンを1回押すことです。



役立つ操作集

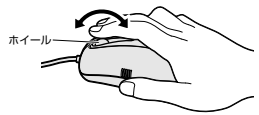
ドラッグアンドドロップする

ポインタを目的の位置にあわせて、左ボタンを押したまま、マウスを動かします①（ドラッグ）。ポインタが目的の位置に移動したら、ボタンから指を離します②（ドロップ）。



スクロールする

ホイールを前後にまわすと、まわした方向に画面がスクロールされます。



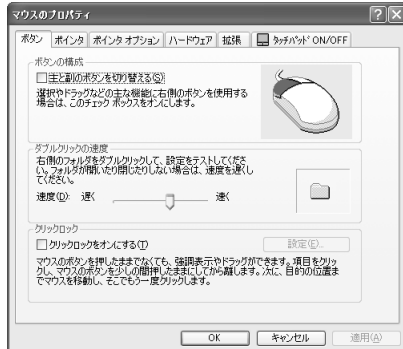
4 マウスをもっと使いやすくしよう

マウスのボタンなどの設定もできます。

1 この画面で設定する

- 1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックする
- 2 [プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- 3 [マウス] をクリックする

[マウスのプロパティ] 画面が表示されます。



[ボタン] タブで設定します。

ボタンの構成	マウスの右ボタンと左ボタンの役割を入れ換えます。
ダブルクリックの速度	スライダーバーを動かして、ダブルクリックするときの速度を調整します。
クリックロック	マウスのボタンを押したままにしなくても、ドラッグできるようにします。

役立つ操作集

ポインタの形や速度を変える

[マウスのプロパティ] では、ポインタの形や速さなどを変えることができます。

[ポインタ] タブでは形を、[ポインタオプション] タブでは速さとポインタを動かしたときの軌跡などを設定できます。



ヘルプの起動方法

- 1 [マウスのプロパティ] 画面を起動後、画面右上の **?** をクリックする
ポインタが **?** に変わります。
- 2 画面上の知りたい項目にポインタを置き、クリックする

3

CD や DVD を使う

－ ドライブ －

本製品には、DVD スーパーマルチドライブが 1 台内蔵されています。
ドライブには次のマークが入っています。



* マークの位置や並び順は異なる場合があります。

DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R *1、DVD+RW、DVD+R *2、CD-RW、CD-R の読み出し／書き込み機能を搭載したドライブです。

- *1 本書では、「DVD-R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD-R DL (Double Layer 対応) を含みます。
- *2 本書では、「DVD+R」と記載している場合、特に書き分けのある場合を除き、DVD+R DL (Double Layer 対応) を含みます。

『安心してお使いいただくために』に、CD / DVD を使用するときに守ってほしいことが記述されています。
CD / DVD を使用する場合は、あらかじめその記述をよく読んで、必ず指示を守ってください。

お願い DVD-Video の再生にあたって

- DVD-Video 再生時は、なるべく AC アダプタを接続してください。省電力機能が働くと、スムーズな再生ができない場合があります。バッテリー駆動で再生する場合は「東芝省電力」で「DVD 再生」プロファイルに設定してください。
- 使用する DVD ディスクのタイトルによっては、コマ落ちする場合があります。
- Region コードは 4 回まで変更できますが、通常は出荷時のままご利用ください。出荷時の状態では、DVD-Video の再生は Region コード「2」、[ALL] のものをご使用ください。

① 使えるメディアを確認しよう

○：使用できる ×：使用できない

	読み出し	書き込み回数
CD-R	○*1	1 回
CD-RW	○*1	繰り返し書き換え可能*2
DVD-R	○*3	1 回
DVD-RW	○*1	繰り返し書き換え可能*2
DVD+R	○*3	1 回
DVD+RW	○*1	繰り返し書き換え可能*2
DVD-RAM	○*1	繰り返し書き換え可能*2

- *1 使用するメディアによっては、読み出しができない場合があります。
- *2 実際に書き換える回数は、メディアの状態や書き込み方法により異なります。
- *3 メディアの状態や書き込み方法により、読み出しできない場合があります。また追記したデータは読み出しできません。

メモ 書き込みできるアプリケーション

- 書き込みに使用できる、本製品に添付のアプリケーションは次のとおりです。

レコードナウ
・ RecordNow!

参照 『オーディオ & ビジュアルガイド 11
オリジナル音楽 CD を作る』

《オンラインマニュアル (検索) :
CD / DVD を作りたい》

ダイアログ
・ DLA

参照 『オーディオ & ビジュアルガイド 13-③
編集した写真を CD / DVD にコピーする』

《オンラインマニュアル (検索) :
データを CD/DVD にコピーしたい》

ウィンドライブメーカー クリエイター プラチナム
・ WinDVD Creator 2 Platinum

参照 『オーディオ & ビジュアルガイド 8
映像を編集して DVD に残す』

『InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum』
のヘルプ

- メディアにデータを書き込むとき、メディアの状態やデータの内容、またはパソコンの使用環境によって、実行速度は異なります。

② 使える CD を確認しよう

お願い 使える CD のサイズ

- 本製品のドライブでは、12cm の CD のみ使用できます。8cm サイズや名刺サイズの CD は使用しないでください。8cm サイズや名刺サイズの CD を挿入した場合、取り出せなくなるおそれがあります。また、12cm に変換する市販のアダプタを使用した場合でも、使用できません。

【読み出しできる CD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- 音楽用 CD
12cm の音楽用 CD が聴けます。
- フォト CD
普通のカメラで撮影した写真の画像をデジタル化して記録したものです。
- CD-ROM
使用するシステムに適合する ISO 9660 フォーマットのもので使用できます。

- CD エクストラ
記録領域は音楽データ用とパソコンのデータ用に分けられています。それぞれの再生装置で再生できます。
- CD-R
- CD-RW

【書き込みできる CD】

- CD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。
- CD-RW

書き込み速度は、使用するメディアによって異なります。

CD-R メディア：最大 24 倍速

最大の倍速で書き込むためには書き込み速度に対応した CD-R メディアを使用してください。

マルチスピード CD-RW メディア：最大 4 倍速

High-Speed CD-RW メディア：最大 10 倍速

Ultra Speed CD-RW メディア：最大 10 倍速

Ultra Speed+CD-RW メディアは使用できません。使用した場合、データは保証できません。

お願い CD-RW、CD-R について

- CD-RW、CD-R に書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。

CD-RW (マルチスピード、High-Speed)

：三菱化学メディア (株)、(株) リコー

CD-RW (Ultra-Speed)

：三菱化学メディア (株)

CD-R：太陽誘電 (株)、三菱化学メディア (株)、(株) リコー、日立マクセル (株)

これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。

- CD-R に書き込んだデータの消去はできません。
- CD-RW メディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まず CD-RW メディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。「DLA」で CD-RW メディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- CD-RW の消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。
- 書き込み可能なドライブが複数台接続されている際には、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法

「6章 4 その他-Q セーフモードで起動した」

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込む際は、メディアの状態をよくご確認ください。

③ 使える DVD を確認しよう

お願い 使える DVD のサイズと書き込み速度

- 本製品のドライブでは、12cm の DVD のみ使用できます。8cm サイズや名刺サイズの DVD は使用しないでください。8cm サイズや名刺サイズの DVD を挿入した場合、取り出せなくなるおそれがあります。また、12cm に変換する市販のアダプタを使用した場合でも、使用できません。
- 本製品のドライブでは、書き込み 8 倍速までの DVD-R / DVD+R メディア、書き込み 2 倍速までの DVD-R DL メディア、書き込み 2.4 倍速までの DVD+R DL メディア、書き換え 4 倍速までの DVD-RW / DVD+RW メディア、書き換え 5 倍速までの DVD-RAM メディアを使用することができます。これらより速い書き込み倍速に対応したメディアを使用することはできません。

【読み出しできる DVD】

対応フォーマットによっては再生ソフトが必要な場合があります。

- DVD-ROM
- DVD-Video
(映像再生用です。映画などが収録されています。)
- DVD-R、DVD-R DL
- DVD+R、DVD+R DL
- DVD-RW
- DVD+RW
- DVD-RAM

【書き込みできる DVD】

- DVD-R
書き込みは 1 回限りです。書き込まれたデータの削除・変更はできません。DVD-R は、DVD-R for General Ver2.0 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-RW
DVD-RW は、DVD-RW Ver1.1 または Ver1.2 規格に準拠したメディアを使用してください。
- DVD-R DL
DVD-R DL (Double Layer) は、DVD-R の記録層を 2 つにして、片面に 2 層分の記録が可能な規格のことです。既存の 1 層の DVD-R メディアの記録容量 4.7GB の約 1.8 倍となる、8.5GB 分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2 の 5Mbps の映像データで、1 層の DVD-R メディアの時間が約 2 時間分なら DVD-R DL は約 3.6 時間分の記録が可能になります。ただし、Format 1 対応のため追記ができません。1 層の DVD-R メディアに収まる容量のデータを保存する場合は、追記できる DVD-R を使用することをおすすめします。
- DVD+R
- DVD+R DL
DVD+R DL (Double Layer) とは、DVD+R の記録層を 2 つにして、片面に 2 層分の記録が可能な規格のことです。既存の 1 層の DVD+R メディアの記録容量 4.7GB の約 1.8 倍となる、8.5GB 分の記録容量を実現します。例えば、MPEG2 の 5Mbps の映像データで、1 層の DVD+R メディアの時間が約 2 時間分なら DVD+R DL は約 3.6 時間分の記録が可能になります。
- DVD+RW

- DVD-RAM
DVD-RAMは、DVD-RAM Ver2.0、Ver2.1、Ver2.2規格に準拠したメディアを使用してください。

【DVD-RAMの種類】

DVD-RAMにはいくつかの種類があります。本製品のドライブで使用できるDVD-RAMは次のとおりです。カートリッジタイプのメディアは、カートリッジから取り出してドライブにセットしてください。両面ディスクで、読み出し／書き込みする面を変更するときは、一度ドライブからメディアを取り出し、裏返してセットし直してください。

○：使用できる ×：使用できない

DVD-RAMの種類	本製品の対応
カートリッジなし*1	○
カートリッジタイプ（取り出し不可）	×
カートリッジタイプ（取り出し可能）*2	○

- *1 一部の家庭用DVDビデオレコーダでは再生できない場合があります。
*2 2.6GB、5.2GBのディスクは書き込みできません。

新品のDVD-RAMは、使用する目的にあわせて「フォーマット」という作業が必要です。フォーマットとは、DVD-RAMにデータの管理情報（ファイルシステム）を記録し、DVD-RAMを使えるようにすることです。フォーマットされていないDVD-RAMは、フォーマットしてから使用してください。DVD-RAMのフォーマットについては、《オンラインマニュアル（検索）:DVD-RAMをフォーマットする》を確認してください。

お願い DVDについて

- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rに書き込む際には、次のメーカーのメディアを使用することを推奨します。
DVD-RAM：松下電器産業（株）、日立マクセル（株）
DVD-RW：日本ビクター（株）、三菱化学メディア（株）
DVD-R：松下電器産業（株）、太陽誘電（株）、日立マクセル（株）
DVD-R DL：三菱化学メディア（株）
DVD+RW：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
DVD+R：三菱化学メディア（株）、（株）リコー
DVD+R DL：三菱化学メディア（株）
これらのメーカー以外のメディアを使用すると、うまく書き込みができない場合があります。
- DVD-R、DVD+Rに書き込んだデータの消去はできません。
- DVD-RW、DVD+RWメディアは書き換え可能なメディアですが、「RecordNow!」で書き込んだファイルを変更したり、削除したりすることはできません。ファイルの変更・削除が必要な場合は、まずDVD-RW、DVD+RWメディアの消去を行い、改めて必要なファイルだけを書き込んでください。「DLA」でDVD-RW、DVD+RWメディアに書き込んだファイルは、変更・削除することができます。
- DVD-RW、DVD+RWの消去されたデータを復元することはできません。消去の際は、メディアの内容を十分に確認してから行ってください。

- 書き込み可能なドライブが複数台接続されているときには、書き込み・消去するメディアをセットしたドライブを間違えないよう十分に注意してください。
- DVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rへの書き込みでは、ファイルの管理領域など必要になるため、メディアに記載された容量分のデータを書き込めない場合があります。
- DVD-RW、DVD-Rへの書き込みでは、DVDの規格に準拠するため、書き込むデータのサイズが約1GBに満たない場合にはダミーのデータを加えて、最小1GBのデータに編集して書き込みます。このため、実際に書き込もうとしたデータが少ないにもかかわらず、書き込み完了までに時間がかかることがあります。
- ハードディスクに不良セクタがあると書き込みに失敗するおそれがあります。定期的に「エラーチェック」でクラスタのチェックを行うことをおすすめします。

参照 エラーチェックの方法

「6章 4 その他-Q セーフモードで起動した」

- ドライブの構造上、メディアの傷、汚れ、ホコリ、チリなどにより読み出し／書き込みができなくなる場合があります。データなどを書き込むときは、メディアの状態をよくご確認ください。
- DVD-RAMをドライブにセットしたとき、システムがDVD-RAMを認識するまでに多少時間がかかります。


メモ

- 市販のDVD-Rには業務用メディア（for Authoring）と一般用メディア（for General）があります。業務用メディアはパソコンのドライブでは書き込みすることができません。一般用メディア（for General）を使用してください。
- 市販のDVD-RAM、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+Rには「for Data」と「for Video」の2種類があります。映像を保存する場合や家庭用DVDビデオレコーダとの互換性を重視する場合は「for Video」を使用してください。
- 作成したDVDは、一部の家庭用DVDビデオレコーダやパソコンでは再生できないこともあります。作成したDVD+R DLメディアを再生するときは、DVD+R DLメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。また、DVD-R DLメディアを再生するときは、DVD-R DLメディアの読み取りに対応している機器を使用してください。

④ CD / DVDを使うとき（セット）

CD / DVDは、パソコン本体に装備されているドライブにセットして使用します。

お願い 操作にあたって

- CD/DVD  LEDが点灯しているときは、イジェクトボタンを押したり、CD / DVDを取り出す操作をしないでください。CD / DVDが傷ついたり、ドライブが壊れるおそれがあります。
- パソコン本体を持ち運ぶときは、ドライブにCD / DVDが入っていないことを確認してください。入っている場合は取り出してください。

- CD / DVD を取り出す場合、スロットの前に手をかざしたり、ものを置いたりしないでください。
- 本製品では、12cm の CD / DVD のみ使用できます。8cm サイズや名刺サイズの CD / DVD は使用できません。

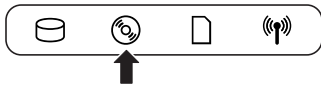


メモ セットする前に確認しよう

- 傷ついたり汚れのひどい CD / DVD の場合は、挿入してから再生が開始されるまで、時間がかかる場合があります。汚れや傷がひどいと、正常に再生できない場合もあります。汚れをふきとってから再生してください。
- CD / DVD の特性や CD / DVD への書き込み時の特性によって、読み出せない場合もあります。

ドライブに関する表示

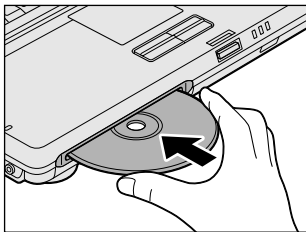
パソコンの電源が入っていて、ドライブが動作しているときは、CD/DVD LED が点灯します。



1 パソコン本体の電源を入れる

Windows が起動します。

2 文字が書いてある面を上にして、CD / DVD の両端をそっと持ち、水平方向に入れる



CD / DVD が自動的に中に吸い込まれるまで押ししてください。

このとき CD / DVD をスロットに対して斜めに入れたり、無理に押し込んで入れると、CD / DVD の表面に傷や汚れが付くことがあります。傷や汚れが付くと、CD / DVD を読み込むことや、書き込むことができなくなる原因となりますので、取り扱いには十分に気をつけてください。

CD / DVD を挿入すると、再生するアプリケーションを選択する画面が表示されます。

本製品のドライブでは、12cm の CD / DVD のみ使用できます。8cm サイズや名刺サイズの CD / DVD は使用しないでください。8cm サイズや名刺サイズの CD / DVD を挿入した場合、取り出せなくなるおそれがあります。また、12cm に変換する市販のアダプタを使用した場合でも、使用できません。

【「QosmioPlayer」を使うには】

「QosmioPlayer」を使って CD / DVD を再生する場合は、電源が入っていない状態で CD / DVD を挿入することができます。電源が入っていない状態で音楽 CD や DVD-Video などを入ると、「QosmioPlayer」が自動的に起動し、再生を開始します。「QosmioPlayer」については『オーディオ & ビジュアルガイド』を参照してください。

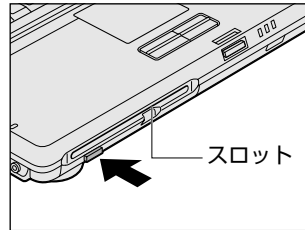
⑤ CD / DVD を使い終わったとき (取り出し)

イジェクトボタンを使う場合

1 パソコン本体の電源が入っているか確認する

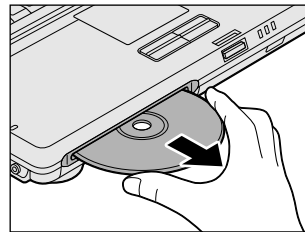
電源が入っていない場合は電源を入れてください。

2 イジェクトボタンを押す



CD / DVD が半分くらい出てきます。スロットの前に手をかざしたり、ものを置いたりしないでください。

3 CD / DVD の両端をそっと持ち、水平方向に取り出す



【CD / DVD が出てこない場合】

電源が入っていないときは、イジェクトボタンを押しても CD / DVD は出てきません。電源を入れてから、イジェクトボタンを押し、CD / DVD を取り出してください。

次の場合は、電源が入っていても、イジェクトボタンを押した後すぐに CD / DVD は出てきません。

- 電源を入れた直後
- 再起動した直後
- ドライブ関係の LED が点灯しているとき

上記以外で CD / DVD が出てこない場合、CD / DVD を使用しているアプリケーションがすべて終了しているか確認してください。

アプリケーションがすべて終了していても CD / DVD が出てこない場合は、近くの保守サービスに依頼してください。

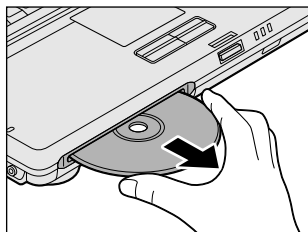
リモコンを使う場合

次の場合にのみ、リモコンの [取り出し] ボタンを押すと、CD / DVD を取り出すことができます。

- WinDVD 動作中
- BeatJam 動作中
- QosmioPlayer 動作中
- 電源が入っていない状態
- 休止状態

1 リモコンの [取り出し] ボタンを押す

2 CD / DVD の両端をそっと持ち、水平方向に取り出す

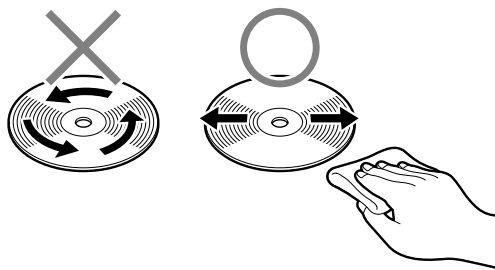


【CD / DVD が出てこない場合】

WinDVD、BeatJam、QosmioPlayer 動作時でも選択された画面になっていない場合は、リモコンの [取り出し] ボタンを押しても、CD / DVD は出てきません。必ず、選択された画面に切り替えてから、[取り出し] ボタンを押してください。

お願い CD / DVD の取り扱いと手入れ

- CD / DVD の内容は故障の原因にかかわらず保障いたしかねます。製品を長持ちさせ、データを保護するためにも、次のことを必ず守ってください。
 - ・ 傷、汚れをつけないよう、取り扱いには十分にご注意ください。
 - ・ CD / DVD を折り曲げたり、表面を傷つけたりしないでください。CD / DVD を読み込むことができなくなります。
 - ・ CD / DVD を直射日光が当たるところや、極端に暑かったり寒かったりする場所に置かないでください。また、CD / DVD の上に重いものを置かないでください。
 - ・ CD / DVD は専用のケースに入れ、清潔に保護してください。
 - ・ CD / DVD を持つときは、外側の端か、中央の穴のところに持つようにしてください。データ記憶面に指紋をつけてしまうと、正確にデータが読み取れなくなることがあります。
 - ・ CD / DVD のデータ記憶面 / レーベル面ともにラベルを貼らないでください。
 - ・ CD / DVD のデータ記憶面に文字などを書かないでください。
 - ・ CD / DVD のレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンなどを使用してください。ボールペンなど、先の硬いものを使用しないでください。
 - ・ CD / DVD が汚れたりホコリをかぶったりしたときは、乾燥した清潔な布でふき取ってください。ふき取りは円盤に沿って環状にふくのではなく、円盤の中心から外側に向かって直線状にふくようにし、乾燥した布ではふき取れない場合は、水か中性洗剤で湿らせた布を使用してください。ベンジンやシンナーなどの薬品は使用しないでください。



4

画面を見やすく調整する

－ ディスプレイ －

本製品は表示装置として TFT カラー液晶ディスプレイ (1440 × 900 ドット) を内蔵しています。ドットは画素数を表します。

テレビや外部ディスプレイを接続して使用することもできます。

参照 テレビの接続について
「3章 5 パソコンの画面をテレビに映す」

参照 外部ディスプレイの接続について
「3章 6 パソコンの画面を外部ディスプレイに映す」

表示について

TFT カラー液晶ディスプレイは非常に高度な技術を駆使して作られています。非点灯、常時点灯などの表示 (画素) が存在することがありますが故障ではありません。あらかじめご了承ください。

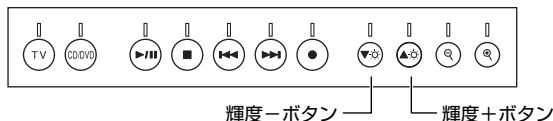
① 画面の明るさを調整する

本体液晶ディスプレイの明るさ (輝度) を調整します。輝度は「1～8」の8段階で設定ができます。初期状態では、「8」(最高輝度) に設定されています。明るさを変えたい場合は、次の方法でお好みの明るさに調整してください。

【輝度の調整方法】

輝度の調整方法は、次の3つがあります。

- 本体の輝度+ボタンまたは輝度-ボタンを使う



参照 「1章 1 ①-3 フロントオペレーションパネル」

- (FN)+(F6)キーまたは(FN)+(F7)キーを使う

参照 《オンラインマニュアル (検索) :
[FN] キーを使った特殊機能キー》

- リモコンの [(輝度) ^] ボタンまたは、[(輝度) v] ボタンを使う

参照 『オーディオ & ビジュアルガイド 付録 2
リモコン操作一覧 (Windows XP)』

お願い 液晶ディスプレイの取り扱い

画面の手入れ

- 画面の表面には偏光フィルムが貼られています。このフィルムは傷つきやすいので、むやみに触れないでください。
表面が汚れた場合は、柔らかくきれいな布でふき取ってください。水や中性洗剤、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんなどは使用しないでください。
- 無理な力の加わる扱いかた、使いかたをしないでください。
液晶ディスプレイは、ガラス板間に液晶を配向処理して注入してあります。強い力を加えると配向が乱れ、発色や明るさが変わって元に戻らなくなる場合があります。また、ガラス板を破損するおそれもあります。
- 水滴などが長時間付着すると、変色やシミの原因になるので、すぐにふき取ってください。

残像防止について

- 長時間同じ画面を表示したままにしていると、画面表示を変えたときに前の画面表示が残ることがあります。この現象を残像といいます。残像は、画面表示を変えることで徐々に解消されますが、あまり長時間同じ画面を表示すると画像が消えなくなりますので、同じ画面を長時間表示するような使いかたは避けてください。
また、次の機能を利用すると、残像防止ができます。
 - ・スクリーンセーバーを設定する
スクリーンセーバーの設定方法については、[スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。
 - ・「東芝省電力」で「モニタの電源を切る」を設定する

参照 東芝省電力 《オンラインマニュアル (検索) :
省電力の設定をする》

5

いろいろなメディアカードを使う

－ ブリッジメディアスロット －

本製品では次のメディアをブリッジメディアスロットに差し込んで、データの読み出しや書き込みができます。

- SD メモリカード
- SDIO カード
- メモリースティック PRO
- メモリースティック
- xD-ピクチャーカード
- マルチメディアカード

① SD メモリカードを使う前に

お願い SD メモリカードの使用にあたって

- 本製品は、1GB までの SD メモリカードを使用できます。
- すべての SD メモリカードの動作確認は行っていません。したがって、すべての SD メモリカードの動作保証はできません。
- SD メモリカードは、SDMI の取り決めに従って、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐための著作権保護技術を搭載しています。そのため、他のパソコンなどで取り込んだデータが著作権保護されている場合は、本製品でコピー、再生することはできません。SDMI とは Secure Digital Music Initiative の略で、デジタル音楽データの著作権を守るための技術仕様を決めるための団体のことです。
- あなたが記録したものは、個人として楽しむなどの場合は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- SD メモリカードは、デジタル音楽データの不正なコピーや再生を防ぐ SDMI に準拠したデータを取り扱うことができます。メモリの一部を管理データ領域として使用するため、使用できるメモリ容量は表示の容量より少なくなっています。
- SDIO カードを使用する場合、必ず本製品で動作が確認されている製品*1 を使用してください。その他の SDIO カードを使用すると、システムの動作が不安定になることがあります。

*1 2005 年 9 月現在、弊社製 SDIO カード「Bluetooth™ SD カード 2」(型番: PABSD001)、「Bluetooth™ SD カード 3」(型番: PA3370N) のみ対応しています。

新品の SD メモリカードは、SD メモリカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。フォーマットとは、SD メモリカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、SD メモリカードを使えるようにすることです。再フォーマットをする場合は、「東芝 SD メモリカードフォーマット」または SD メモリカードを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。「東芝 SD メモリカードフォーマット」については、《オンラインマニュアル（検索）：SD メモリカードをフォーマットする》をご覧ください。

② メモリースティックを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、Memory Stick Specification V1.3 準拠のメモリースティックを取り付けて使用できます。

使用できるメモリースティックの種類は次のとおりです。

- メモリースティック
- メモリースティック PRO

お願い メモリースティックの使用にあたって

- 本製品は、次の容量までのメモリースティックを使用できます。
 - ・メモリースティック : 256MB まで
 - ・メモリースティック PRO : 1GB まで
- 本製品は、メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo とメモリースティックアダプタには対応していません。
- 本製品は、著作権保護技術 MagicGate には対応していません。本製品では、著作権保護を必要としないデータの読み出し／書き込みのみできます。
- すべてのメモリースティックの動作確認は行っていません。したがって、すべてのメモリースティックの動作は保証できません。
- メモリースティックの詳しい使いかたなどについては『メモリースティックに付属の説明書』を確認してください。

新品のメモリースティックは、メモリースティックの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。フォーマットとは、メモリースティックにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、メモリースティックを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、メモリースティックを使用する機器（デジタルカメラやオーディオプレーヤなど）で行ってください。

メモリースティックを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

③ xD-ピクチャーカードを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、xD-ピクチャーカードを取り付けて使用できます。

お願い xD-ピクチャーカードの使用にあたって

- 本製品は、1GBまでのxD-ピクチャーカードを使用できます。
- すべてのxD-ピクチャーカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのxD-ピクチャーカードの動作は保証できません。
- xD-ピクチャーカードの詳しい使いかたなどについては『xD-ピクチャーカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のxD-ピクチャーカードは、xD-ピクチャーカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、xD-ピクチャーカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、xD-ピクチャーカードを使えるようにすることです。

再フォーマットをする場合は、xD-ピクチャーカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。

xD-ピクチャーカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

④ マルチメディアカードを使う前に

本製品のブリッジメディアスロットでは、マルチメディアカードを取り付けて使用できます。

お願い マルチメディアカードの使用にあたって

- 本製品は、512MBまでのマルチメディアカードを使用できます。
- 本製品は、著作権保護機能付きのマルチメディアカードであるSecureMMCは対応していません。
- すべてのマルチメディアカードの動作確認は行っていません。したがって、すべてのマルチメディアカードの動作は保証できません。
- マルチメディアカードの詳しい使いかたなどについては『マルチメディアカードに付属の説明書』を確認してください。

新品のマルチメディアカードは、マルチメディアカードの規格にあわせてフォーマットされた状態で販売されています。

フォーマットとは、マルチメディアカードにトラック番号やヘッド番号などの基本情報を書き込み、マルチメディアカードを使えるようにすることです。

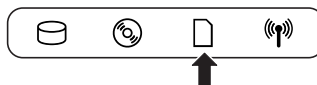
再フォーマットをする場合は、マルチメディアカードを使用する機器（デジタルカメラなど）で行ってください。

マルチメディアカードを使用する機器でのフォーマット方法については、『使用する機器に付属の説明書またはヘルプ』を確認してください。

⑤ メディアのセットと取り出し

ブリッジメディアスロットに関する表示

パソコン本体に電源が入っている場合、ブリッジメディアスロットに挿入したメディアとデータをやり取りしているときは、ブリッジメディアLEDが点灯します。



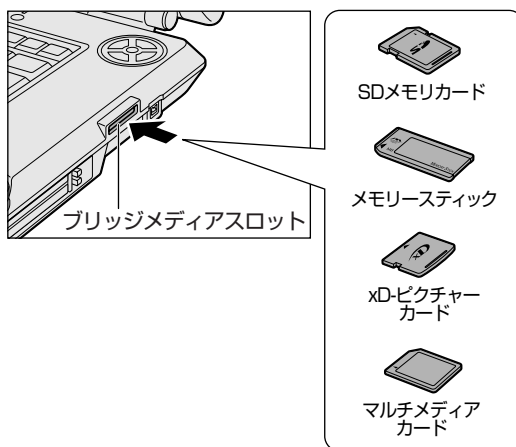
お願い 操作にあたって

- ブリッジメディアLEDが点灯中は、電源を切ったり、メディアを取り出したり、パソコン本体を動かしたりしないでください。データやメディアが壊れるおそれがあります。
- メディアは無理な力を加えず、静かに挿入してください。正しく挿し込まれていない場合、パソコンの動作が不安定になったり、メディアが壊れるおそれがあります。
- スタンバイ中は、メディアを取り出さないでください。データが消失するおそれがあります。
- メディアのコネクタ部分（金色の部分）には触れないでください。静電気で壊れるおそれがあります。
- メディアを取り出す場合は、必ず使用停止の手順を行ってください。データが消失したり、メディアが壊れるおそれがあります。

1 セットする


1 メディアの表裏を確認し、表を上にして、ブリッジメディアスロットに挿入する

奥まで挿入します。



2 取り出す

1 メディアの使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする



- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずすメディア) - ドライブを安全に取り外します] をクリックする

XXXX 部分は、メディアの種類によって異なります。

SD メモリカード

: Secure Digital Storage Device

メモリースティック

: MemoryStick2 Device

メモリースティック PRO


: MemoryStickPro2 Device

xD-ピクチャーカード

: XD2 Device

マルチメディアカード

: MMC3 Device

- ③ 「安全に取り外すことができます」 のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

メディアに保存しているファイルなどを開いていると、取りはずすできません。ファイルを閉じてから、操作をやり直してください。

2 メディアを押す

カードが少し出てきます。そのまま手で取り出します。

3 セットしたメディアの内容を見る

著作権保護*1 を必要としない画像や音声、テキストなどの一般的なファイルは、次の手順で見ることができます。

*1 SDメモリカード、メモリースティックの場合

1 [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする

[マイコンピュータ] 画面が表示されます。

2 メディアのアイコンをダブルクリックする

SDメモリカード : SD記憶装置デバイス

メモリースティック : Memory Stick

メモリースティック PRO : Memory Stick PRO Card

xD-ピクチャーカード : XD Picture Card

マルチメディアカード : MMC Card

セットしたメディアの内容が表示されます。

2 章

ネットワークの世界へ

本製品に内蔵されている通信に関する機能を説明しています。

ブロードバンドでインターネットに接続する方法や、他のパソコンと通信する方法、海外でインターネットに接続するときについて紹介します。

- | | | |
|---|-----------------|----|
| 1 | インターネットへ接続する | 30 |
| 2 | 家庭内ネットワークで広がる世界 | 34 |

1

インターネットへ接続する

インターネットにパソコンをつなぐと、ホームページを閲覧したり、オンラインショッピングやメールのやりとりができるようになります。

インターネットへの接続は、ADSL や光ファイバーなどを使った高速の「ブロードバンド接続」と一般の電話回線を使った低速の「ダイヤルアップ接続」などがあります。接続に必要なネットワーク機器や設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

インターネットへ接続するには、次の操作を行ってください。

LAN ケーブルまたはモジュラーケーブルを接続する

- ・ LAN ケーブルの接続

参照 「本節 ① ブロードバンドで接続する」

- ・ モジュラーケーブルの接続

参照 「本節 ② ダイヤルアップ接続をする」

インターネットとメールの設定をする

- ・ インターネットの設定

参照 《できる dynabook 第3章
dynabook をインターネットにつなごう》

- ・ メールの設定

参照 《できる dynabook 第4章
メールを使ってみよう》

パソコンをインターネットに接続する前に、コンピュータウイルスへの対策を行ってください。コンピュータウイルスとは、パソコンにトラブルを発生させるプログラムのことで、ハードディスクやデータの一部を破壊するものもあります。

本製品には、ウイルスチェックソフトとして「ノートン、インターネット、セキュリティNorton Internet Security」、マカフィー・ウイルススキャン (McAfee VirusScan) / マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス (McAfee Personal Firewall Plus) が用意されています。『セットアップガイド 2 章』をお読みになり、必ずウイルスチェックソフトのインストールと設定を行い、定期的にウイルスチェックを行ってください。設定したソフトは常に最新のバージョンに更新するようにしてください。

参照 コンピュータウイルスについて

『セットアップガイド 2 章

1 ウイルス感染や不正アクセスを防ぐには』

① ブロードバンドで接続する

本製品には、ブロードバンド接続などに使用する LAN 機能が内蔵されています。

本製品の LAN コネクタに ADSL モデムやケーブルモデムなどを LAN ケーブルで接続し、ブロードバンドでインターネットに接続することができます。

また、本製品の LAN 機能は、Fast Ethernet (100BASE-TX)、Ethernet (10BASE-T) に対応しています。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続し、ネットワークに接続することができます。LAN コネクタに LAN ケーブルを接続すると、Fast Ethernet / Ethernet を自動的に検出して切り替えます。

1 LAN ケーブルを接続する

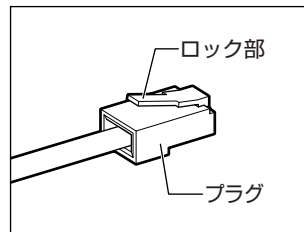
お願い LAN ケーブルの使用にあたって

- ・ LAN ケーブルは市販のものを使用してください。モジュラーケーブルは、アナログ電話回線専用です。LAN コネクタには接続できません。
- ・ LAN ケーブルをパソコン本体の LAN コネクタに接続した状態で、LAN ケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。LAN コネクタが破損するおそれがあります。

LAN インタフェースを 100BASE-TX 規格 (100Mbps) で使用するときは、必ずカテゴリ 5 (CAT5) 以上のケーブルおよびコネクタを使用してください。

10BASE-T 規格 (10Mbps) で使用するときは、カテゴリ 3 (CAT3) 以上のケーブルが使用できます。カテゴリとは、ネットワークで使用されるケーブルの種類を分類したもので、大きい数字ほど性能が高くなります。

LAN ケーブルをはずしたり差し込むときは、プラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、プラグのロック部を押しながらずしてください。ケーブルを引っ張らないでください。

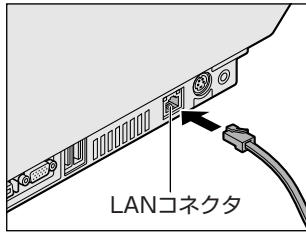


1 パソコン本体に接続されているすべての周辺機器の電源を切る

2 LAN ケーブルのプラグをパソコン本体の LAN コネクタに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

LAN ケーブルとモジュラーケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、LAN ケーブルのほうが大きいです。ケーブルを接続するときは、LAN コネクタとモジュラージャックの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。

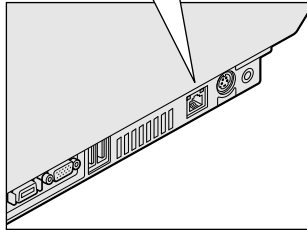
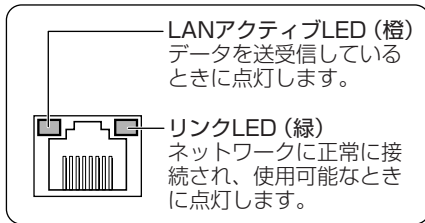


3 LANケーブルのもう一方のプラグを接続先のネットワーク機器のコネクタに差し込む

接続する機器の名称や以降の設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。

動作状態を確認するには

LANコネクタの両脇には、LANインタフェースの動作状態を示す2つのLEDがあります。



2 ADSL接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダにADSL接続するための一般的な方法について説明します。接続に必要な設定はプロバイダによって異なります。詳しくは契約しているプロバイダに問い合わせてください。プロバイダから、接続に必要なCD-ROMなどが支給されている場合は、そちらをご利用ください。設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ネットワーク接続] をクリックする

3 画面左側の [ネットワークタスク] で [新しい接続を作成する] をクリックする

[新しい接続ウィザードの開始] 画面が表示されます。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク接続の種類] 画面が表示されます。

5 [インターネットに接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

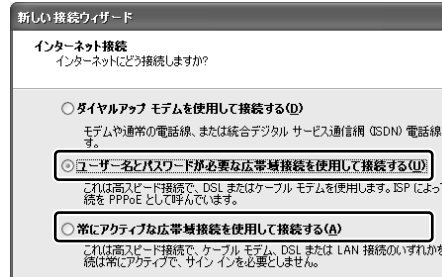
[準備] 画面が表示されます。

6 [接続を手動でセットアップする] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[インターネット接続] 画面が表示されます。

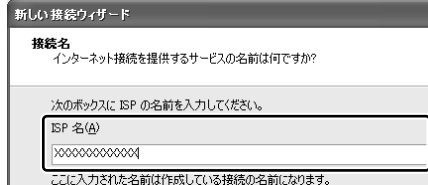
7 ご契約のタイプにあわせて項目を選択し、[次へ] ボタンをクリックする

- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が必要な場合：(例:フレッツADSLなど)
[ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する] をチェックしてください。
- インターネット接続にユーザー名やパスワードの入力が不要の場合：(例:YahooBBなど)
[常にアクティブな広帯域接続を使用して接続する] をチェックしてください。こちらを選択した場合、以降は表示される画面の指示に従ってください。



[接続名] 画面が表示されます。

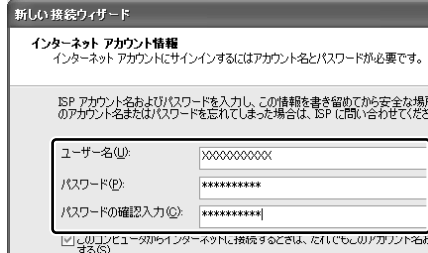
8 [ISP名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックする



[インターネットアカウント情報] 画面が表示されます。

9 [ユーザー名] にプロバイダのアカウント名、[パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。



[新しい接続ウィザードの完了] 画面が表示されます。

10 [完了] ボタンをクリックする

[XXXXXへ接続] 画面が表示されます。インターネットへ接続する場合は [接続] ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

② ダイヤルアップ接続をする

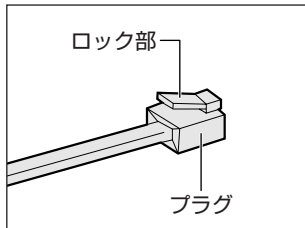
本製品の内蔵モデムを使って、ダイヤルアップ接続でインターネットに接続することができます。内蔵モデムを使用する場合、モデムケーブルを2線式の電話回線に接続します。内蔵モデムは、ITU-T V.90に準拠しています。通信先のプロバイダがV.90以外の場合は、最大33.6Kbpsで接続されます。

お願い 内蔵モデムの操作にあたって

- モデムケーブルは市販のものを使用してください。
- モデムケーブルをパソコン本体のモデムジャックに接続した状態で、モデムケーブルを引っ張ったり、パソコン本体の移動をしないでください。モデムジャックが破損するおそれがあります。
- 市販の分岐アダプタを使用して他の機器と並列接続した場合、本モデムのデータ通信や他の機器の動作に悪影響を与えることがあります。
- 回線切換器を使用する場合は、両切り式のもの（未使用機器から回線を完全に切り離す構造のもの）を使用してください。

1 モデムケーブルを接続する

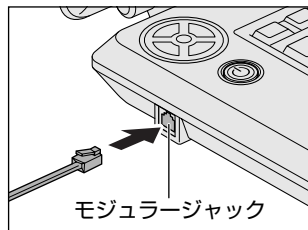
モデムケーブルをはずしたり差し込むときは、モデムプラグの部分を持って行ってください。また、はずすときは、ジャックプラグのロック部を押しながらずして行ってください。ケーブルを引っ張らないでください。



1 モデムケーブルのプラグの一方をパソコン本体のモデムジャックに差し込む

ロック部を上にして、「カチッ」と音がするまで差し込んでください。

LANケーブルとモデムケーブルのプラグは形状が非常に似ていますが、プラグの部分の大きさは、モデムケーブルのほうが小さいです。ケーブルを接続するときは、LANコネクタとモデムジャックの大きさをよくご確認のうえ、接続してください。



2 もう一方のモデムケーブルのプラグを電話機用モデムジャックに差し込む

2 ダイヤルアップ接続を設定する方法

ここでは、すでに契約しているプロバイダにダイヤルアップ接続するための方法について説明します。設定は「コンピュータの管理者アカウント」で行ってください。「制限付きアカウント」では作成できません。設定に必要なアカウント名、パスワード、アクセスポイントの電話番号などについては契約しているプロバイダに問い合わせください。

1 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

2 [ネットワーク接続] をクリックする

3 画面左側の [ネットワークタスク] で [新しい接続を作成する] をクリックする

[新しい接続ウィザードの開始] 画面が表示されます。

4 [次へ] ボタンをクリックする

[ネットワーク接続の種類] 画面が表示されます。

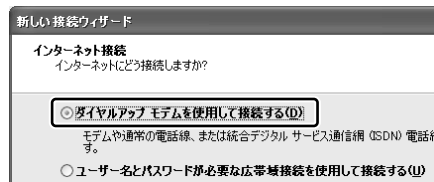
5 [インターネットに接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

[準備] 画面が表示されます。

6 [接続を手動でセットアップする] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする

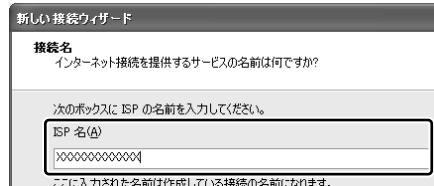
[インターネット接続] 画面が表示されます。

7 [ダイヤルアップモデムを使用して接続する] をチェックし、[次へ] ボタンをクリックする



[接続名] 画面が表示されます。

8 [ISP名] に任意の名前を入力し、[次へ] ボタンをクリックする



[ダイヤルする電話番号] 画面が表示されます。

9 [電話番号] にプロバイダのアクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ] ボタンをクリックする

電話番号などについては、契約しているプロバイダに問い合わせてください。

[インターネットアカウント情報] 画面が表示されます。

10 [ユーザー名] にプロバイダのアカウント名、[パスワード] と [パスワードの確認入力] にパスワードを入力し、[次へ] ボタンをクリックする

アカウント名、パスワードなどについては、契約しているプロバイダに問い合わせください。

ここでパスワードの入力を行わなかった場合、インターネット接続時にパスワードの入力が必要になります。

[新しい接続ウィザードの完了] 画面が表示されます。

11 [完了] ボタンをクリックする

[XXXXX へ接続] 画面が表示されます。

インターネットへ接続する場合は [ダイヤル] ボタンをクリックし、接続しない場合は画面を閉じてください。

3 海外でインターネットに接続するときには

本製品の内蔵モデムで使用できる国/地域については、「付録 1 技術基準適合について」を参照してください。

海外でモデムを使用する場合、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」による地域設定を行います。設定方法については、《オンラインマニュアル（検索）：海外でインターネットに接続したい》をご覧ください。

本製品を日本で使用する場合は、必ず日本モードで使用してください。他地域のモードで使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

地域設定は、「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」でのみ行ってください。

「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」以外で地域設定の変更をした場合、正しく変更できない場合があります。

2

家庭内ネットワークで広がる世界

家族がそれぞれ別のパソコンでインターネットやプリンタを使いたいときは、ネットワークを使うと便利です。

① LAN 接続はこんなに便利

家族がそれぞれ自分専用のパソコンを持っていて、家庭内に複数のパソコンがあったり、ひとりで複数のパソコンを持っている場合には、LAN (Local Area Network) を使うと便利です。

パソコン同士をつないで LAN を構築すれば、SD メモリカードなどのメディアを介さずにパソコン同士で直接データのやりとりができたり、インターネットやプリンタ、スキャナーなどの周辺機器を複数のパソコンで共有して、同時に使うことができます。

LAN 機能にはケーブルを使った有線 LAN と、ケーブルを使わない無線 LAN があります。

有線 LAN の機能や LAN ケーブルの接続については、「本章 1-① ブロードバンドで接続する」を参照してください。ネットワークに接続する場合は、ネットワークの設定を行う必要があります。ネットワーク機器の接続先やネットワークの詳しい設定については、「スタート」→「ヘルプとサポート」をクリックして、『ヘルプとサポートセンター』を参照してください。

また、会社や学校で使用する場合は、ネットワーク管理者に確認してください。

② ワイヤレス (無線) LAN を使う

無線 LAN とは、パソコンに LAN ケーブルを接続しない状態で使用できる、ワイヤレスの LAN 機能のことです。モデムやルータの位置とは関係なく、無線通信のエリア内であればあらゆる場所からコンピュータを LAN システムに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント (市販) を使用することによって、パソコンからワイヤレスでネットワーク環境を実現できます。

1 無線 LAN の概要

本製品には、IEEE802.11b、IEEE802.11g に準拠した無線 LAN モジュールが内蔵されています。次の機能をサポートしています。

- 規格値 54Mbps 無線 LAN 対応 (IEEE802.11g の場合) *1
- 規格値 11Mbps 無線 LAN 対応 (IEEE802.11b の場合) *1
- 周波数チャネル選択 (2.4GHz / 5GHz 帯)
- マルチチャネル間のローミング
- パワーマネージメント
- セキュリティ機能 (WEP128bit, WPA, AES)

*1 表示の数値は、無線 LAN 規格の理論上の最大値であり、実際のデータ転送速度を示すものではありません。

【無線 LAN の種類】

無線 LAN は、IEEE802.11b、IEEE802.11g に準拠する無線ネットワークです。

- IEEE802.11g では「直交周波数分割多重方式」(Orthogonal Frequency Devision Multiplexing, OFDM)、IEEE802.11b では「直接拡散方式」(Direct Sequence Spread Spectrum, DSSS) を採用し、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN システムと完全な互換性を持っています。
- Wi-Fi Alliance 認定の Wi-Fi (Wireless Fidelity) ロゴを取得しています。Wi-Fi ロゴは、IEEE802.11 に準拠する他社の無線 LAN 製品との通信が可能な無線機器であることを意味します。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴは Wi-Fi Alliance の認定マークです。

お願い

無線 LAN 製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

(お客様の権利 (プライバシー保護) に関する重要な事項です!)

無線 LAN では、LAN ケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコンなどと無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由に LAN 接続が可能であるという利点があります。その反面、電波はある範囲内であれば障害物 (壁など) を超えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- ・ 通信内容を盗み見られる
悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、ID やパスワードまたはクレジットカード番号などの個人情報、メールの内容などの通信内容を盗み見られる可能性があります。
- ・ 不正に侵入される
悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す (情報漏洩) 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す (なりすまし) 傍受した通信内容を書き換えて発信する (改ざん) コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する (破壊) などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線 LAN カードや無線アクセスポイントは、これら問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っているので、無線 LAN 製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解したうえで、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

お願い 暗号化

- WEP（暗号化）機能を使用しないと、無線LAN経由で部外者による不正アクセスが容易に行えるため、不正侵入や盗聴、データの消失、破壊などにつながる危険性があります。そのためWEP機能を設定されることを強くおすすめします。

参照 WEP機能の設定《オンラインマニュアル（検索）：WEP機能を設定する》

お願い 無線LANを使用するにあたって

- 無線LANの無線アンテナは、できるかぎり障害物が少なく見通しのきく場所で最も良好に動作します。無線通信の範囲を最大限有効にするには、ディスプレイを開き、本や分厚い紙の束などの障害物でディスプレイを覆わないようにしてください。また、パソコンとの間を金属板で遮へいしたり、無線アンテナの周囲を金属性のケースなどで覆わないようにしてください。
- 無線LANは無線製品です。各国/地域で適用される無線規制については、《オンラインマニュアル（検索）：無線LANについて》を確認してください。
- 本製品の無線LANを使用できる地域については、「付録2-1 ご使用になれる国/地域について」を確認してください。

2 無線LANを使ってみよう

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ること
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い 操作にあたって

- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

無線LAN機能とBluetooth機能の切り替え

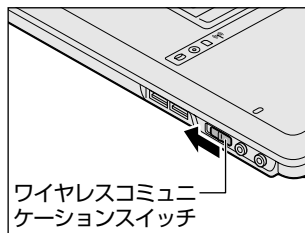
- ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、(FN)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能を切り替えます。

無線LANを使うためには、あらかじめWindows XPの無線LANネットワークの基本的な設定をしておく必要があります。

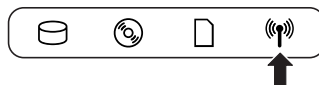
参照 無線LANネットワークの基本設定《オンラインマニュアル（検索）：無線LANの基本設定》

ここでは、無線LANの一般的な設定方法について説明します（Windows XP Service Pack2が適用された環境の設定方法です）。ウィザードから設定する場合は、《オンラインマニュアル（検索）：無線LANの基本設定》をご覧になり、設定を行ってください。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション LEDが点灯します。



無線LAN機能が起動します。無線LAN機能が起動すると、パソコンは自動的に利用できるネットワークを検索します。利用できるネットワークが検出された場合、通知領域にメッセージが表示されます。

2 [スタート] → [コントロールパネル] をクリックし、[ネットワークとインターネット接続] をクリックする

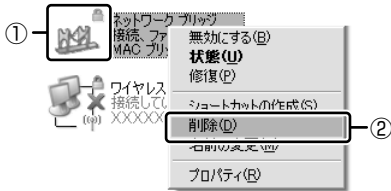
3 [ネットワーク接続] をクリックする

4 [ネットワーク接続] 画面に [ネットワークブリッジ] アイコンがあるか確認する

[ネットワークブリッジ] アイコンが表示されている場合は手順5へ、表示されていない場合は、手順7へ進んでください。

5 [ネットワークブリッジ] アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから[削除]をクリックする②

通常ネットワークブリッジは使用しませんが、設定を行なっている場合は削除しないでください。ここでの手順は一般的な無線 LAN の設定方法になります。

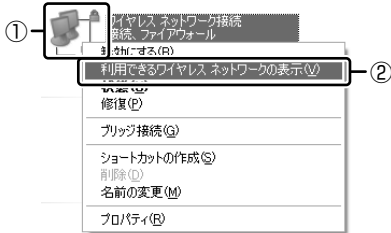


[接続の削除の確認] 画面が表示されます。

6 [はい] ボタンをクリックする

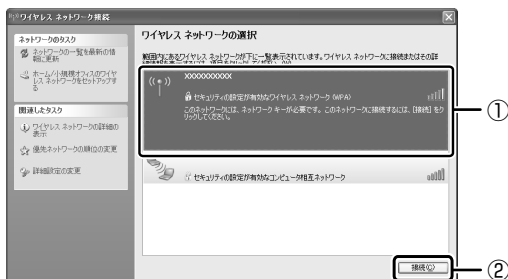
削除には約 30 秒かかります。

7 [ワイヤレスネットワーク接続] アイコンを右クリックし①、表示されたメニューから[利用できるワイヤレスネットワークの表示]をクリックする②



[ワイヤレスネットワーク接続] 画面が表示されます。

8 [ワイヤレスネットワークの選択] の使いたいネットワークを選択し①、[接続] ボタンをクリックする②



[ワイヤレスネットワークの設定] に使いたいネットワークが表示されない場合は、《オンラインマニュアル(検索)：無線 LAN の基本設定》をご覧になり、設定を行ってください。

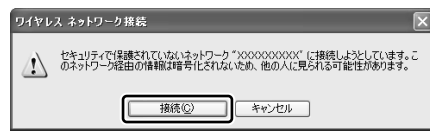
【暗号化 (WEP 機能) を設定している場合】

「ネットワーク「XXXXXX」(接続するネットワーク名) にはネットワークキー (WEP キーまたは WPA キー) が必要です。 . . . 」のメッセージ画面が表示されます。 [ネットワークキー] と [ネットワークキーの確認入力] にキーを入力し、[接続] ボタンをクリックしてください。

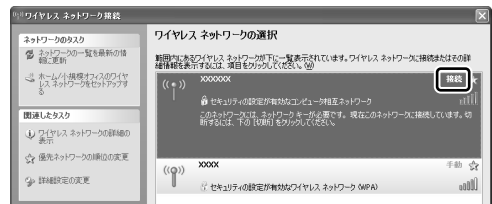


【暗号化 (WEP 機能) を設定していない場合】

「セキュリティで保護されていないネットワーク「XXXX XXX」(接続するネットワーク名) に接続しようとしています。 . . . 」のメッセージ画面が表示されます。 [接続] ボタンをクリックしてください。



正常に接続されるとネットワーク名の右側に「接続」または「接続済み」と表示されます。



9 [ワイヤレスネットワーク接続] 画面を閉じる

10 [ネットワーク接続] 画面で [ワイヤレスネットワーク接続] アイコンをダブルクリックする



[ワイヤレスネットワーク接続の状態] 画面が表示されます。

11 [サポート] タブで [IP アドレス] で取得している IP アドレスが正常な範囲のものか確認する

一般的に正常な範囲のアドレスは「192.168.XXX.XXX」の範囲です。



役立つ操作集

通信状態を確認する

【ワイヤレスネットワーク接続】アイコンをクリックすると【ワイヤレスネットワーク接続の状態】画面が表示され、接続の状態、接続継続時間、通信速度、シグナルの強さなど動作状況がわかります。

その他の無線 LAN ネットワークの接続方法については、《オンラインマニュアル（検索）：無線 LAN》を参照して、設定を行ってください。

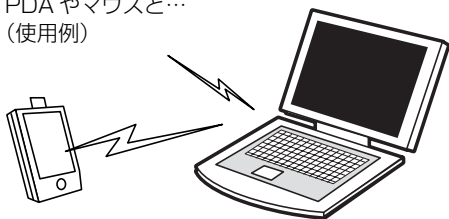
③「Bluetooth」を試してみる

* Bluetooth モデルのみ

1 「Bluetooth」ってどういうもの？

Bluetooth とは、無線通信方法の 1 つです。Bluetooth 対応機器同士で電波を使ってデータや音声をやりとりできます。複雑なネットワーク設定やケーブル接続が不要なので、近い距離で手軽に通信できます。たとえば、SD カードタイプの Bluetooth 通信カードを装着した PDA とデータをやり取りしたり、Bluetooth 対応のマウスを利用したりできます。

- PDA やマウスと…
(使用例)



また、Bluetooth 対応機器同士でネットワークを組むこともできます。その場合、ネットワークの中心となる Bluetooth 対応機器 1 台（マスタデバイス）と、それに応答する Bluetooth 対応機器 7 台（スレーブデバイス）で最大で 8 台の構成になります。2 つ以上のネットワークに同時に参加することもできます。

お願い Bluetooth を使用するにあたって

- 本製品は、すべての Bluetooth 対応機器との接続動作を確認したものではありません。また、すべての Bluetooth 対応機器との動作を保証することはできません。
- 本製品の Bluetooth 機能を使用できる地域については、「付録 3-1 ご使用になれる国／地域について」を確認してください。

メモ

- Bluetooth のバージョンによっては本製品と通信できない Bluetooth 対応機器があります。本製品では、Bluetooth Version 1.1、1.2、2.0、2.0+EDR の Bluetooth 対応機器と通信ができます。
- 2.4GHz 帯の無線 LAN が近距離で使用されていると通信速度の低下または通信エラーが発生する可能性があります。

【サポートしているプロファイル一覧】

本製品でサポートしている Bluetooth プロファイルは次のとおりです。

- ダイアルアップネットワークングプロファイル (DUN)
ダイアルアップで接続するプロファイルです。
- FAX プロファイル (FAX)
ファックスを転送するプロファイルです。
- LAN アクセスプロファイル (LAP)
アクセスポイントに接続するプロファイルです。
- シリアルポートプロファイル (SPP)
シリアルポートを使って接続するプロファイルです。
- ヒューマンインタフェースデバイスプロファイル (HID)
マウスやキーボードを接続するプロファイルです。
- ハードコピーケーブルリプレースメントプロファイル (HCRP)
印刷を行うプロファイルです。
- ファイル転送プロファイル (FTP)
ファイルを転送するプロファイルです。
- オブジェクトプッシュプロファイル (OPP)
vCard などのフォーマットのファイルを交換するプロファイルです。
- ジェネリックアクセスプロファイル (GAP)
Bluetooth の環境設定を変更するプロファイルです。
- サービスディスカバリーアプリケーションプロファイル (SDAP)
SDP を制御するアプリケーションに関するプロファイルです。
- サービスディスカバリープロトコル (SDP)
サービスを探すプロトコルです。
- アドバンストオーディオディストリビューションプロファイル (A2DP)
高品質のオーディオを転送するプロファイルです。
- オーディオ／ビデオリモートコントロールプロファイル (AVRCP)
オーディオ・ビデオのリモコンに関するプロファイルです。
- ジェネリックオーディオ／ビデオディストリビューションプロファイル (GAVDP)
オーディオ・ビデオコンテンツを転送するプロファイルです。
- パーソナルエリアネットワークングプロファイル (PAN)
IP ベースのネットワークをサポートするプロファイルです。
- ベーシックイメージングプロファイル (BIP)
画像ファイルを送受信するプロファイルです。

Bluetooth を利用して Pocket PC と ActiveSync を行うことが可能です。シリアルポートを利用する場合には、通常は COM7 ポートを指定することができます。

警告

- パソコン本体を航空機に持ち込む場合、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオフ（手前側）にし、必ずパソコン本体の電源を切ること
ワイヤレスコミュニケーションスイッチをオンにしたまま持ち込むと、パソコンの電波により、計器に影響を与える場合があります。また、航空機内でのパソコンのご使用は、必ず航空会社の指示に従ってください。

お願い 操作にあたって

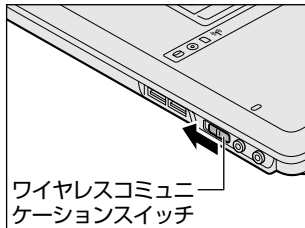
- Bluetoothと無線LANは同じ無線周波数帯を使用するため、同時に使用すると電波が干渉し合い、通信速度の低下やネットワークが切断される場合があります。接続に支障がある場合は、今お使いのBluetooth、無線LANのいずれかの使用を中止してください。

メモ

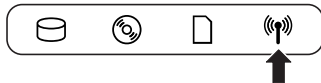
無線LAN機能とBluetooth機能の切り替え

- ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOnにしている場合、(FN)キーを押したまま、(F8)キーを押すたびに無線LAN機能とBluetooth機能を切り替えます。

1 本体左側面にある、ワイヤレスコミュニケーションスイッチをOn側にスライドする



ワイヤレスコミュニケーション LED が点灯します。



Bluetoothの設定方法については、《オンラインマニュアル（検索）：Bluetoothを使う》を参照してください。

メモ コンフィグフリー ConfigFree

- 本製品に用意されている「ConfigFree」を使うと、近隣の無線LANデバイスやBluetoothデバイスを検出したり、LANケーブルをはずすと自動的に無線LANに切り替えるなど、ネットワーク設定に便利な機能が使えます。

参照 ConfigFreeの設定方法 《オンラインマニュアル（検索）：ネットワーク設定に便利な操作》

ヘルプの起動

無線LANの詳細情報は [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックし、『ヘルプとサポートセンター』を参照してください。

3 章

周辺機器を使って機能を広げよう

パソコンでできることをさらに広げたい。
そのためには周辺機器を接続して、機能を拡張しま
しょう。
本製品に取り付けられるさまざまな周辺機器の取り
付けかたや各種設定、取り扱いについて説明してい
ます。

1	周辺機器を使う前に	40
2	パソコンの動作をスムーズにする –メモリの増設–	41
3	USB 対応機器を使う	44
4	i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使う	45
5	パソコンの画面をテレビに映す –テレビの接続–	46
6	パソコンの画面を外部ディスプレイに映す –外部ディスプレイの接続–	51
7	インターネットチャットや音声ソフトを使う –マイクロホンやヘッドホンの接続–	52
8	PC カードを使う	53
9	ExpressCard を使う	55
10	光デジタルオーディオ出力端子対応機器を使う	57

1

周辺機器を使う前に

周辺機器とは、パソコンに接続して使う機器のことです。周辺機器を使うと、パソコンの性能を高めたり、機能を広げることができます。周辺機器については、それぞれの機器に付属の説明書もあわせてお読みください。

お願い 取り付け／取りはずしにあたって

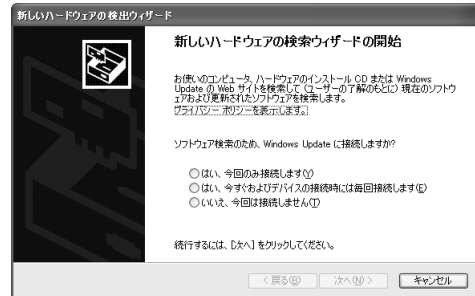
- 取り付け／取りはずしの方法は周辺機器によって異なります。本章の各節を読んでから作業をしてください。またその際には、次のことを守ってください。守らなかった場合、故障するおそれがあります。
- ・ ホットインサージョンに対応していない周辺機器を接続する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、電源コネクタからACアダプタのプラグを抜き、電源コードを電源コンセントからはずし、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行ってください。ホットインサージョンとは、電源を入れた状態で機器の取り付け／取りはずしを行うことです。
- ・ 適切な温度範囲内、湿度範囲内であっても、結露しないように急激な温度変化を与えないでください。冬場は特に注意してください。
- ・ ホコリが少なく、直射日光のあたらない場所で作業をしてください。
- ・ 極端に温度や湿度の高い／低い場所では作業しないでください。
- ・ 静電気が発生しやすい環境（乾燥した場所やカーペット敷きの場所など）では作業をしないでください。
- ・ 本書で説明している場所のネジ以外は、取りはずさないでください。
- ・ 作業時に使用するドライバは、ネジの形、大きさに合ったものを使用してください。
- ・ 本製品を分解、改造すると、保証やその他のサポートは受けられません。
- ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続するときは、コネクタの上下や方向をあわせてください。
- ・ ケーブルのコネクタに固定用ネジがある場合は、パソコン本体のコネクタに接続した後、ケーブルがはずれないようにネジを締めてください。
- ・ パソコン本体のコネクタにケーブルを接続した状態で、接続部分に無理な力を加えないでください。

参照 コネクタの種類について《オンラインマニュアル（検索）：インタフェース仕様》

① ドライバをインストールする

周辺機器を使うには、ドライバや専用のアプリケーションのインストールを行います。ドライバはあらかじめパソコンに用意されている場合と、周辺機器に添付のフロッピーディスクやCD-ROMを使う場合があります。

【自動的に対応（プラグアンドプレイ）している場合】
Windowsには、あらかじめたくさんのドライバが用意されています。周辺機器を接続するとWindowsがドライバの有無をチェックし、対応したドライバが見つかったら、自動的にインストールを開始します。
[新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示された場合は、画面に従って操作してください。



【自動的に対応（プラグアンドプレイ）していない場合】
[ハードウェアの追加ウィザード] を起動するか、機器に付属の説明書を確認し、ドライバのインストールや必要な設定を行ってください。[ハードウェアの追加ウィザード] は、次のように起動します。

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [関連項目] の [ハードウェアの追加] をクリックする

2

パソコンの動作をスムーズにする

－ メモリの増設 －

ハードディスクの大きさがデータの保存容量を決めるのに対し、メモリ容量はハードディスクからデータを取り出し、作業するエリアの大きさに影響します。画像編集など、一度に大きなデータを扱う作業を行う場合は、メモリ容量が大きいほうがスムーズに作業を行うことができます。メモリを増設して、快適なパソコンにしましょう。

増設メモリスロットに増設メモリを取り付けることができます。

本製品には2つの増設メモリスロット（スロットAとスロットB）があり、スロットA（下段）はすでに512MBのメモリが取り付けられています。別売りの増設メモリをスロットB（上段）に取り付けたり、スロットAのメモリを付け替えることができます。

取り付けることのできるメモリの容量は、2つのスロットを合わせて、最大2GBまでです。

警告

- 本文中で説明されている部分以外は絶対に分解しないこと
内部には高電圧部分が数多くあり、万一触ると、感電ややけどのおそれがあります。

注意

- ステープル、クリップなどの金属や、コーヒーマシンの液体を機器内部に入れないこと
火災、感電の原因となります。万一、機器内部に入った場合は、バッテリーを取りはずし、電源を入れず、お買い求めの販売店、またはお近くの保守サービスに点検を依頼してください。
- 増設メモリの取り付け／取りはずしは、必ず電源を切り、ACアダプタのプラグを抜き、バッテリーパックを取りはずしてから作業を行うこと
電源を入れたまま取り付け／取りはずしを行うと感電、故障のおそれがあります。
- 電源を切った直後に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないこと
内部が高温になっており、やけどのおそれがあります。電源を切った後30分以上たってから行ってください。

お願い 操作にあたって

- パソコン本体やメモリのコネクタに触らないでください。コネクタにゴミや油が付着すると、メモリが正常に使用できなくなります。
- 増設メモリを強く押ししたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 増設メモリは、コネクタに差し込む部分ではなく両端（切れ込みがある方）を持つようにしてください。
- スタンバイ／休止状態中に増設メモリの取り付け／取りはずしを行わないでください。スタンバイ／休止状態が無効になります。また、保存されていないデータは消失します。
- ネジをゆるめる際は、ネジの種類に合ったドライバを使用してください。
- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

増設メモリは、東芝製オプションを使用してください。それ以外のメモリを増設すると、起動しなくなったり、動作が不安定になる場合があります。仕様に合わない増設メモリを取り付けるとパソコン本体が起動せず、次のような警告音（ビープ音）が鳴ります。

警告音	エラーの原因
ピー、ピッ	スロットAに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、ピッ	スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
ピー、ピッ、無音、ピー、ピッ、ピッ	スロットA、スロットBに動作保証されていないメモリ（SPD対応）が取り付けられている。
警告音が鳴らない	動作保証されていないメモリ（SPD非対応）が取り付けられている。

起動はするがメモリが認識されない場合は、どちらか一方のスロットには動作保証されているメモリが取り付けられていますが、もう一方のスロットには動作保証されていないメモリ（SPD非対応）が取り付けられています。

お願い 静電気について

- 増設メモリは、精密な電子部品のため静電気によって致命的損傷を受けることがあります。人間の体はわずかながら静電気を帯びていますので、増設メモリを取り付ける前に静電気を逃がしてから作業を行ってください。手近にある金属製のものに軽く指を触れるだけで、静電気を防ぐことができます。

1 メモリを増設する

あらかじめ取り付けられているメモリを交換したい場合は、先にメモリの取りはずしを行ってください。

参照 「本節 2 メモリを取りはずす」

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

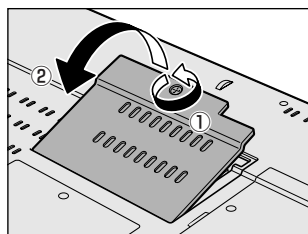
参照 電源の切りかた 『セットアップガイド 1 章 4 電源を切る方法と入れる方法』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

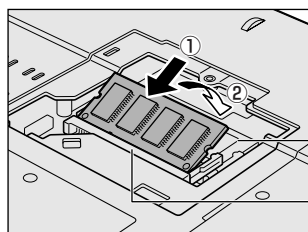
参照 バッテリーパックの取りはずし
「4 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ①、カバーをはずす②



増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリを増設メモリスロットのコネクタに斜めに挿入し①、固定するまで増設メモリを倒す②

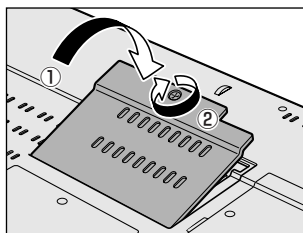


パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロットA、上段がスロットBです。

増設メモリの切れ込みを、増設メモリスロットのコネクタのツメに合わせて、しっかり差し込みます。フックがかかりにくいときは、ペン先などで広げてください。

このとき、増設メモリの両端（切れ込みが入っている部分）を持って差し込むようにしてください。

6 増設メモリカバーをつけて①、手順 4 でゆるめたネジ 1 本をとめる②



増設メモリカバーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーパックの取り付け
「4 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

参照 メモリ容量の確認について
「本節 3 メモリ容量を確認する」

2 メモリを取りはずす

1 データを保存し、Windows を終了させて電源を切る

参照 電源の切りかた 『セットアップガイド 1 章 4 電源を切る方法と入れる方法』

2 パソコン本体に接続されている AC アダプタとケーブル類をはずす

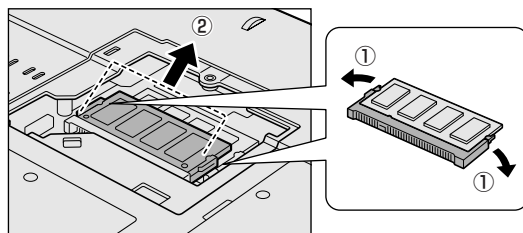
3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返し、バッテリーパックを取りはずす

参照 バッテリーパックの取りはずし
「4 章 1-③ バッテリーパックを交換する」

4 増設メモリカバーのネジ 1 本をゆるめ、カバーをはずす

増設メモリスロットの内部に異物が入らないようにしてください。

5 増設メモリを固定している左右のフックをペン先などで開き①、増設メモリをパソコン本体から取りはずす②



パソコンの裏面を表にした状態で、下段がスロットA、上段がスロットBです。

斜めに持ち上がった増設メモリを引き抜きます。

6 増設メモ리카バーをつけて、手順4でゆるめたネジ1本をとめる

増設メモ리카バーが浮いていないことを確認してください。

7 バッテリパックを取り付ける

参照 バッテリパックの取り付け

「4章 1-③ バッテリパックを交換する」

パソコン本体の電源を入れると総メモリ容量が自動的に認識されます。総メモリ容量が正しいか確認してください。

3 メモリ容量を確認する

メモリ容量は「システム情報」で確認することができます。

【確認方法】

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ]
→ [システムツール] → [システム情報] をクリックする
- ② [システムの概要] で [合計物理メモリ] の数値を確認する

3

USB 対応機器を使う

USB 対応機器は、電源を入れたままの取り付け／取りはずしができ、プラグアンドプレイに対応しています。USB 対応機器には次のようなものがあります。

- USB 対応マウス
- USB 対応プリンタ
- USB 対応スキャナ
- USB フラッシュメモリ など

本製品の USB コネクタには USB2.0 対応機器と USB 1.1 対応機器を取り付けることができます。

USB 対応機器の詳細については、『USB 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

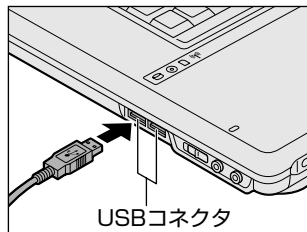
- 電源供給を必要とする USB 対応機器を接続する場合は、USB 対応機器の電源を入れてからパソコン本体に接続してください。
- USB 対応機器を使用するには、システム (OS)、および機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての USB 対応機器の動作確認は行っていません。したがってすべての USB 対応機器の動作は保証できません。
- USB 対応機器を接続したままスタンバイまたは休止状態にすると、復帰後 USB 対応機器が使用できない場合があります。その場合は、USB 対応機器を接続し直すか、パソコンを再起動してください。

1 取り付け

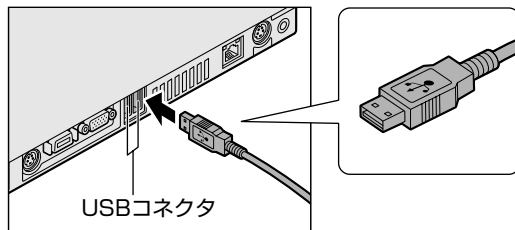
1 USB ケーブルのプラグをパソコン本体の USB コネクタに差し込む

プラグの向きを確認して差し込んでください。

【左側面】



【背面】



2 USB ケーブルのもう一方のプラグを USB 対応機器に差し込む

この手順が必要ない機器もあります。

2 取りはずし

お願い 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、USB 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の USB 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

1 USB 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす USB 対応機器) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

* 通知領域にこのアイコンが表示されない USB 対応機器は、手順 1 の①~③は必要ありません。

2 パソコン本体と USB 対応機器に差し込んである USB ケーブルを抜く

4

i.LINK (IEEE1394) 対応機器を使う

アイコン アイトリプルイーチサンキョウコン

i.LINK (IEEE1394) コネクタ (i.LINK コネクタとよびます) に接続します。

i.LINK (IEEE1394) 対応機器 (i.LINK 対応機器とよびます) には次のようなものがあります。

- i.LINK 対応デジタルビデオカメラ
- i.LINK 対応ハードディスクドライブ
- i.LINK 対応 MO ドライブ
- i.LINK 対応プリンタ など

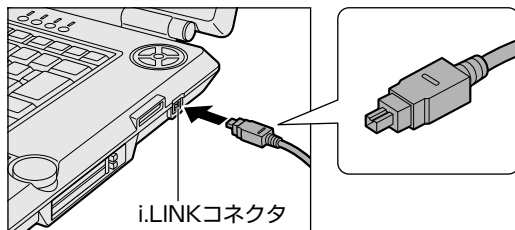
i.LINK 対応機器の詳細については、『i.LINK 対応機器に付属の説明書』を確認してください。

お願い 操作にあたって

- 静電気が発生しやすい場所や電氣的ノイズが大きい場所での使用時には注意してください。外来ノイズの影響により、転送データが一部欠落する場合があります。万一、パソコンの故障、静電気や電氣的ノイズの影響により、再生データや記録データの変化、消失が起きた場合、その際のデータ内容の保証はできません。あらかじめ了承してください。
- ビデオカメラから取り込んだ画像データ、音声データは、個人として楽しむ他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- デジタルビデオカメラなどを使用し、データ通信を行っているときに他の i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしを行うと、データがコマ落ちする場合があります。i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしは、データ通信を行っていないとき、またはパソコン本体の電源を入れる前に行ってください。
- i.LINK 対応機器を使用するには、システム (OS) および周辺機器用ドライバの対応が必要です。
- すべての i.LINK 対応機器の動作確認は行っていません。したがって、すべての i.LINK 対応機器の動作は保証できません。
- ケーブルは規格に準拠したもの (S100、S200、S400 対応) を使用してください。詳細については、ケーブルのメーカーに問い合わせてください。
- 取り付ける機器によっては、スタンバイまたは休止状態にできなくなる場合があります。
- i.LINK 対応機器を接続してアプリケーションから使用している間は、i.LINK 対応機器の取り付け/取りはずしや電源コードと AC アダプタの取りはずしなど、パソコン本体の省電力設定の自動切替を伴う操作を行わないでください。行った場合、データの内容は保証できません。
- i.LINK 対応機器とパソコン本体の間でデータ転送している間は、スタンバイまたは休止状態にしないでください。データの転送が中断される場合があります。

1 取り付け

- 1 ケーブルのプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに差し込む



プラグの向きを確認して差し込んでください。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグを i.LINK 対応機器に差し込む

2 取りはずし

お願い 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、i.LINK 対応機器をアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。
- MO ドライブなど、記憶装置の i.LINK 対応機器を取りはずす場合は、データが消失するおそれがあるため、必ず使用停止の手順を行ってください。

- 1 i.LINK 対応機器の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
 - ② 表示されたメニューから取りはずす i.LINK 対応機器を選択する
 - ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする
- * 通知領域にこのアイコンが表示されない i.LINK 対応機器は、手順 1 の①～③は必要ありません。

- 2 パソコン本体と i.LINK 対応機器に差し込んであるケーブルを抜く

3 i.LINK によるネットワーク接続

システム (OS) が Windows XP で i.LINK コネクタがあるパソコン同士を i.LINK (IEEE1394) ケーブルで接続すると、2 台で通信ができます。ネットワークの設定については、[スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして、『ヘルプとサポート センター』を参照してください。

- 1 ケーブルの一方のプラグをパソコン本体の i.LINK コネクタに接続する

- 2 ケーブルのもう一方のプラグを、接続する機器の i.LINK コネクタに接続する

5

パソコンの画面をテレビに映す

－ テレビの接続 －

本製品のS-Video出力コネクタとテレビをS端子ケーブルで接続したり、本製品のD映像出力端子とテレビをD端子ケーブルで接続すると、テレビ画面にWindowsのデスクトップ画面を表示させることができます。

【パソコン上のテレビ番組やDVDを、テレビに表示する】
「Qosmio AV Center」でのテレビ番組や「WinDVD」でのDVD再生など、パソコンで視聴／再生している映像を、ご家庭のテレビにも表示させることができます。

パソコンでテレビを見る準備をする
* 「Qosmio AV Center」でテレビ番組視聴の場合
参照 「オーディオ&ビジュアルガイド」



パソコン本体と、テレビを接続する
参照 「本節 1 パソコンに接続する」



パソコンの画面をテレビに表示する設定をする
参照 「本節 2 表示を切り替える」



動画をテレビに表示する設定をする
* テレビ番組やDVDなどの動画を本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示したい場合
参照 「本節 3
パソコンをDVDプレーヤ代わりに使う」



メモ

- テレビの代わりに、外部ディスプレイを接続して表示することもできます。
- QosmioPlayerの映像は、本体液晶ディスプレイのみに表示できます。テレビや外部ディスプレイを接続して表示させることはできません。
- 「Qosmio AV Center」の画面をテレビや外部ディスプレイを接続して表示させる場合、解像度によっては正しく表示されないことがあります。

【接続の前に】

S映像入力端子（S1/S2映像入力端子）またはD映像入力端子があるテレビを接続できます。
テレビを接続するときは、『テレビに付属の取扱説明書』もあわせて確認してください。
接続するS端子ケーブルは、市販の4ピンコネクタのケーブルを使用してください。D映像出力端子は、D1出力、D2出力、D3出力、D4出力に対応しています。接続するD端子ケーブルは市販のものを使用してください。

メモ

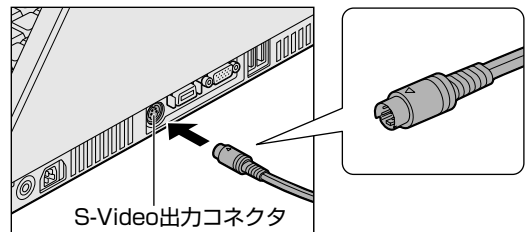
- S-Video出力コネクタとD映像出力端子は、同時に使用できません。
- S-Video出力コネクタとD映像出力端子のテレビへの出力形式を設定する方法は、「本節 2 表示を切り替える」を参照してください。

1 パソコンに接続する

テレビとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

【S-Video出力コネクタに接続する】

1 S端子ケーブルのプラグをパソコン本体のS-Video出力コネクタに差し込む



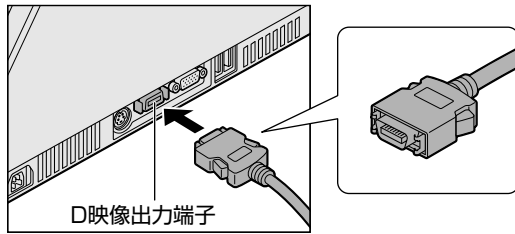
2 S端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのS映像入力端子（S1/S2映像入力端子）に差し込む

3 テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

音声はパソコンのスピーカーで聞くか、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続して聞いてください。

【D映像出力端子に接続する】

1 D端子ケーブルのプラグをパソコン本体のD映像出力端子に差し込む



2 D端子ケーブルのもう一方のプラグをテレビのD映像入力端子に差し込む

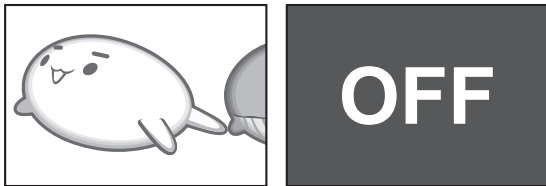
3 テレビの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

音声はパソコンのスピーカーで聞か、ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続してください。

2 表示を切り替える

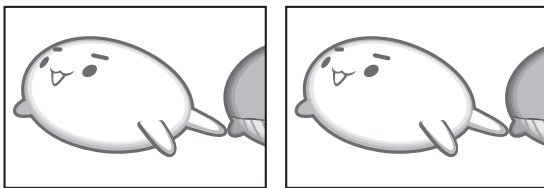
テレビを接続した場合には、次の表示方法があります。表示方法は、表示装置の切り替えを行うことで変更できます。

【本体液晶ディスプレイだけに表示/テレビだけに表示】いずれかの表示装置にのみ、デスクトップ画面を表示します。



【本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示】

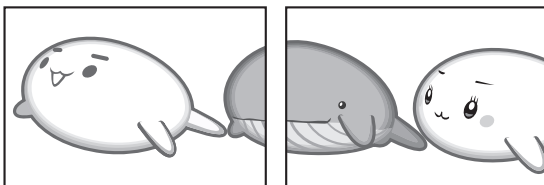
- クローン表示
2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。



- デュアルビュー (Dualview) 表示

* 方法1でのみ設定できます。

2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用 (拡張表示) します。



テレビに表示するには次の設定を行ってください。設定を行わないと、テレビには表示されません。

お願い 操作にあたって

- 必ず、DVD-Videoなどを再生する前に、表示装置の切り替えを行ってください。再生中は表示装置を切り替えないでください。
- 次のようなときには、表示装置を切り替えないでください。
 - ・データの読み出しや書き込みをしている間
 - ・通信を行っている間
- Clone (クローン) 表示しているときにDVD-Videoを再生すると、画像がコマ落ちすることがあります。この場合は表示解像度を下げるか、本体液晶ディスプレイまたはテレビのどちらかだけに表示するか、拡張表示に設定してください。

方法1 - 【画面のプロパティ】で設定する

- 1 【コントロールパネル】を開き、【デスクトップの表示とテーマ】をクリックする
- 2 【画面】をクリックする
【画面のプロパティ】画面が表示されます。
- 3 【設定】タブで【詳細設定】ボタンをクリックする
- 4 【GeForce Go 6200 TurboCache (TM)】タブで次のいずれかに設定する

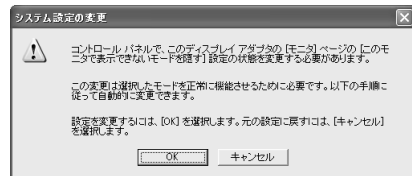
次ページの【設定方法】に進んでください。



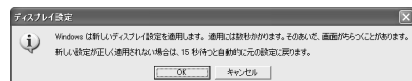
【メッセージについて】

設定の途中で、次のメッセージが表示された場合は、【OK】または【はい】ボタンをクリックしてください。

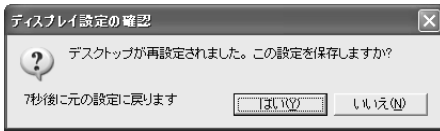
- 【システム設定の変更】画面



- 【ディスプレイ設定】画面



● [ディスプレイ設定の確認] 画面



【設定方法】

- 本体液晶ディスプレイだけに表示
 - ① [nView] で [1つのディスプレイ] を選択する
 - ② [現在のディスプレイ] で [デジタル フラットパネル] を選択する
 - ③ [OK] ボタンをクリックする
- 本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示
 - ① [nView] で [クローン] または [デュアルビュー (Dualview)] を選択する
[クローン] を選択すると、2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。
[デュアルビュー (Dualview)] を選択すると、2つの表示装置を1つの大きなデスクトップ画面として使用 (拡張表示) できます。
 - ② [プライマリディスプレイ/セカンダリディスプレイ] で [デジタル フラットパネル/TV] を選択する
 - ③ [TV] アイコンをクリックする
 - ④ [デバイス設定] ボタンをクリックし、表示されるメニューから [TV フォーマットを選択する] を選択する
 - ⑤ テレビの形式を選択する
次のいずれかを選択してください。
・NTSC-M ・NTSC-J ・PAL-B
・525p (480p,D2) ・1125i (1080i,D3)
・750p (720p,D4) ・525i (480i,D1)
国内のテレビの場合は [NTSC-J] です。
D映像出力端子とテレビを接続した場合は、テレビ側の端子に応じてD1～D4のいずれかを選択してください。
 - ⑥ [OK] ボタンをクリックする
手順⑤でD1～D4のいずれかを選択した場合は、[HDTV オーバースキャン補正] 画面が表示される場合があります。テレビに出力するときの解像度と表示方法を選択してください。
- テレビだけに表示
 - ① [nView] で [1つのディスプレイ] を選択する
 - ② [現在のディスプレイ] で [TV] を選択する
 - ③ [OK] ボタンをクリックする

5 [画面のプロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする

方法2 - (FN)+(F5)キーを使う



- 方法2では、同時表示はクローン表示となり、2つの表示装置それぞれにデスクトップ画面を表示します。

(FN)キーを押したまま(F5)キーを押すと、表示装置を選択する画面が表示されます。カーソルは現在の表示装置を示しています。(FN)キーを押したまま(F5)キーを押すたびに、カーソルが移動します。表示する装置にカーソルが移動したら、(FN)キーを離すと表示装置が切り替わります。

- 表示装置をLCD (本体液晶ディスプレイ) に戻す方法
現在の表示装置がLCD (本体液晶ディスプレイ) 以外に設定されている場合、表示装置をLCDに戻すことができます。表示装置を選択する画面が表示されていない状態で、(FN)+(F5)キーを3秒以上押し続けてください。表示装置に何も表示されず、選択する画面が表示されているか確認できない場合は、いったんキーボードから指を離してから、(FN)+(F5)キーを3秒以上押し続けてください。



- LCD 本体液晶ディスプレイだけに表示
- LCD / CRT 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時表示
- CRT 外部ディスプレイだけに表示
外部ディスプレイを接続している / していないに関わらず、外部ディスプレイだけに表示されます。
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD / TV 本体液晶ディスプレイとテレビに同時表示
- TV テレビだけに表示
テレビを接続している / していないに関わらず、テレビだけに表示されます。
本体液晶ディスプレイには何も表示されません。
- LCD1 / CRT2 ... 本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイにデュアルビュー表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。
- LCD1 / TV2 本体液晶ディスプレイとテレビにデュアルビュー表示
本体液晶ディスプレイがプライマリモニタになります。

【デュアルビューでプライマリモニタを切り替える方法】

現在の表示装置がデュアルビュー表示に設定されている場合、プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンが表示されます。



プライマリモニタ、セカンダリモニタを切り替えるアイコンにカーソルが移動したら、(FN)キーを離すと表示装置が切り替わります。

3 パソコンをDVDプレーヤ代わりに使う

パソコンにテレビなどを接続してDVDプレーヤのようにパソコンを使いたいときは、動画をテレビや外部ディスプレイに表示するための設定を行います。

表示装置を本体液晶ディスプレイとテレビの同時表示、または本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定している場合、動画がテレビや外部ディスプレイに表示されないことがあります。その場合は、次の設定を行います。

- 1 **(FN)+(F5)**キーを押して、本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの同時表示になっていることを確認する

参照 **(FN)+(F5)**キー 《オンラインマニュアル
(検索)：[FN] キーを使った特殊機能キー》

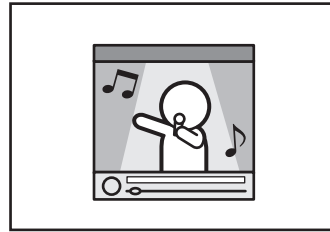
- 2 **[コントロールパネル]** を開き、**[デスクトップの表示とテーマ]** をクリックする
- 3 **[画面]** をクリックする
[画面のプロパティ] 画面が表示されます。
- 4 **[設定]** タブで **[詳細設定]** ボタンをクリックする
- 5 **[GeForce Go 6200 TurboCache (TM)]** タブで **[GeForce Go 6200 TurboCache (TM)]** ボタンをクリックする
画面左側にメニューが表示されない場合は、画面プロパティウィンドウの左端にある矢印をクリックしてください。
- 6 表示されるメニューから **[nView ディスプレイ設定]** をダブルクリックする
- 7 表示されるメニューから **[フルスクリーンビデオ]** をクリックする



- 8 **[フルスクリーンデバイス]** で **[プライマリディスプレイ]** または **[セカンダリディスプレイ]** を選択する

本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの、どちらかあるいは両方がフルスクリーン表示になっていないと、動画を表示できません。

- **ウィンドウ表示**



- **フルスクリーン表示**



[フルスクリーンデバイス] で、どちらをフルスクリーン表示にするか設定します。

[フルスクリーンデバイス] での設定項目の内容は、次のようになっています。

表示装置 設定項目	本体液晶 ディスプレイ	テレビまたは 外部ディスプレイ
プライマリ ディスプレイ	フルスクリーン 表示	ウィンドウ 表示
セカンダリ ディスプレイ	ウィンドウ 表示	フルスクリーン 表示
無効	ウィンドウ 表示	表示されない

メモ

- ウィンドウ表示をフルスクリーン表示にしたい場合は、動画再生ソフト上でウィンドウを最大化してください。
- 本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの両方の表示装置を、ウィンドウ表示にすることはできません。
- 動画の種類によっては「フルスクリーンデバイス」の設定に関わらず本体液晶ディスプレイとテレビまたは外部ディスプレイの両方の表示装置にウィンドウ表示されることがあります。

- 9 **[OK]** ボタンをクリックする

- 10 **[画面のプロパティ]** 画面で **[OK]** ボタンをクリックする

メモ

- テレビにD端子ケーブルで接続し、D3 および D4 を選択した場合、一部のコピーガードのかかったDVD-Video は再生できません。

4 パソコンから取りはずす

パソコン本体の電源を切ってから、テレビの電源を切った後、取りはずしを行ってください。

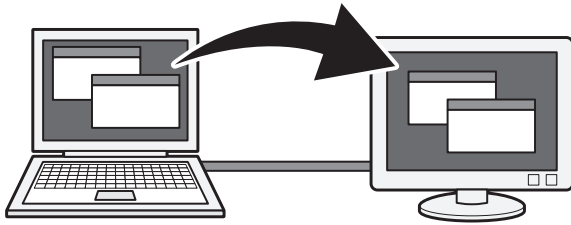
- 1** パソコン本体とテレビに差し込んである S 端子ケーブルまたは D 端子ケーブルを抜く

6

パソコンの画面を 外部ディスプレイに映す

— 外部ディスプレイの接続 —

フルサイズモニター
RGB コネクタにケーブルを接続して、外部ディスプレイに Windows のデスクトップ画面を表示させることができます。



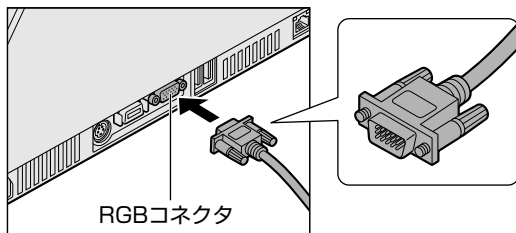
メモ

- 使用可能な外部ディスプレイは、本体液晶ディスプレイで設定している解像度により異なります。解像度にあった外部ディスプレイを接続してください。

1 パソコンに接続する

外部ディスプレイとパソコン本体の電源を切った状態で接続してください。

1 外部ディスプレイのケーブルのプラグを RGB コネクタに差し込む



2 外部ディスプレイの電源を入れてから、パソコン本体の電源を入れる

外部ディスプレイを接続してパソコン本体の電源を入れると、本体は自動的にその外部ディスプレイを認識します。

2 パソコンから取りはずす

1 パソコン本体の電源を切ってから、外部ディスプレイの電源を切る

2 RGB コネクタからケーブルを抜く

3 表示を切り替える

外部ディスプレイを接続した場合には次の表示方法があります。

- 外部ディスプレイだけに表示する
- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する
・ クローン表示
・ デュアルビュー (Dualview) 表示
- 本体液晶ディスプレイだけに表示する

表示方法は、テレビに表示する場合の説明を参考にしてください。

参照 表示方法について「本章 5-2 表示を切り替える」

「東芝省電力」で表示自動停止機能を設定して外部ディスプレイの表示が消えた場合、キーあるいはタッチパッドの操作により表示が復帰します。また、スタンバイに設定してある場合は、電源スイッチを押してください。

表示が復帰するまで 10 秒前後かかることがありますが、故障ではありません。

切り替え方法

表示装置を切り替える方法は、テレビに表示する場合の「方法 1」や「方法 2」を参考にしてください。「方法 1」を参考にすることは、[GeForce Go 6200 TurboCache (TM)] タブで [アナログ ディスプレイ] を選択してください。

参照 表示方法について「本章 5-2 表示を切り替える」

また、本体液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示に設定した場合、動画を外部ディスプレイに表示するには設定が必要です。

参照 外部ディスプレイに動画を表示する「本章 5-3 パソコンを DVD プレーヤ代わりに使う」

メモ

- 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイを同時表示させる場合は、外部ディスプレイ/本体液晶ディスプレイとも本体液晶ディスプレイの色数/解像度で表示されます。

4 表示について

外部ディスプレイに表示する場合、表示位置や表示幅などが正常に表示されない場合があります。この場合は、外部ディスプレイ側で、表示位置や表示幅を設定してください。

7

インターネットチャットや音声ソフトを使う

－ マイクロホンやヘッドホンの接続 －

本製品には、マイクロホンやヘッドホンを接続できます。マイクロホンやヘッドホンを使うと、音声ソフトや音声を使ったチャットを行うことができます。

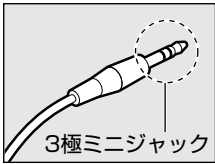
① マイクロホンを使う

マイク入力端子には、マイクロホンを接続できます。本製品にはサウンド機能が内蔵されています。

参照 サウンド機能について《オンラインマニュアル》
(検索)：パソコン上で録音するときの音量調整

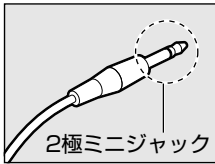
1 使用できるマイクロホン

本製品で使用できるマイクロホンは次のとおりです。



3極ミニジャック

- モノラルマイクのみ使用できます。
- プラグは3.5mm φ 3極ミニジャックタイプが使用できます。



2極ミニジャック

- 3.5mm φ 2極ミニジャックタイプのマイクロホンでもマイクロホン本体にバッテリーなどを内蔵し、電源供給を必要としないマイクロホンであれば使用できます。

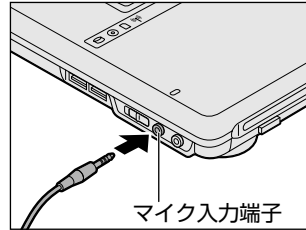
音声認識ソフトとあわせて使用する場合は、各アプリケーションの取り扱い元が推奨するマイクロホンを使用してください。

本製品には、音声認識ソフト「LaLaVoice」が用意されています。

参照 「LaLaVoice」について《オンラインマニュアル》
(検索)：パソコンを音声で操作したい

2 接続する

1 マイクロホンのプラグをマイク入力端子に差し込む



マイク入力端子

取りはずすときは、マイク入力端子からマイクロホンのプラグを抜きます。

② ヘッドホンを使う

ヘッドホン出力端子にヘッドホンを接続すると、音楽や音声を聞くことができます。

ヘッドホンのプラグは、3.5mm φステレオミニジャックタイプを使用してください。

お願い 操作にあたって

- 次のような場合にはヘッドホンを使用しないでください。雑音が発生する場合があります。
 - ・ パソコン本体の電源を入れる／切るとき
 - ・ ヘッドホンの取り付け／取りはずしをするとき

本製品にはサウンド機能が内蔵されています。ヘッドホンの音量はボリュームダイヤル、またはWindowsのボリュームコントロールで調節してください。

ボリュームコントロールは、次のように操作して起動します。

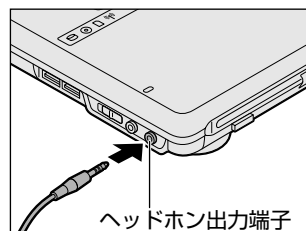
- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [アクセサリ] → [エンターテインメント] → [ボリュームコントロール] をクリックする

本製品のヘッドホン端子は、光デジタルオーディオ出力端子を兼ねています。

参照 光デジタルオーディオ出力端子への接続について
「本章 10 光デジタルオーディオ出力端子対応機器を使う」

1 接続する

1 ヘッドホンのプラグをヘッドホン出力端子に差し込む



ヘッドホン出力端子

取りはずすときは、ヘッドホン出力端子からヘッドホンのプラグを抜きます。

8

PC カードを使う

目的に合わせた PC カードを使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

PC カードには、次のようなものがあります。

- 無線 LAN カード
- SCSI カード
- 外付け HDD 用アダプタカード
- フラッシュメモリカード用アダプタカード など

① PC カードを使う前に

本製品は、PC Card Standard 準拠の TYPE II 対応のカード（CardBus 対応カードも含む）を使用できます。

PC カードの大部分は電源を入れたままの取り付け／取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用している PC カードがホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『PC カードに付属の説明書』を確認してください。

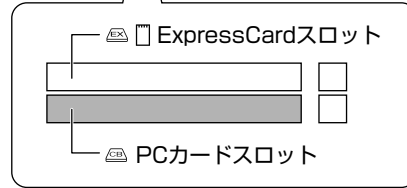
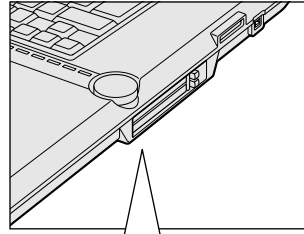
お願い 操作にあたって

- ホットインサージョンに対応していない PC カードを使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け／取りはずしを行ってください。
- PC カードには、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。PC カードを取りはずす際に、PC カードが熱い場合は、少し時間をおき、冷めてから PC カードを取りはずしてください。
- PC カードの使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに PC カードを取りはずすとシステムが致命的影響を受ける場合があります。

② PC カードを使う

PC カードを使う場合、パソコン本体の PC カードスロットに PC カードを取り付けてください。

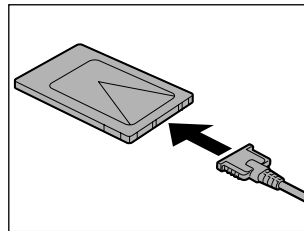
本製品の ExpressCard スロットと PC カードスロットは、上下に並んでいます。それぞれのスロットを間違えないようにしてください。



参照 ExpressCard スロットについて
「本章 9 ExpressCard を使う」

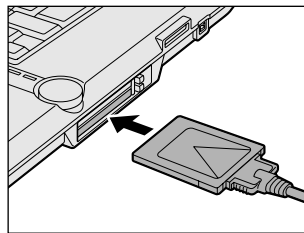
1 取り付け

1 PC カードにケーブルを付ける



SCSI カードなど、ケーブルの接続が必要なときに行います。

2 PC カードの表裏を確認し、表を上にして挿入する





カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、PC カードを使用できない、または PC カードが壊れる場合があります。

カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

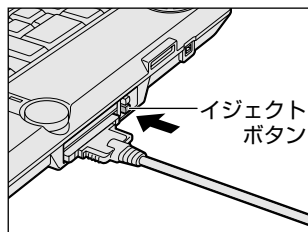
お願い 取りはずす前に確認しよう

- 取りはずすときは、PC カードをアプリケーションやシステムで使用していないことを確認してください。

1 PC カードの使用を停止する

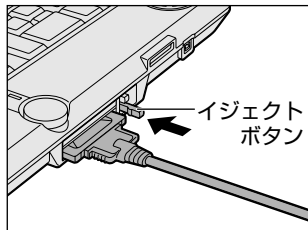
- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす PC カード) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ 「安全に取り外すことができます」のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

2 イジェクトボタンを押す



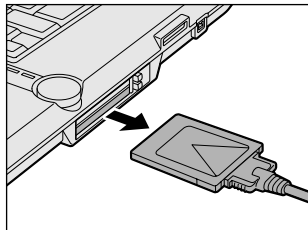
イジェクトボタンが出てきます。カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

9

ExpressCard を使う

目的に合わせた ExpressCard を使うことにより、パソコンの機能が大きく広がります。

① ExpressCard を使う前に

本製品は、ExpressCard Standard 準拠の ExpressCard/34、ExpressCard/54 対応のカードを使用できます。

ExpressCard は基本的に電源を入れたままの取り付け/取りはずし（ホットインサージョン）に対応しているので便利です。

使用している ExpressCard がホットインサージョンに対応しているかどうかなど、詳しい使いかたについては『ExpressCard に付属の説明書』を確認してください。

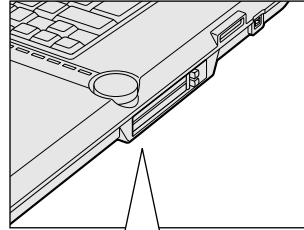
お願い 操作にあたって

- ホットインサージョンに対応していない ExpressCard を使用する場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってから取り付け/取りはずしを行ってください。
- ExpressCard には、長い時間使用していると熱を帯びるものがあります。ExpressCard を取りはずす際に、ExpressCard が熱い場合は、少し時間をおき、冷めしてから ExpressCard を取りはずしてください。

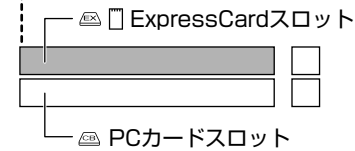
② ExpressCard を使う

ExpressCard を使う場合、パソコン本体の ExpressCard スロットに ExpressCard を取り付けてください。本製品の ExpressCard スロットと PC カードスロットは、上下に並んでいます。それぞれのスロットを間違えないようにしてください。

また、ExpressCard を取り付けるときは、ExpressCard スロットの左端に ExpressCard の左端を合わせて挿入してください。



カード合わせ位置

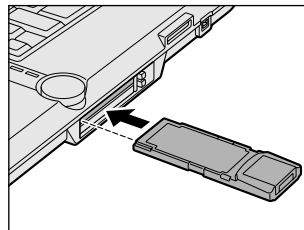


参照 ▶ PC カードスロットについて
「本章 8 PC カードを使う」

1 取り付け

1 ケーブルの接続が必要な場合は、ExpressCard にケーブルを付ける

2 ExpressCard の表裏を確認し、表を上にして挿入する



カードは無理な力を加えず、静かにカードが奥に突き当たるまで押してください。きちんと奥まで差し込まれていない場合、ExpressCard を使用できない、または ExpressCard が壊れる場合があります。カードを接続した後、カードが使用できるように設定されているか確認してください。

* イラストは、ExpressCard/34 対応のカードの例です。

お願い 取りはずす前に確認しよう

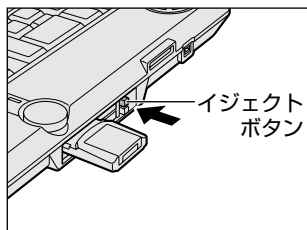
- 取りはずすときは、ExpressCard をアプリケーション やシステムで使用していないことを確認してください。
- 通知領域に [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () が表示されている ExpressCard を取りはずす場合、ExpressCard の使用停止は必ず行ってください。使用停止せずに ExpressCard を取りはずすとシステム が致命的の影響を受ける場合があります。

1 ExpressCard の使用を停止する

- ① 通知領域の [ハードウェアの安全な取り外し] アイコン () をクリックする
- ② 表示されたメニューから [XXXX (取りはずす ExpressCard) を安全に取り外します] をクリックする
- ③ [安全に取り外すことができます] のメッセージが表示されたら、[閉じる] ボタン () をクリックする

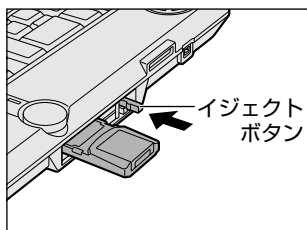
* 通知領域にこのアイコンが表示されない ExpressCard は、手順 1 の①～③は必要ありません。

2 イジェクトボタンを押す



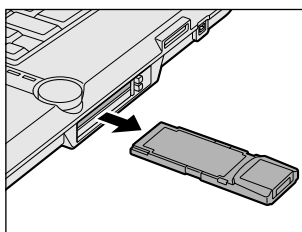
イジェクトボタンが出てきます。カードが奥まで差し込まれていない場合、イジェクトボタンが出てこないことがあります。カードを奥まで押し込んでから、もう一度イジェクトボタンを押してください。

3 もう 1 度イジェクトボタンを押す



「カチッ」と音がするまで押してください。カードが少し出てきます。

4 カードをしっかりとつかみ、抜く



カードを抜くときはケーブルを引っ張らないでください。故障するおそれがあります。熱くないことを確認してから行ってください。

5 イジェクトボタンを押す

イジェクトボタンが収納されていない場合は、イジェクトボタンを押して収納します。

光デジタルオーディオ出力端子 対応機器を使う

次のような機器（光デジタル対応機器とよびます）を、光デジタルオーディオ出力端子に接続して使用できます。

- MD レコーダ
- MD コンポ
- AV アンプ
- ホームシアターシステム
- マルチチャンネルスピーカ など

本製品の光デジタルオーディオ出力端子は、ヘッドホン出力端子を兼ねています。

参照 ヘッドホン出力端子への接続について
「本章 7-② ヘッドホンを使う」

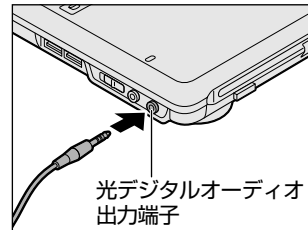
お願い 操作にあたって

- すべての光デジタル対応機器の動作確認は行っておりません。したがって、すべての光デジタル対応機器の動作は保証いたしかねます。
- 光デジタル対応機器を接続するためには市販のケーブルが必要です。
パソコン本体の端子は光ミニプラグ、光デジタル対応機器の端子は光ミニプラグまたは光角形プラグです。
ご使用の機器にあったケーブルをご購入ください。
- 光デジタルオーディオ出力端子から出力される音声は、サンプリング周波数が 48kHz に固定されています。そのため、このサンプリング周波数に対応していない光デジタル対応機器では動作しません。
- 光デジタルオーディオ出力端子からの音声をコピーする場合、次の内容をよくお読みください。
 - ・お客様が光デジタルオーディオ出力端子を使用して他人の著作物を録音、複製などを行う場合は、個人的に使用する目的でのみ行うことができます。また著作物によっては、一切の録音、複製などができないものがあります。これらに反して録音、複製などを行うことは、著作権法に違反する場合がありますので、光デジタルオーディオ出力端子を使用して録音、複製などを行う場合には、著作権法を遵守のうえ、適切にご使用ください。
 - ・お客様がソフトウェアの標準設定を変更して光デジタルオーディオ出力端子をご使用された場合、著作権者により「複製自由」とされた著作物であっても、「1 回限りの複製」しかできない場合があります。
- 複製が禁止されている著作物は、再生のみ可能です。録音／複製はできません。

- 「InterVideo WinDVD」で「コピー禁止」の DVD を再生した場合や、著作権保護機能（SCMS に準拠）を持つプレーヤーで CD や音楽ファイルを再生した場合、録音できない場合があります。
SCMS（シリアル・コピー・マネージメント・システム）とは、デジタル音源からのコピーを一世代のみに制限する技術です。例えば、音楽 CD から MD に録音することはできませんが、録音した MD からさらに他の MD に録音することはできません。

1 取り付け

1 デジタルオーディオケーブルのプラグを光デジタルオーディオ出力端子に差し込む



2 デジタルオーディオケーブルのもう一方のプラグを光デジタル対応機器に差し込む

2 取りはずし

1 パソコン本体と光デジタル対応機器に差し込んだケーブルを抜く

3 デジタル出力を有効にする

光デジタル対応機器への再生／録音を行う場合、あらかじめパソコン側でデジタル出力を有効に設定しておく必要があります。次の手順でデジタル出力を有効にしてください。

- 1 **【スタート】 → 【コントロールパネル】 をクリックする**
- 2 **【サウンド、音声、およびオーディオデバイス】 をクリックする**
- 3 **【SigmaTel Audio】 をクリックする**
- 4 **【詳細】 タブをクリックする**
- 5 **【デジタルコントロール】 の【デジタル出力を有効にする】 をチェックする**

4 光デジタル対応機器への再生

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（AV アンプ、ホームシアターシステム、マルチチャンネルスピーカーなど）への再生方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器の音量等を調整する

光デジタル対応機器側で、S / PDIF 入力からの音声をモニタ・再生できるように設定してください。詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

3 再生したい音楽などをパソコンで再生する

コンテンツの種類（リニア PCM、Dolby Digital など）に対応した再生が行われます。

5 光デジタル対応機器への録音

光デジタルオーディオ出力端子から、光デジタル対応機器（MD コンボなど）への録音方法について説明します。

1 光デジタル対応機器の電源を入れる

2 光デジタル対応機器を録音待機状態にする

詳細は、『光デジタル対応機器に付属の説明書』を確認してください。

3 録音したい音楽などをパソコンで再生する

次の場合に録音ができます。

- 「Windows Media Player」など Windows に用意されているプレーヤなどで Wave ファイル、MIDI ファイル、ムービーファイル（AVI / MPG）、音楽 CD などを再生する場合
- 「InterVideo WinDVD」で「コピー可」の DVD を再生する場合


光デジタル対応機器にシンクロ録音機能がある場合、録音が自動的に開始されます。

シンクロ録音機能とは、光デジタル対応機器がパソコン上で音楽が再生されたことを自動的に認識し、録音を開始する機能です。

シンクロ録音機能がない場合は、まず光デジタル対応機器側で録音を開始し、次にパソコン側で音楽などの再生を開始してください。

4 章

バッテリー駆動で使う



パソコンをモバイル使用する際に大事な存在であるバッテリーは、使いかたによっては長持ちさせることができます。

ここでは、充電や充電量の確認など、バッテリーを使用するにあたっての取り扱い方法について説明しています。

1

バッテリーについて

パソコン本体には、バッテリーパックが取り付けられています。バッテリーを充電して、バッテリー駆動（ACアダプタを接続しない状態）で使うことができます。

本製品を初めて使用するときは、バッテリーパックを充電してから使用してください。

バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめACアダプタを接続してバッテリーパックの充電を完了（フル充電）させるか、フル充電したバッテリーパックを取り付けてください。

『安心してお使いいただくために』に、バッテリーパックを使用するときの重要事項が記述されています。バッテリー駆動で使う場合は、あらかじめその記述をよく読み、必ず指示を守ってください。

⚠ 危険

- **バッテリーパックは、必ず本製品に付属の製品を使用すること**
寿命などで交換する場合は、東芝製バッテリー（TOSHIBAバッテリーパック：PABAS073）をお買い求めください。指定以外の製品は、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため火災・破裂・発熱のおそれがあります。
- **バッテリーパックを分解・改造しないこと**
分解・改造すると、火災・破裂・発熱の原因となります。指定以外の製品や、分解・改造したものは、安全性や製品に関する保証はできません。

⚠ 警告

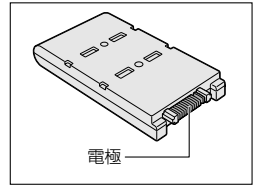
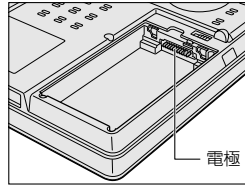
- **別売りのバッテリーパックをお買い上げ後、初めて使用する場合にサビ、異臭、発熱などの異常があると思われるときは使用しないこと**
お買い求めの販売店または、お近くの保守サービスに点検を依頼してください。

⚠ 注意

- **バッテリーパックの充電温度範囲内（5～35℃）で充電すること**
充電温度範囲内で充電しないと、液もれや発熱、性能や寿命が低下するおそれがあります。

お願い

- バッテリーパックの取り付け／取りはずしをする場合は、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。スタンバイを実行している場合は、バッテリーパックの取りはずしをしないでください。データが消失します。
- 電極に手を触れないでください。故障の原因になります。



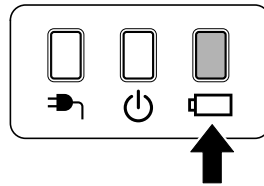
- バッテリー駆動で使用しているときは、バッテリーの残量に十分注意してください。
バッテリーを使いきってしまうと、スタンバイが効かなくなり、電源が切れて、メモリに記憶されていた内容はすべて消えます。また、時計用バッテリーを使いきってしまうと、時刻や日付に誤差が生じます。このような場合は、ACアダプタを接続してバッテリーと時計用バッテリーを充電してください。

① バッテリー充電量を確認する

バッテリー駆動で使う場合、バッテリーの充電量が減って作業を中断したりしないよう、バッテリーの充電量を確認しておく必要があります。

1 Battery LEDで確認する

ACアダプタを使用している場合、Battery LEDが点灯します。



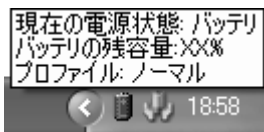
Battery LEDは次の状態を示しています。

青	充電完了
オレンジ	充電中
オレンジの点滅	充電が必要 参照▶▶▶ バッテリーの充電について 「本節 ② バッテリーを充電する」
消灯	<ul style="list-style-type: none"> ・ バッテリーが接続されていない ・ ACアダプタが接続されていない ・ バッテリー異常 異常の場合は、購入店または近くの保守サービスに連絡してください。

2 通知領域の【省電力】アイコンで確認する

通知領域の【省電力】アイコン () の上にポインタを置くと、バッテリー充電量が表示されます。

このときバッテリー充電量以外にも、現在使用しているプロフィール名や、使用している電源の種類が表示されます。



参照 省電力設定について 《オンラインマニュアル (検索) : 省電力の設定をする》

1ヵ月以上の長期にわたり、ACアダプタを接続したままパソコンを使用してバッテリー駆動を行わないと、バッテリー充電量が少しずつ減少します。このような状態でバッテリー充電量が減少したときは、Battery LEDや【省電力】アイコンで充電量の減少が表示されないことがあります。1ヵ月に1度は再充電することを推奨します。

参照 再充電について

「本節 ②-2 バッテリーを長持ちさせるには」

3 バッテリー充電量が減少したとき

電源が入っている状態でバッテリーの充電量が少なくなると、次のように警告します。

- Battery LEDがオレンジ色に点滅する (バッテリーの残量が少ないことを示しています)
- バッテリーのアラームが動作する
「東芝省電力」の [アクション設定] タブの [アラーム設定] で設定すると、バッテリーの残量が少なくなったことを通知したり、自動的に対処する動作を行います。

上記のような警告が起こった場合はただちに次のいずれかの方法で対処してください。

- ①パソコン本体にACアダプタを接続し、電源を供給する
- ②電源を切ってから、フル充電のバッテリーパックと取り換える

購入時は休止状態が設定されています。バッテリー減少の警告が起こっても何も対処しなかった場合、パソコン本体は自動的に休止状態になり、電源を切ります。

長時間使用しないでバッテリーが自然に放電しきってしまったときは、警告音も鳴らず、Battery LEDでも放電しきったことを知ることはできません。長時間使用しなかったときは、充電してから使用してください。

時計用バッテリー

本製品には、取りはずしができるバッテリーパックの他に、内蔵時計を動かすための時計用バッテリーが内蔵されています。

時計用バッテリーの充電は、ACアダプタを接続し電源を入れているとき (電源ON時) に行われますので、普通に使用しているときは、あまり意識する必要はありません。ただし、あまり充電されていない場合、時計が止まったり、遅れたりすることがあります。

時計用バッテリーが切れていると、時間の再設定をうながす Warning (警告) メッセージが出ます。

【充電完了までの時間】

状態	時計用バッテリー
電源ON (Power LEDが青色に点灯)	8時間

実際には充電完了まで待たなくても使用できます。また、充電状態を知ることはできません。

② バッテリーを充電する

充電方法とフル充電になるまでの充電時間について説明します。

お願い 操作にあたって

- バッテリーパックの温度が極端に高いまたは低いと、正常に充電されないことがあります。バッテリーは5～35℃の室温で充電してください。

1 充電方法

1 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードのプラグをコンセントに差し込む

DC IN LEDが青色に点灯して Battery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。電源コードのプラグをコンセントに差し込むと、電源のON/OFFにかかわらずフル充電になるまで充電されます。

2 Battery LEDが青色になるまで充電する

バッテリーの充電中は Battery LEDがオレンジ色に点灯します。DC IN LEDが消灯している場合は、電源が供給されていません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。



- パソコン本体を長時間ご使用にならないときは、電源コードの電源プラグをコンセントから抜いてください。

【充電完了までの時間】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー充電時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

周囲の温度が低いとき、バッテリーパックの温度が高くなっているとき、周辺機器を取り付けている場合は、この時間よりも長くなる場合があります。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G20/4 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

【使用できる時間】

バッテリーパックは消耗品です。バッテリー駆動での使用時間は、パソコン本体の機器構成や動作状況、また使用環境によって異なります。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G20/4 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

【バッテリー駆動時の処理速度】

高度な処理を要するソフトウェア（3Dグラフィックス使用など）を使用する場合は、十分な性能を発揮するためにACアダプタを接続してご使用ください。

【使っていないときの充電保持時間】

パソコン本体を使わないで放置していても、バッテリー充電量は少しずつ減っていきます。バッテリーの保持時間は、放置環境などによって異なります。

保持時間は、充電完了の状態で電源を切った場合の目安にしてください。

詳細は、別紙の『dynabook Qosmio G20/4 シリーズ製品仕様表』を参照してください。

スタンバイを実行した場合、充電しきるまでの時間が非常に短いため、バッテリー駆動時は休止状態にすることをおすすめします。

2 バッテリーを長持ちさせるには

- ACアダプタをコンセントに接続したままでパソコンを8時間以上使用しない場合は、バッテリーを長持ちさせるためにもACアダプタをコンセントからはずしてください。
- 1ヵ月以上の長期間バッテリーを使わない場合は、パソコン本体からバッテリーパックをはずして、風通しの良い涼しい場所に保管してください。
- 1ヵ月に1度は、ACアダプタをはずしてバッテリー駆動でパソコンを使用してください。
その際には、パソコンを使用する前に次の方法で再充電してください。

1 パソコン本体の電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタをはずし、パソコンの電源を入れる

電源が入らない場合は手順4へ進んでください。

3 5分程度バッテリー駆動を行う

この間、Battery LEDが点滅するか、充電量が少なくなったなどの警告が表示された場合は、すぐにACアダプタを接続し、手順4へ進みます。

4 パソコン本体にACアダプタを接続し、電源コードをコンセントにつなぐ

DC IN LEDが青色に点灯してBattery LEDがオレンジ色に点灯すると、充電が開始されます。

5 Battery LEDが青色になるまで充電する

バッテリーの充電中はBattery LEDがオレンジ色に点灯します。

DC IN LEDが消灯している場合は、通電していません。ACアダプタ、電源コードの接続を確認してください。

【バッテリーを節約する】

バッテリーを節約して、本製品をバッテリー駆動で長時間使用するには、次の方法があります。

- こまめに休止状態にする

参照 《オンラインマニュアル（検索）：休止状態》

- 入力しないときは、ディスプレイを閉じておく

参照 《オンラインマニュアル（検索）：

簡単に電源を切る／パソコンの使用を中断する》

- 省電力のプロファイルを設定する

参照 《オンラインマニュアル（検索）：

省電力の設定をする》

3 バッテリーパックを交換する

バッテリーパックの交換方法を説明します。

バッテリーパックの取り付け／取りはずしのときには、必ず電源を切り、電源コードのプラグを抜いてから作業を行ってください。



- キズや破損を防ぐため、布などを敷いた安定した台の上にパソコン本体を置いて作業を行ってください。

1 取りはずし／取り付け

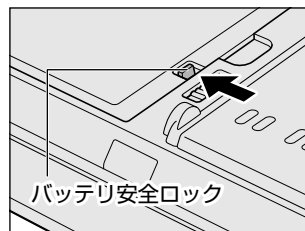
1 データを保存し、Windowsを終了させて電源を切る

2 パソコン本体からACアダプタと周辺機器のケーブル類をはずす

3 ディスプレイを閉じてパソコン本体を裏返す

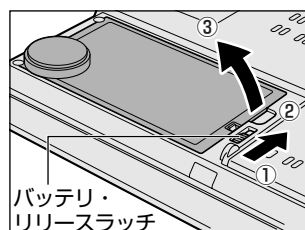
4 バッテリー安全ロックを矢印の方向に引く

バッテリー・リリースラッチがスライドできるようになります。

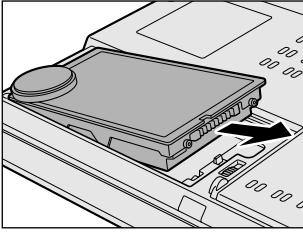


5 バッテリー・リリースラッチをスライドしながら

- ①、くぼみに指をかけて②、バッテリーカバーごとバッテリーパックを持ち上げる③

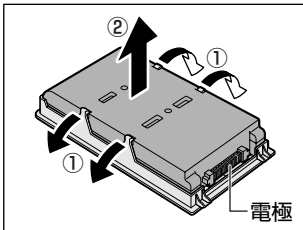


6 バッテリーカバーごと、バッテリーパックを取り出す

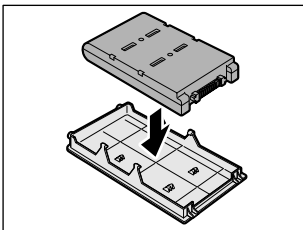


7 バッテリーカバーからバッテリーパックを取り出す

バッテリーカバーのツメを左右に広げ①、バッテリーパックを取りはずします②。

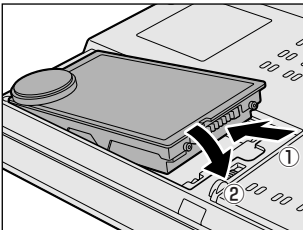


8 交換するバッテリーパックをバッテリーカバーに取り付ける



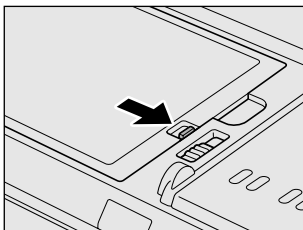
9 バッテリーパックをコネクタに斜めに挿入し①、静かに差し込む②

新しいあるいは充電したバッテリーパックを注意して、カチッという音がするまで差し込んでください。



10 バッテリー安全ロックを矢印の方向に押す

バッテリーパックがはずれないように、バッテリー安全ロックは必ず行ってください。



5 章

システム環境の変更

本製品を使用するときの、システム上のさまざまな環境を設定する方法について説明しています。

1	システム環境の変更とは	66
2	東芝 RAID	67
3	BIOS セットアップを使う	72

1

システム環境の変更とは

本製品は、次のようなパソコンのシステム環境を変更できます。

システム環境を変更するには、Windows 上のユーティリティで変更するか、または BIOS セットアップで変更するか、2つの方法があります。

通常は、Windows 上のユーティリティで変更することを推奨します。

変更できる項目		Windows 上のユーティリティ
ハードウェア環境（パソコン本体）の設定		「東芝 HW セットアップ」 参照 ▶ 《オンラインマニュアル（検索）：システム環境を設定する》
パスワードセキュリティの設定	ユーザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ▶ 《オンラインマニュアル（検索）：ユーザパスワード》
	スーパーバイザパスワード	「東芝パスワードユーティリティ」 参照 ▶ 《オンラインマニュアル（検索）：スーパーバイザパスワード》
省電力の設定		「東芝省電力」 参照 ▶ 《オンラインマニュアル（検索）：省電力の設定をする》

BIOS セットアップについては「本章 3 BIOS セットアップを使う」をご覧ください。

2


東芝 RAID

本製品には、ハードディスクドライブが2台内蔵されており、「東芝 RAID」を使って RAID 機能を設定することができます。

① 東芝 RAID とは

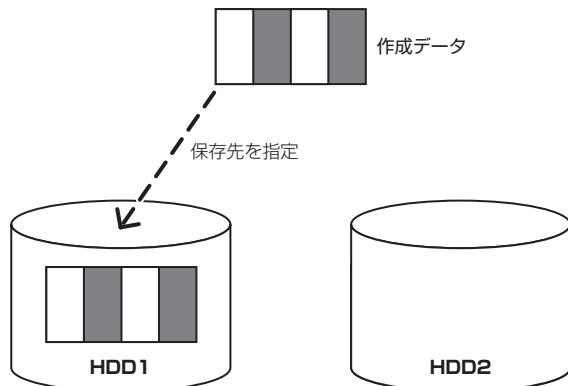
RAID (Redundant Array of Independent Disks) とは、複数のハードディスクドライブを組み合わせ、信頼性や性能を向上させる技術です。おもにサーバなどの信頼性が要求されるシステムで使用され、いくつかの方式があります。「東芝 RAID」ではこのうちの RAID-0 (ストライピング) と RAID-1 (ミラーリング) をサポートしています。

メモ

- 内蔵ハードディスクドライブが2台 (同じ容量のもの) が装着されている場合のみ、「東芝 RAID」を使って RAID-0 (ストライピング)、RAID-1 (ミラーリング) を設定することができます。
- 「東芝 RAID」は、Windows を起動すると通知領域に [TOSHIBA RAID] アイコン () が表示されます。アイコンから設定変更を行うこともできます。
- 次のように、アプリケーションによっては、正常に動作しない場合があります。
 - ・ ディスクコントローラに直接アクセスして、ハードディスクドライブの読み書きを行うアプリケーション
 - ・ Linux などの OS で起動して、ハードディスクドライブにアクセスするアプリケーション などなお、BIOS インタフェースまたは Windows の RAID ドライブを使用せずにディスクに書き込み操作を行った場合、それ以降、正常に動作しない可能性があります。

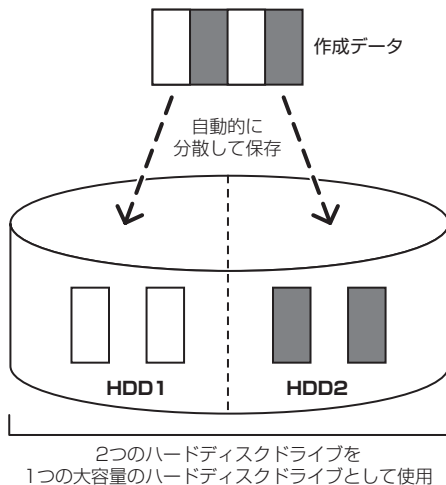
【購入時の状態】

購入時は RAID 機能は設定されていません。2台のハードディスクドライブはそれぞれ独立しており、作成したデータの保存先は、ユーザが指定します。



【RAID-0 (ストライピング)】

RAID-0 では、データを一定の単位で分割し、複数 (本製品の場合2台) のハードディスクドライブに分散して読み書きを行います。データを分割処理することから、ストライピングと呼ばれます。ハードディスクドライブは1台の大きなドライブとして扱われ、並列的に処理が行われるので、読み書きの性能が向上します。

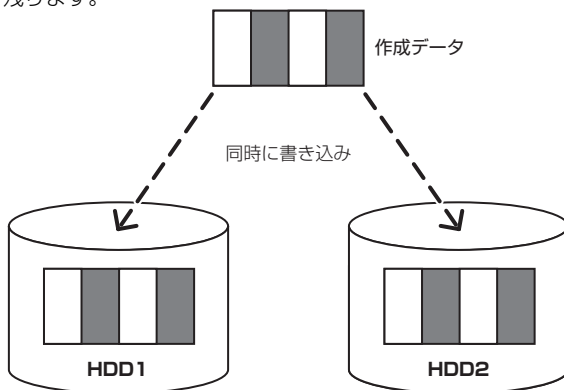


RAID-0 にはデータの保護機能はありませんので、2台のハードディスクドライブのうち1台でもハードディスクドライブが故障すると、2台のハードディスクドライブ上のすべてのデータは使用できなくなります。詳しくは、『東芝 RAID のヘルプ』を参照してください。

参照 「本節 ②-2- ヘルプの起動方法」

【RAID-1 (ミラーリング)】

RAID-1 では、1つのデータを複数 (本製品の場合2台) のハードディスクドライブに同時に書き込みます。鏡のようにデータが複写されることから、ミラーリングと呼ばれます。どちらかのハードディスクドライブが壊れても、もう一方の壊れていないハードディスクドライブにデータが残ります。



「東芝 RAID」では、ハードディスクドライブの状態を定期的にチェックし、障害発生時にはメッセージやアイコンでお知らせします。障害が発生したハードディスクドライブを交換すれば、壊れていなかったほうのハードディスクドライブに保存されているデータを簡単に新しいハードディスクドライブにコピーすることができます。データを安全に管理することに役立ちます。RAID-1 に設定すると、使用できるハードディスク容量は HDD1 の容量分となります。

メモ

- 購入時の状態から RAID-1 (ミラーリング) 構成にすると、HDD2 のデータは消去されます。
- 購入時の状態から RAID-1 (ミラーリング) 構成にするには、HDD1 のデータをすべて HDD2 にコピーする必要があります。このため、RAID-1 (ミラーリング) 構成に変更するには時間がかかりますが、その間もアプリケーションを通常と同じように使用できます。また、電源オフ、スタンバイまたは休止状態になった場合でも、復帰したときに、電源を切った部分から引き続き RAID-1 (ミラーリング) 構成への変更を行います。
- RAID-1 (ミラーリング) を実行しているハードディスクドライブを他のパソコン上では使用しないでください。
- 保守、修理などでハードディスクドライブを交換した場合、RAID-1 (ミラーリング) を再構成してください。RAID-1 (ミラーリング) の再構成の方法について詳しくは、『東芝 RAID のヘルプ』を参照してください。

参照 東芝 RAID のヘルプの起動方法

「本節 ②-2- ヘルプの起動方法」

- RAID-1 (ミラーリング) のより安定した運用と、ハードディスクドライブの故障に対する保守対応を容易にするためにメディアチェックを定期的に行われることをおすすめします。
データの信頼性を持つ RAID-1 (ミラーリング) の場合、ハードディスクドライブの故障が発生し、そのハードディスクドライブを交換すると、故障していないほかのハードディスクドライブのデータをもとに、データの再構築を行います。
しかし、故障していないほかのハードディスクドライブの中に不良ブロックなどが存在すると、その部分のデータの消失や、システムダウンとなる可能性があります。このような状況をできるだけ回避するためには、RAID-1 (ミラーリング) のメディアチェックを定期的に行うことが、効果的です。
「東芝 RAID」では、毎月第3水曜日正午からメディアチェックを実行するように初期設定されています。

お願い 「東芝 RAID」の使用にあたって

- RAID-1 (ミラーリング) を構成していても、ハードディスクが2台とも故障してしまった場合は、データが消失します。そのため、データは定期的に外部記憶メディアにバックアップをとっておいてください。
- ご購入時の状態から RAID-0 (ストライピング) 構成に変更するには、パソコンのリカバリ (システムの復元) が必要となります。
- RAID-0 (ストライピング) 構成の場合、Windows から見える容量は、RAID を構成する2台のハードディスクドライブの合計した容量となります。例えば 40GB のハードディスクドライブ2台で RAID-0 (ストライピング) を構成した場合は、Windows からは 80GB / 1台のハードディスクとして見えます。
ただし、QosmioPlayer が導入されている場合は、QosmioPlayer で使用している容量分、少なくなります。
- RAID-0 (ストライピング) 構成の場合、2台のハードディスクドライブのうち、1台でもハードディスクドライブが故障すると、2台のハードディスクドライブ上のすべてのデータは使用できなくなります。

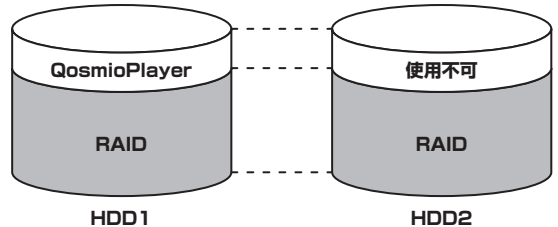
- BIOS セットアップで RAID 構成を変更すると、ハードディスクドライブのデータがすべて消去されますので、十分に注意してください。

参照 RAID 構成の変更

「本章 3-③-14 RAID ARRAY」

お願い QosmioPlayer と「東芝 RAID」について

- ご購入時の状態では、HDD1 に QosmioPlayer のための領域があります。QosmioPlayer 領域は、RAID-1 (ミラーリング)、RAID-0 (ストライピング) とともに構成することはできません。HDD1 のうち、RAID-1 (ミラーリング)、RAID-0 (ストライピング) を構成できるのは、QosmioPlayer 領域以外の領域になります。また、RAID-1 (ミラーリング)、RAID-0 (ストライピング) を構成する場合、HDD1 と HDD2 は同じ容量でなければならないため、HDD2 で RAID 構成に使用できる容量は、HDD1 と同じになります。



参照 QosmioPlayer について

『オーディオ & ビジュアルガイド』

QosmioPlayer の録画領域を削除すると、RAID 構成に使用できる容量を増やすことができます。

参照 録画領域の削除 『オーディオ & ビジュアルガイド』 付録 4 QosmioPlayer の再インストール」

- QosmioPlayer は、RAID 構成にはなりません。RAID-1 (ミラーリング) 構成にしても、HDD1 が動作しなくなった場合は、QosmioPlayer は動作しなくなります。また、QosmioPlayer の録画データも消失します。
- ハードディスクドライブの1台が故障した状態のまま、QosmioPlayer の再インストールは行わないでください。

お願い 内蔵ハードディスクドライブが壊れてしまったとき

- RAID-1 (ミラーリング) を構成しているときに、内蔵ハードディスクドライブ (HDD1、HDD2) が壊れてしまった場合は、警告音を鳴らし、メッセージを表示してお知らせします。
保守サービスに依頼して、内蔵ハードディスクを交換してください。

② 東芝 RAID を使う設定をする

ここでは、購入時の状態から RAID-0（ストライピング）、RAID-1（ミラーリング）を設定する方法について説明します。それぞれ2とおりの設定があります。

【RAID-0（ストライピング）を設定する】

RAID-0（ストライピング）は2台のハードディスクドライブを1台のドライブとして扱う機能のため、ハードディスクドライブの構成を購入時の状態から変更します。

①リカバリディスクからリカバリして、設定する

参照 「本節 1

リカバリディスクから RAID 機能を設定する」

②BIOS セットアップで設定する

参照 「本章 3-③-14 RAID ARRAY」

【RAID-1（ミラーリング）を設定する】

①東芝 RAID コンソールで設定する

参照 「本節 2 東芝 RAID コンソールの起動方法」

②リカバリディスクからリカバリして、設定する

参照 「本節 1

リカバリディスクから RAID 機能を設定する」

1 リカバリディスクからRAID機能を設定する

リカバリディスクを使って、システムを復元するときに RAID 機能を設定できます。あらかじめリカバリディスクを作成しておいてください。

参照 リカバリディスクの作成 『セットアップガイド 3章 4 リカバリディスクを作る』

お願い

- RAID 機能を設定すると、ハードディスク内に保存されていたデータは、すべて消えてしまいます。購入後に作成したファイルなど、必要なデータは、あらかじめ外部記憶メディアにバックアップをとって保存してください。

参照 バックアップについて

『セットアップガイド 3章 1 バックアップをとる』

1 ACアダプタと電源コードを接続する

2 リカバリディスクをセットして、パソコンの電源を切る

リカバリディスクが複数枚ある場合は、「ディスク 1」からセットしてください。

3 キーボードの(F12)キーを押しながら、パソコンの電源を入れる

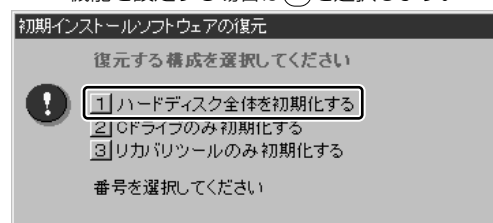
ユーザパスワードを設定している場合は、「Password=」と表示されます。ユーザパスワードを入力して(ENTER)キーを押してください。

4 →または←キーでCDのアイコンにカーソルを合わせ、(ENTER)キーを押す

[初期インストールソフトウェアの復元] 画面が表示されます。

5 ①キーを押す

RAID 機能を設定する場合は①を選択します。



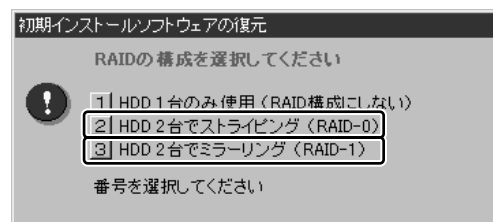
- ①「ハードディスク全体を初期化する」作成したデータや設定を消去し、RAID 機能を設定します。

メモ

- ②「Cドライブのみ初期化する」、③「リカバリツールのみ復元する」はリカバリする場合に使用します。

参照 リカバリ 『セットアップガイド 4章 2-④-2 リカバリディスクからリカバリをする』

6 実行したいRAID機能を選択する



RAID機能を設定する場合は、②または③を選択してください。

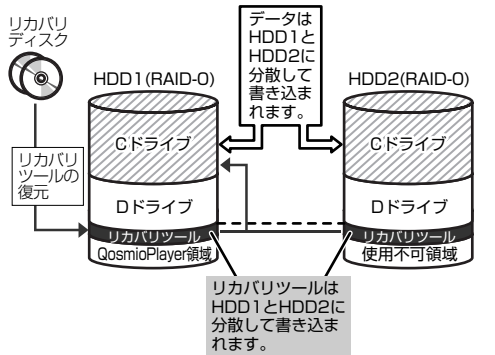
それぞれの動作は、次のようになります。

- * ストライピングの場合は、最大ハードディスク 2 台分（「QosmioPlayer」とシステム復元ツールをのぞく）の容量を使えますが、ミラーリングの場合はデータが複写されるため 1 台分（「QosmioPlayer」とシステム復元ツールをのぞく）の容量となります。

② 「HDD2 台でストライピング (RAID-0)」

- * ストライピング (RAID-0) は、2 台のハードディスクをまとめて 1 台のドライブとして扱う機能です。

ハードディスク 2 台を RAID-0 (ストライピング) に設定します。C ドライブには、リカバリディスクから購入時と同じシステムが復元されます。



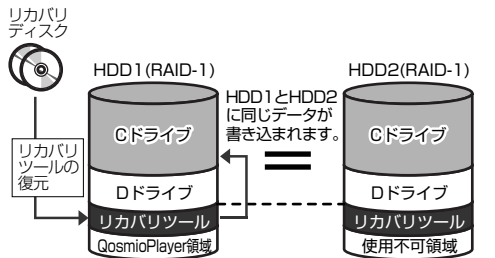
- * C ドライブの容量を最大ハードディスクドライブ 2 台分（「QosmioPlayer」とシステム復元ツールの容量をのぞく）にすることができます。「QosmioPlayer」は、RAID 機能の対象にならないため、片方のハードディスクには書き込まれません。

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。手順 7 に進んでください。

③ 「HDD2 台でミラーリング (RAID-1)」

- * ミラーリング (RAID-1) は、2 台のハードディスクに対して、同時に同じデータを書き込む機能です。

ハードディスク 2 台を RAID-1 (ミラーリング) に設定します。C ドライブには、リカバリディスクから購入時と同じシステムが復元されます。



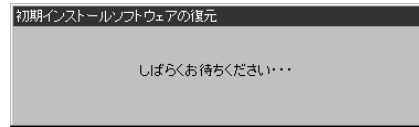
- * C ドライブの容量は最大 1 台分（「QosmioPlayer」とシステム復元ツールの容量をのぞく）になりますが、ハードディスクが片方壊れた場合、残ったハードディスクが正常であればパソコン本体は機能します。「QosmioPlayer」は、RAID 機能の対象にならないため、片方のハードディスクには書き込まれません。

「ハードディスクの内容は、すべて削除されます！」というメッセージが表示されます。手順 7 に進んでください。

7 Yキーを押す

処理を中止する場合は、(N)キーを押してください。
(Y)キーを押すと、復元が実行されます。

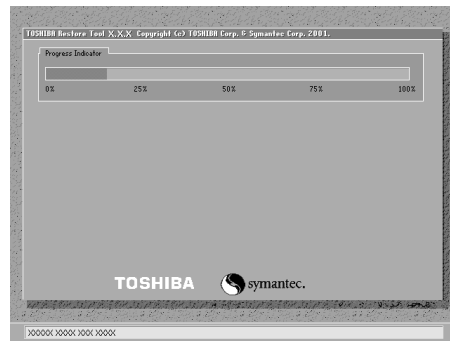
復元が実行される前に再起動する場合があります。また、「しばらくお待ちください・・・」画面が表示されるときがあります。



長い時間表示される場合がありますが、画面が切り替わるまでお待ちください。

リカバリディスクが複数枚ある場合は、ディスクを入れ替えるメッセージが表示されます。ディスクの番号順にセットし、(ENTER)キーを押してください。

RAID 機能設定中は、次の画面が表示されます。



復元の進行状況を示すグラフ表示が 100%まで伸びた後、もう 1 度 0%から始まります。グラフが 2 度目に 100%に達すると完了です。

設定が完了すると、終了画面が表示されます。

8 何かキーを押す

システムが再起動します。

9 Windows のセットアップを行う

参照 詳細について『セットアップガイド 1 章 3 Windows を使えるようにする』

メモ

- Windows のセットアップ後、パソコンの診断／環境設定が自動的に行われ、続けて「dynabook ランチャー」のセットアップ、アプリケーションをインストールするための画面が表示されます。メッセージに従って操作してください。

参照 詳細について

『セットアップガイド 4 章 3 リカバリしたあとは』

- ウイルスチェックソフトをインストールする場合は、表示されるメッセージに従って行ってください。
- 一部のアプリケーションは、システム復元後にアプリケーションのインストールをする必要があります。

参照 詳細について『セットアップガイド 4 章 3-② アプリケーションを再インストールする』

- リカバリが終了したら、リカバリディスクを取り出して保存しておいてください。

購入後に変更した設定がある場合は、Windows のセットアップ後に、もう 1 度設定をやり直してください。また、周辺機器の接続、購入後に追加したアプリケーションのインストールも、Windows のセットアップ後に行ってください。

参照 ▶ 周辺機器の接続

「3 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

2 東芝 RAID コンソールの起動方法

「東芝 RAID コンソール」を使って、RAID 構成や状態を確認することができます。購入時の状態から RAID-1 (ミラーリング) を設定するには、[東芝 RAID コンソール] 画面から設定ができます。

- 1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [RAID] → [RAID コンソール] をクリックする

ヘルプの起動方法

「東芝 RAID」の操作方法については、ヘルプを参照してください。東芝 RAID の使用方法や目的別使用方法 (ストライピング、ミラーリングの設定、構成変更、解除など) についても説明しています。

- 1 「東芝 RAID コンソール」を起動し、[ヘルプ] ボタンをクリックする

3

BIOS セットアップを使う

BIOS セットアップとは、パソコンのシステム構成をパソコン本体から設定するプログラムのことです。次のような設定ができます。

- ハードウェア環境（パソコン本体、周辺機器接続ポート）の設定
- セキュリティの設定
- 起動方法の設定
- 省電力の設定



メモ BIOS セットアップを使用する前の注意

- 通常、システム構成の変更は Windows 上の「東芝 HW セットアップ」、「東芝省電力」、「デバイスマネージャ」などで行ってください。BIOS セットアップと Windows 上の設定が異なる場合、Windows 上の設定が優先されます。
- 使用しているシステムによっては、システム構成を変更しても、変更が反映されない場合があります。
- BIOS セットアップで設定した内容は、電源を切っても消えません。しかし、内蔵バッテリー（時計用バッテリー）が消耗した場合は標準設定値に戻ります。

① 起動と終了／BIOS セットアップの操作

1 起動

1 (ESC)キーを押しながら電源を入れる

「Password = 」と表示された場合は、登録したユーザパスワードを入力し、(ENTER)キーを押してください。

「Check system. Then press [F1] key.」と表示されます。

2 (F1)キーを押す

BIOS セットアップが起動します。

2 終了

変更した内容を有効にして終了します。

1 (FN)+(→)キーを押す

本製品では、(FN)+(→)キーが(END)キーの機能を持ちます。

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。

変更した項目によっては、再起動されます。

途中で終了する方法

設定内容がよくわからなくなったり、途中で設定を中止する場合に行います。この場合は変更した内容はすべて無効になります。設定値は変更前の状態のままです。

1 (ESC)キーを押す

画面にメッセージが表示されます。

2 (Y)キーを押す

BIOS セットアップが終了します。

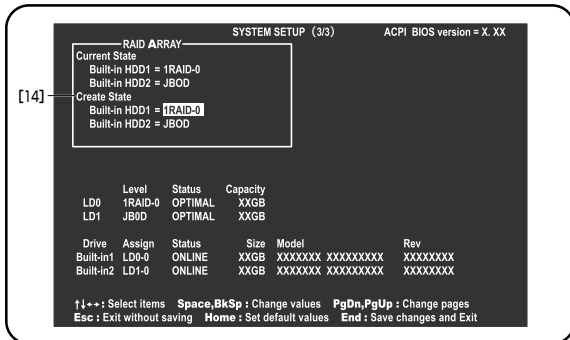
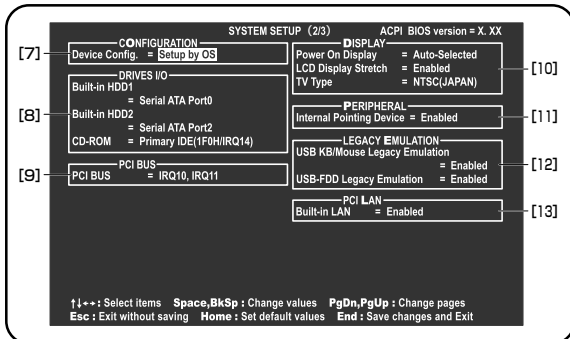
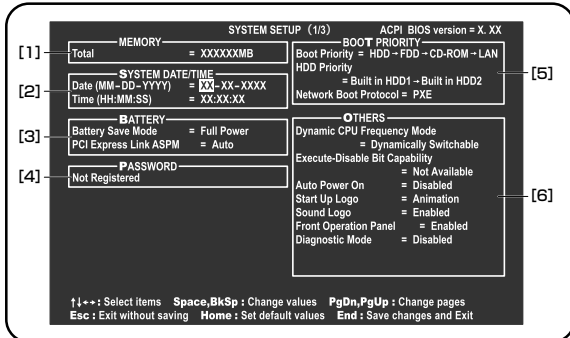
3 基本操作

基本操作は次のとおりです。

変更したい項目を選択する	(↑)、(↓)、(←)、(→) 画面中で反転している部分が現在変更できる項目です。
項目の内容を変更する	(SPACE) または (BACKSPACE)
画面を切り替える	(FN)+(↓) または (FN)+(↑) 本製品では、(FN)+(↓) が (PGDN)キー、(FN)+(↑) が (PGUP)キーの機能を持ちます。
設定内容を標準値にする	(FN)+(←) 本製品では、(FN)+(←) が (HOME)キーの機能を持ちます。次の項目は、この操作をしても変更されません。 <ul style="list-style-type: none">● PASSWORD● SYSTEM DATE/TIME● Execute-Disable Bit Capability

② BIOS セットアップの画面

BIOS セットアップには次の3つの画面があります。



(注) 画面は標準設定値の表示例です。

③ 設定項目

カーソルが移動しない項目は、変更できません(参照のみ)。ここでは、標準設定値を「標準値」と記述します。

1 MEMORY

【Total】

本体に取り付けられているメモリの総メモリ容量が表示されます。

2 SYSTEM DATE/TIME

日付と時刻の設定は(SPACE)または(BACKSPACE)キーで行います。

月と日と年、時と分と秒の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

【Date】

日付を設定します。

【Time】

時刻を設定します。

3 BATTERY

【Battery Save Mode】

バッテリーセーブモードを設定します。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウが開きます。「User Setting」を選択した場合のみ、設定の変更ができません。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの設定項目は次のように表示されます。

●Full Power (標準値)

Processing Speed = High
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Super-Bright
Cooling Method = Maximum Performance

●Low Power

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Bright
Cooling Method = Battery Optimized

●User Setting (設定例)

Processing Speed = Low
CPU Sleep Mode = Enabled
LCD Brightness = Semi-Bright
Cooling Method = Battery Optimized

(注) LCD Brightnessは、ACアダプタを接続している場合の表示内容です。

「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウを閉じるには、(↑)(↓)キーを押して選択項目を「Processing Speed」または「Cooling Method」の外に移動します。

次に「BATTERY SAVE OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Processing Speed

処理速度を設定します。使用するアプリケーションソフトによっては設定を変更する必要があります。

- ・ High 処理速度を高速に設定する
- ・ Low 処理速度を低速に設定する

● CPU Sleep Mode

CPUが処理待ち状態のとき、電力消費を低減します。一部のアプリケーションソフトでは「Enabled」に設定すると処理速度が遅くなることがあります。その場合は「Disabled」に設定してください。

- ・ Enabled 電力消費を低減する
- ・ Disabled 電力消費を低減しない

● LCD Brightness (LCD 輝度)

画面の明るさを選択します。

- ・ Semi-Bright 低輝度に設定する
- ・ Super-Bright 最高輝度に設定する
- ・ Bright 高輝度に設定する

● Cooling Method (CPU 熱制御方式)

CPUの熱を冷ます方式を選択します。CPUが高熱を帯びると故障の原因になります。

- ・ Maximum Performance
..... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にファンを使用して冷却します。
- ・ Performance
..... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、[Maximum Performance] と [Battery Optimized] の中間的な方法で冷却します。
- ・ Battery Optimized
..... パソコン本体内部の温度が上昇したときに、主にCPUの処理速度を落として冷却します。[Performance] より消費電力は少なくなります。

【 PCI Express Link ASPM 】

PCI Expressの省電力機能を設定します。

- ・ Auto (標準値) バッテリ動作中かつPCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。
- ・ Disabled 省電力機能を無効にし、パフォーマンスを優先させます。
- ・ Enabled PCI Expressデバイスが使用されていないときに、消費電力を抑えます。

4 PASSWORD

ユーザパスワードの登録や削除は「東芝パスワードユーティリティ」で行うことを推奨します。

参照 東芝パスワードユーティリティでのパスワード設定
《オンラインマニュアル (検索) : ユーザパスワード》

パスワードの入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、再度登録を行ってください。

【 Not Registered 】

ユーザパスワードが登録されていないときに表示されます (標準値)。

【 Registered 】

ユーザパスワードが登録されているときに表示されます。

■ ユーザパスワードの登録 ■

1 BIOS セットアップを起動する

2 「PASSWORD」の「Not Registered」を選び、「SPACE」または「BACKSPACE」キーを押す

パスワード入力画面が表示されます。ユーザパスワードが登録されている場合は、「PASSWORD」に「Registered」と表示されます。その場合は、ユーザパスワードを削除してから、登録してください。

参照 ユーザパスワードの削除方法

「本項 4- ユーザパスワードの削除」

3 パスワードを入力する

パスワードは50文字以内で入力できます。パスワードに使用できる文字は、「東芝パスワードユーティリティ」の場合と同様です。パスワードは1文字ごとに*が表示されますので、画面で確認できません。よく確認してから入力してください。

4 **ENTER**キーを押す

1回目のパスワードが確認され、パスワードの再入力画面が表示されます。

5 2回目のパスワードを入力する

パスワードは手順3と同じパスワードを入力してください。

6 **ENTER**キーを押す

パスワードが登録されます。2回目のパスワードが1回目のパスワードと異なる場合は、再度パスワードの入力画面が表示されます。手順3からやり直してください。

7 ユーザパスワードの登録が終了したら、(FN) +**(→)キーを押す**

本製品では、(FN) + (→)キーが(END)キーの機能を持ちます。

次のようなメッセージが表示されます。

Are you sure ? (Y/N)
The changes you made will cause the system to reboot.

8 (Y)キーを押す

パスワードが登録されます。

BIOS セットアップの画面に戻るには(N)キーを押します。

■ ユーザパスワードの削除 ■

「東芝パスワードユーティリティ」からの削除については《オンラインマニュアル (検索) : ユーザパスワード》を確認してください。

1 BIOS セットアップを起動する**2 [PASSWORD] の [Registered] を選び、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (ENTER)キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 (ENTER)キーを押す

ここでは何も入力しません。

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 (ENTER)キーを押す

ここでは何も入力しません。

パスワードが削除されます。手順3で入力したパスワードが登録したパスワードと異なる場合は、ビーブ音が鳴りエラーメッセージが表示されます。手順3からやり直してください。

入力エラーが3回続いた場合は、以後パスワードの項目にカーソルが移動できなくなります。この場合は、パソコン本体の電源を入れ直し、もう1度設定を行ってください。

■ ユーザパスワードを忘れてしまったとき ■

「東芝パスワードユーティリティ」でパスワードファイルを外部記憶メディアに保存した場合は、他のパソコンの「メモ帳」などでパスワードファイルを開き、確認したパスワードを入力してください。パスワードファイルを外部記憶メディアに保存しなかった場合にユーザパスワードを忘れてしまったときは、近くの保守サービスに相談してください。ユーザパスワードの解除を保守サービスに依頼する場合は、有償です。またそのとき、身分証明書(お客様自身を確認できる物)の提示が必要となります。

■ ユーザパスワードの変更 ■**1 BIOS セットアップを起動する****2 「Password」の「Registered」を選び、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す**

パスワードが入力できる状態になります。

3 登録してあるパスワードを入力する

入力すると1文字ごとに*が表示されます。

4 (ENTER)キーを押す

「Password」が「New Password」に変わって表示されます。

5 新しいパスワードを入力し、(ENTER)キーを押す

「New Password」が「Verify Password」に変わって表示されます。

6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力し、(ENTER)キーを押す

パスワードが変更されます。

手順5と手順6で入力したパスワードが一致しない場合は、エラーメッセージが表示されます。手順5からやり直してください。

5 BOOT PRIORITY**【 Boot Priority 】**

システムを起動するディスクドライブの順番を設定します。通常は「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」に設定してください。

- ・ HDD → FDD → CD-ROM → LAN (標準値)
 - ・ FDD → HDD → CD-ROM → LAN
 - ・ HDD → CD-ROM → LAN → FDD
 - ・ FDD → CD-ROM → LAN → HDD
 - ・ CD-ROM → LAN → HDD → FDD
 - ・ CD-ROM → LAN → FDD → HDD
- } 指定のドライブ順に起動する

QosmioPlayer 機能を使用して起動するとHDDが最優先されます。

【 HDD Priority 】

システムを起動するハードディスクドライブの順番を設定します。

- ・ Built in HDD1 → Built in HDD2 (標準値)
- ・ Built in HDD2 → Built in HDD1

【 Network Boot Protocol 】

ネットワークからの起動について設定します。

- ・ PXE (標準値) PXE プロトコルに設定する
- ・ RPL RPL プロトコルに設定する

6 OTHERS

【 Dynamic CPU Frequency Mode 】

- ・ Dynamically Switchable (標準値)
..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を有効にし、使用状況に応じてCPU周波数を自動的に切り替えます。
- ・ Always High
..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を高周波数にしてパソコンの処理能力を優先します。
- ・ Always Low
..... CPUの消費電力・周波数自動切り替え機能を無効にし、CPU周波数を低い周波数にしてパソコンのバッテリー駆動時間を優先します。

【 Execute-Disable Bit Capability 】

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能を有効にするかどうかを設定します。

エグゼキュート・ディスエーブル・ビット機能とは、コンピュータウイルスや不正アクセスによるバッファ・オーバーフロー攻撃からパソコンを守るために、セキュリティを強化する機能です。

- ・ Available 有効にする
- ・ Not Available (標準値) 無効にする

【 Auto Power On (タイマ・オン機能) 】

タイマ・オン機能の設定状態を示します。タイマ・オン機能は1回のみ有効です。起動後は設定が解除されます。Windows XPを使用している場合は「Auto Power On」の設定は無効になります。Windowsのタスクスケジューラを使用してください。

- ・ Disabled (標準値) タイマ・オン機能が設定されていない
- ・ Enabled タイマ・オン機能が設定されている

タイマ・オン機能の設定は「OPTIONS」ウィンドウで行います。

パスワードセキュリティで設定したパスワードと休止状態が設定してある状態で、タイマ・オン機能 (Auto Power On) を設定してシステムを起動させた場合、「Password=」と表示されます。パスワードセキュリティで設定したパスワードを入力すると、休止状態からWindowsに復帰します。

参照 ▶ パスワードセキュリティの設定

「本章 1 システム環境の変更とは」

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

アラームの時刻の設定は(SPACE) または (BACKSPACE) キーで行います。

時と分、月と日の切り替えは、(↑)(↓)キーで行います。

- Alarm Time
自動的に電源を入れる時間を設定します。
 - ・ Disabled 時間を設定しない
- Alarm Date Option
自動的に電源を入れる月日を設定します。「Alarm Time」が「Disabled」の場合は、設定できません。
 - ・ Disabled 月日を設定しない

【 Start Up Logo 】

起動時に表示される「Qosmio」ロゴについて設定します。

- ・ Animation (標準値) アニメーションロゴが表示される
- ・ Picture ピクチャ (静止画) ロゴが表示される

QosmioPlayer 機能を使用して起動するとピクチャ (静止画) ロゴが表示されます。

【 Sound Logo 】

パソコンを起動したときに音を鳴らすかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 音を鳴らす
- ・ Disabled 音を鳴らさない

QosmioPlayer 機能を使用して起動すると音は鳴りません。

【 Front Operation Panel 】

フロントオペレーションパネルを使用するかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) フロントオペレーションパネルを使用する
- ・ Disabled フロントオペレーションパネルを使用しない

「Enabled」を選択すると、「OPTIONS」ウィンドウが開きます。

「OPTIONS」ウィンドウの項目について説明します。

● Beep Volume

フロントオペレーションパネルのボタンに触れたときに、ビーブ音を鳴らす音量を設定します。

- ・ Off 音を鳴らさない
- ・ Low 音を鳴らす (音量: 小さい)
- ・ Medium (標準値) 音を鳴らす (音量: 中)
- ・ High 音を鳴らす (音量: 大きい)

● LED Mode

フロントオペレーションパネルのボタンの上にあるLEDの点灯/消灯の状態を設定します。各項目の説明は、ボタンに触れていないときの状態です。

- ・ Mode1 すべて消灯している
- ・ Mode2 (標準値)
..... TV ボタン、CD/DVD ボタン
パソコン本体の電源が入っているとき
: 点灯している
電源が入っていない、
またはスタンバイ、休止状態のとき
: 消灯している
その他のボタン
: 消灯している

【 Diagnostic Mode 】

BIOSのハードウェア診断テスト機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Disabled (標準値) ハードウェア診断テスト機能を無効にする
- ・ Enabled ハードウェア診断テスト機能を有効にする

7 CONFIGURATION**【 Device Config. 】**

ブート時に BIOS が初期化する装置を指定します。

- ・ Setup by OS (標準値) OS をロードするのに必要な装置のみ初期化する
それ以外の装置は OS が初期化します。
- ・ All Devices すべての装置を初期化する

ブレインストールされている OS を使用する場合は、「Setup by OS」(標準値) を選択することを推奨します。

8 DRIVES I/O**【 Built-in HDD1 】**

HDD1 のアドレスの設定を表示します。変更はできません。

【 Built-in HDD2 】

HDD2 のアドレスの設定を表示します。変更はできません。

【 CD-ROM 】

ドライブのアドレス、割り込みレベルの設定を表示します。変更はできません。

内蔵されているドライブが CD-ROM ドライブではない場合も、すべて「CD-ROM」と表示されます。

9 PCI BUS

PCIバスの割り込みレベルを表示します。変更はできません。

10 DISPLAY**【 Power On Display 】**

起動時の Windows ログを表示する表示装置を選択します。

- ・ Auto-Selected (標準値)
..... システム起動時に外部ディスプレイを接続しているときは外部ディスプレイだけに、接続していないときは本体液晶ディスプレイだけに表示する
- ・ LCD + Analog RGB
..... 外部ディスプレイと本体液晶ディスプレイに同時表示する

SVGA モードに対応していない外部ディスプレイを接続して、「LCD + Analog RGB」を選択した場合、外部ディスプレイには画面が表示されません。

Windows 起動後は、前回電源を切る前に複数の表示装置で表示していて、起動時に前回接続していた表示装置が存在すればその表示装置に表示されます。

前回電源を切る前に接続していた表示装置が存在しない場合は、BIOS セットアップの「Power On Display」に従って表示されます (外部ディスプレイが接続されていない場合は「Power On Display」の設定に関わらず本体液晶ディスプレイのみに表示されます)。

QosmioPlayer 機能を使用して起動すると本体液晶ディスプレイにのみ表示されます。

【 LCD Display Stretch 】

本体液晶ディスプレイの解像度の伸張を選択します。

- ・ Enabled(標準値) 解像度の小さい表示モードを伸張して表示する
- ・ Disabled 解像度の小さい表示モードは伸張せずにそのまま表示する

【 TV Type 】

テレビ受信機を選択します。

- ・ NTSC (JAPAN) (標準値) 日本仕様の TV 受信機
- ・ PAL (S-Video) ヨーロッパ仕様の TV 受信機
- ・ 525p (480p,D2)
- ・ 750p (720p,D4)
- ・ 1125i (1080i,D3)
- ・ 525i (480i,D1)
- ・ NTSC (US) 米国仕様の TV 受信機

11 PERIPHERAL**【 Internal Pointing Device 】**

タッチパッドを使用する/使用しないを設定します。

- ・ Enabled (標準値) 使用する
- ・ Disabled 使用しない

12 LEGACY EMULATION**【 USB KB/Mouse Legacy Emulation 】**

USB キーボードやマウスのレガシーサポートを行うかどうかを設定します。

- ・ Enabled (標準値) レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB キーボード/USB マウスが使用できます。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

【 USB-FDD Legacy Emulation 】

- ・ Enabled (標準値) レガシーサポートを行う
ドライバなしで USB フロッピーディスクドライブが使用できます。フロッピーディスクから起動する場合は、こちらに設定します。
- ・ Disabled レガシーサポートを行わない

「USB-FDD Legacy Emulation」が「Enabled」に設定されていても、[5]「BOOT PRIORITY」の「Boot Priority」が標準値の「HDD → FDD → CD-ROM → LAN」の場合は、本体ハードディスクから起動します。

13 PCI LAN**【 Built-in LAN 】**

内蔵 LAN の機能を有効にするかどうかの設定をします。

- ・ Enabled (標準値) 有効にする
- ・ Disabled 無効にする

14 RAID ARRAY

RAID 構成の設定を行います。

【 Current State 】

現在のハードディスクドライブの状態を示します。

- Built-in HDD1
HDD1 の RAID レベルを表示します。
- Built-in HDD2
HDD2 の RAID レベルを表示します。

表示される RAID レベルは、次のいずれかです。

- ・ Enabled (標準値)
..... 有効にする
- ・ JBOD RAID 情報をもたない、一般的に使われているハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることはできません (リカバリディスクを使用してインストールする場合を除く)。
- ・ 1 RAID-0 RAID 情報をもつが、RAID 構成されていないハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることができます。
- ・ 2 RAID-0 ハードディスク 2 台で RAID-0 (ストライピング) を構成する
- ・ RAID-1 ハードディスク 2 台で RAID-1 (ミラーリング) を構成する
- ・ UNKNOWN JBOD、1 RAID-0、2 RAID-0、RAID-1 以外の RAID の状態
「Create State」で「JBOD」を選択し、RAID 用のハードディスクとして使用しないように変更できます。
- ・ No Drive ハードディスクが接続されていない状態

【 Create State 】

RAID レベルを設定します。

お願い

- BIOS セットアップで RAID 構成の設定を変更すると、ハードディスクドライブのデータがすべて消去されますので十分に注意してください。
このため、RAID 構成の設定を第三者に変更されないように、ユーザパスワードまたはスーパーバイザパスワードを登録することをおすすめします。
またスーパーバイザパスワードを登録して、管理者権限を持たないユーザは BIOS セットアップの設定を変更できないように制限を加えることもできます。

参照 ▶ パスワードの設定

《オンラインマニュアル (検索) : ユーザパスワード》

《オンラインマニュアル (検索) :

スーパーバイザパスワード》

- Built-in HDD1
HDD1 の RAID レベルを設定します。
- Built-in HDD2
HDD2 の RAID レベルを設定します。

「Built-in HDD1」、「Built-in HDD2」ともに、選択できる RAID レベルは次のとおりです。

- ・ JBOD (「Built-in HDD2」の標準値)
..... RAID 情報をもたない、一般的に使われているハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることはできません (リカバリディスクを使用してインストールする場合を除く)。
- ・ 1 RAID-0 (「Built-in HDD1」の標準値)
..... RAID 情報をもつが、RAID 構成されていないハードディスクを示す
このハードディスクに Windows をインストールすることができます。
- ・ 2 RAID-0
..... ハードディスク 2 台で RAID-0 (ストライピング) を構成する

(FN)+←キーを押すと、「Current State」と同内容に戻ります。

(FN)+←キーを押した場合、BIOS セットアップのすべての設定内容 (「PASSWORD」、「SYSTEM DATE/TIME」、「Execute-Disable Bit Capability」を除く) が標準値になります。

【 Execute Creation 】

「Create State」で設定を変更した場合のみ、表示されます。

「Create State」で変更した内容を実行します。

- ①「Execute Creation」を選び、(SPACE)または(BACKSPACE)キーを押す
画面下部に「Warning: If you change RAID array, you need to install OS again. Are you sure ? All data on the HDD(s) will be destroyed. Do you really want to do this? If "Yes", please type the key string which is written in manual.」と表示されます。

RAID 構成の設定を変更すると、ハードディスクドライブのデータがすべて消去されますので十分に注意してください。

RAID 構成の設定を変更する場合は、続けて手順②の操作を行ってください。

RAID 構成の設定を変更せず中止する場合は、(ESC)キーを押し、「Create State」を「Current State」と同じ内容に変更してください。

または、(FN)+←キーを押すと、RAID 構成の変更が中止され、「Create State」が「Current State」と同じ内容に戻ります。

(FN)+←キーを押した場合、BIOS セットアップのすべての設定内容 (「PASSWORD」、「SYSTEM DATE/TIME」、「Execute-Disable Bit Capability」を除く) が標準値になります。

- ②「1234」と入力し (①②③④キーを押す)、(ENTER)キーを押す
RAID 構成の変更が反映されます。

6 章

パソコンの動作がおかしいときは

パソコンの操作をしていて困ったときに、どうしたら良いかを説明しています。

「dynabook.com」で情報を調べる方法なども紹介しています。

トラブルが起こったときは、あわてずに、この章を読んで、解消方法を探してみてください。

1	トラブルを解消するまでの流れ	80
2	トラブル解消によく使う操作	86
3	問題の切り分け方法	87
4	Q&A集	89
5	問い合わせ先	
	- OS / アプリケーション / プロバイダー	100

1

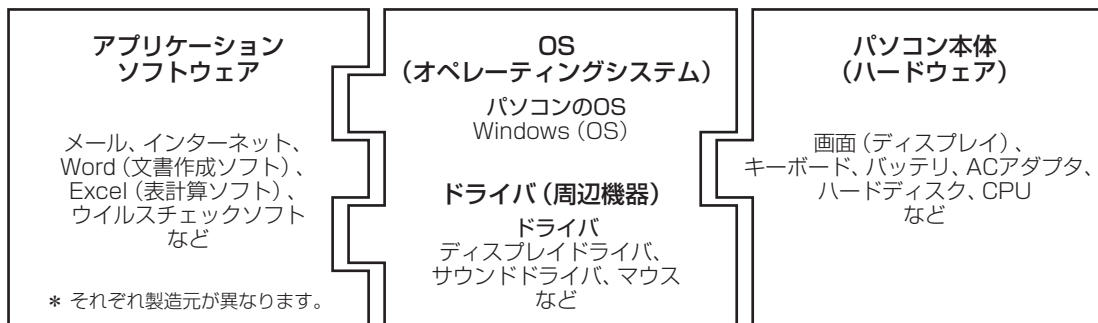
トラブルを解消するまでの流れ

お使いのパソコンに起こったトラブルについて、解決方法を見つけていきましょう。

① トラブルの原因をつき止めよう

パソコンに起こるトラブルは、その原因がどこにあるかによって解決策が異なります。そのために、パソコンの構造をある程度知っておくことが必要です。ここでは、パソコンの構成と、それぞれの構成部分で起こるトラブルの例、その解決方法を紹介します。

【パソコンを構成する3つの部分】



パソコンはこれらの高度な技術の集合体です。トラブルの原因がそれぞれの製造元にしかわからない場合も多くあります。トラブルの症状にあわせた対処をすることが解決への早道です。トラブルの解決には、最初に原因の切り分けを行います。一般的にはアプリケーションソフトウェア→OS、ドライバ→パソコン本体の順にチェックします。

STEP 1 アプリケーションソフトウェアのチェック

例 1: メールやインターネットが繋がらない

アクセスポイントやメールサーバ、ID、パスワードなどの設定を確認します。これらの設定は契約プロバイダごとに異なります。契約プロバイダから指定された設定データが正しくパソコンの設定に反映されているかを確認してください。

例 2: 使いかたがわからない

紙マニュアルやオンラインマニュアルを読んで、アプリケーションソフトの使いかたを確認します。

次頁Aへ

STEP 2 OS やドライバのチェック

例 3: 正常に画面が表示されない、音が出ない、設定があっているのにインターネットにつながらない

例 4: 青い画面で「STOPOX*****」(一般に「STOP エラー」や「ブルースクリーン」「ブルーパニック」とよばれる画面)が表示された

周辺機器やソフトをインストールしたあとに起こることが多いものです。その前に行った作業を一度元に戻すことでトラブルが解決する場合があります。

次頁Bへ

STEP 3 パソコン本体のチェック

例 5: 電源ランプが点灯せず、パソコンがまったく動かない。ドライバを入れ直しても機器が動かない
パソコン本体が動作する場合は、「リカバリ (再セットアップ)」を行ってください。「リカバリ」は、ハードディスクのデータが消えるため、バックアップを行うことをおすすめします。

次頁Cへ

A 各アプリケーションのトラブル解消法／プロバイダへのお問い合わせ

例 1：プロバイダへのお問い合わせについて
お客様ご契約のプロバイダの窓口へお問い合わせください。
本製品の「簡単インターネット」などから契約できるプロバイダのお問い合わせ先は「本章 5 問い合わせ先」を参照してください。

例 2：アプリケーションの使いかたについて
『オーディオ＆ビジュアルガイド』、オンラインマニュアルなどや、各アプリケーションのヘルプをご確認いただくか、各アプリケーションのサポート窓口へお問い合わせください。

参照 「本章 5 問い合わせ先」

B OS、ドライバのトラブル解消法

例 3：ドライバの入れ直しについて
「3章 1-① ドライバをインストールする」を参照してください。

例 4：トラブル解消によく使う操作について
「本章 2 トラブル解消によく使う操作」や「本章 3 問題の切り分け方法」を参照してください。

例 4：周辺機器の取りはずしについて
「3章 周辺機器を使って機能を広げよう」を参照してください。

追加した周辺機器をはずしてみてもどうか、追加したソフトを削除してはどうかなどと試してみてください。



それでもトラブルが解消しない場合には、「東芝 PC ダイヤル」へお問い合わせください。

参照 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

C パソコン本体のトラブル解消法

例 5：必要なデータのバックアップをとる操作について
「セットアップガイド 3章 大切なデータを失わないために」を参照してください。

例 5：リカバリについて
「セットアップガイド 4章 買ったときの状態に戻すには」を参照してください。



それでもトラブルが解消しない、あるいはまったくパソコンが動かない場合は、パソコン本体が故障している可能性があります。パソコンの修理は、「東芝 PC 集中修理センタ」へ依頼してください。

参照 「本節 ④ 修理に出す」

パソコンの操作について、困ったときは、「東芝 PC ダイヤル」へお問い合わせください。

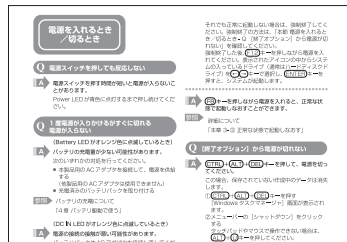
参照 「本節 ③ 電話で問い合わせる」

Q&Aや同梱マニュアル、FAQの紹介

パソコンのトラブルの原因は多岐にわたるため、ここではすべてを紹介することはできません。それぞれのお問い合わせ先/サポート窓口にご連絡いただく前に、次に紹介する情報をご活用ください。

Q&A形式での説明は、本書、オンラインマニュアルの「QA集」「よくあるご質問」にあります。

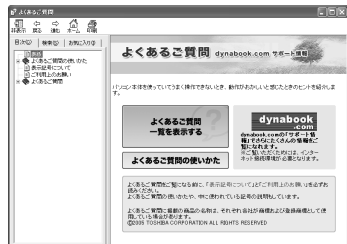
【「QA集」】



よくお問い合わせのあるパソコントラブルの解決方法を、Q&A形式で説明しています。

参照 「本章 4 Q&A集」

【よくあるご質問 dynabook.com サポート情報】



「よくあるご質問」は、「東芝 PC ダイアル」に特に問い合わせの多い項目をまとめていて、インターネットに接続しなくても見ることができます。本製品の電源を入れた状態でデスクトップの「よくあるご質問」アイコンをダブルクリックすると起動できます。

【オンラインマニュアル】



オンラインマニュアルは、アプリケーションの紹介や知っておくと便利なこと、Q&A形式の「QA集」など、さまざまな情報を検索できます。オンラインマニュアルは本製品の電源を入れた状態でデスクトップの「オンラインマニュアル」アイコンをダブルクリックすると起動できます。

参照 《オンラインマニュアル (検索) : QA集》

【dynabook.com よくあるご質問 (FAQ)】

URL : http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm



インターネットへ接続して、ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」にある「よくあるご質問 (FAQ)」で解決方法を検索できます。

また、「よくあるご質問 (FAQ)」を探しても問題が解決できないときは、メールにてお答えするオンライン相談窓口「東芝 PC オンライン」をご利用ください。

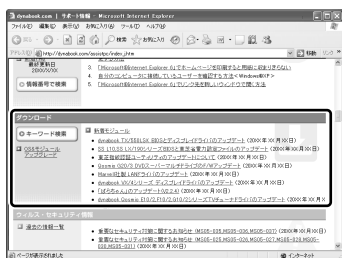
参照 「本節 ② トラブル事例を見てみる」

モジュールのダウンロード

「dynabook.com」では、ドライバ、BIOS、アプリケーションなどのさまざまなモジュールを検索し、ダウンロードすることができます。

最新モジュールをインストールすることで、パソコンのトラブルを解決できるケースがあります。OSをアップグレードしたい場合はOSにあったモジュールをダウンロードしてください。

URL : http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm



インターネットへ接続して、ホームページ「dynabook.com」の「サポート情報」にある「ダウンロード」から検索できます。

【キーワード検索】では、本製品のシリーズ名などを選択すると、モジュールの情報が一覧表示されます。

② トラブル事例を見てみる

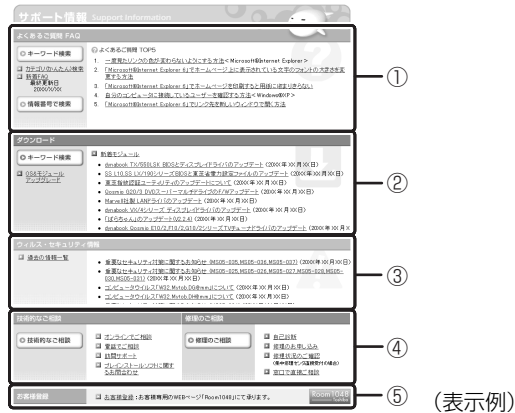
「dynabook.com」では、「よくあるご質問 (FAQ)」や、デバイスドライバや修正モジュールなどのダウンロード、Windows 関連情報を提供しています。

また、インターネットでのお客様登録を行うことができます。サポート窓口や修理についても案内しています。

デスクトップ上の  をクリックすると、

dynabook.comの説明画面が表示されます。

URL : http://dynabook.com/assistpc/index_j.htm



①よくあるご質問 (FAQ)
パソコンの操作に困ったときに、解決方法を探ることができます。

参照 「本項 - パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 (FAQ)」」

②ダウンロード
デバイスドライバや修正モジュールをダウンロードできます。

参照 「本節 ① - モジュールのダウンロード」

- ③ウイルス・セキュリティ情報
- ④技術的なご相談／修理のご相談
- ⑤お客様登録

相談窓口やPCのリサイクル、お客様登録については、「本章 パソコンの動作がおかしいときは」、『セットアップガイド 5 章』にも詳しく紹介されています。「東芝 PC 集中修理センタ」や「遠隔支援サービス」など、本書で紹介されているサポートのアドレスもこのページからアクセスすることができます。

1 「スタート」ボタンをクリックし、「インターネット」をクリックする

Internet Explorer が起動します。
購入時の状態では、起動して最初に本製品のサポート情報のページが表示されるように設定されています。

参照 インターネットの接続について
《できる dynabook 第 3 章
dynabook をインターネットにつなごう》

【パソコンの操作に困ったら「よくあるご質問 (FAQ)」】
「よくあるご質問 (FAQ)」では、日頃、よく寄せられる質問について、サポートスタッフが、図や解説をまじえて解決方法を掲載しています。



(表示例)

キーワード検索では、条件の選択やキーワードや文章を入力して、検索できます。



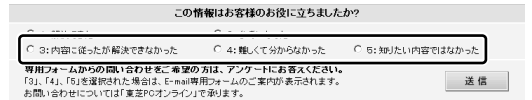
(表示例)

サポート情報は、最新情報を掲載するため、内容を変更することがあります。

【メールで質問する「東芝PCオンライン」】
「よくあるご質問 (FAQ)」を探しても問題が解決できないときは、専用フォームからお問い合わせください。24 時間 365 日いつでも受け付けており、サポート料は無料です。ご利用には「お客様登録」が必要ですので、事前に登録をしてください。

参照 『セットアップガイド 5 章 1-①
東芝 ID (TID) お客様登録のおすすめ』

- 1 「よくあるご質問 (FAQ)」で解消方法を探す
- 2 「A. 回答・対処方法」の説明の後のアンケートに答える



「3」「4」「5」のいずれかの項目にチェックをつけてください。「1」「2」の項目を選択すると、メールでのお問い合わせはできません。

3 [送信] ボタンをクリックする
PC オンラインへのリンク画面が表示されます。

4 「東芝 PC オンライン」をクリックする
画面の指示に従って専用フォームからご質問ください。メールにてご回答させていただきます。質問内容、お問い合わせ状況により、回答にお時間をいただく場合がございます。ご了承ください。この他、アプリケーションの取り扱い元では、ホームページに情報を掲載している場合があります。アプリケーションについて知りたいことがあるときは、ホームページを確認するのも良いでしょう。

参照 ホームページアドレスについて
「本章 5 問い合わせ先」

③ 電話で問い合わせる

パソコンの操作について、困ったときは、東芝 PC ダイアルに連絡してください。技術的な質問、問い合わせに電話で対応します。

2005年9月13日(火)より、PCダイアル問い合わせ番号が変更となります。

ナビダイヤル：全国共通電話番号
0570-00-3100

(サポート料無料)

受付時間：9:00～19:00(年中無休)

[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780でお受けしています。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC ダイアル」(<http://dynabook.com/assistpc/techsupport/dial.htm>)にてお知らせいたします。

●変更後のお問い合わせ先

全国共通電話番号

0120-97-1048

(通話料・サポート料無料)

受付時間：9:00～19:00(年中無休)

[電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください]

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様は、043-298-8780でお受けしています。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただく場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC ダイアル」(<http://dynabook.com/assistpc/techsupport/dial.htm>)にてお知らせいたします。

1 トラブルチェックシート

東芝 PC ダイアルでは電話での本製品の技術的な質問、お問い合わせにお答えいたします。円滑に対応させていただくために、次の内容をまとめ、お手元にお使いのパソコンをご用意のうえ、お問い合わせください。

Q.1 使用しているパソコンの型番は？

型番は本体裏面のラベルに記載されています。



Q.2 使用しているソフトウェア環境は？

Windows XP など、使用しているシステムとアプリケーションは？

システムのバージョンや CPU の種類を「東芝 PC 診断ツール」で確認してください。

Q.3 どのような症状が起きましたか？

なるべく具体的にお知らせください。

Q.4 その症状はどのような操作をした後、発生するようになりましたか？

なるべく具体的にお知らせください。

Q.5 エラーメッセージなどは表示されましたか？

表示された場合、表示内容をお知らせください。

Q.6 その症状はどれくらいの頻度で発生しますか？

- 一度発生したが、その後発生しない
- 常に発生する
- 電源を切らないと発生するが、電源を切ってから再起動すれば発生しない
- 電源を切ってから再起動しても必ず発生する
- その他：

Q.7 その症状が発生するのは決まった操作の後ですか？

- ある一定の操作をすると発生する
- どんな操作をしても発生する
- その他：

Q.8 インターネットや通信に関する相談の場合

プロバイダ名：

使用モデム名：

使用回線： ブロードバンド

ダイアルアップ接続

ISDN 接続

携帯電話・PHS 接続

Q.9 周辺機器に関する相談の場合

機器名(製品名)：

メーカー名：

2 遠隔支援サービス

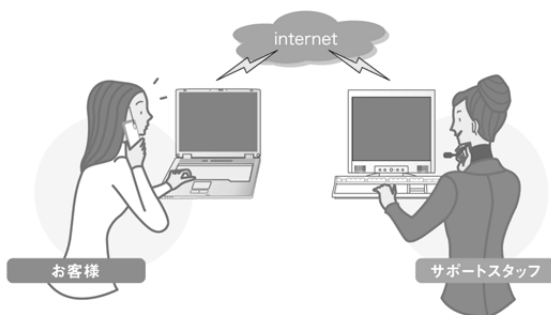
URL : http://dynabook.com/assistpc/remote/index_j.htm

「遠隔支援サービス」は、お客様のパソコン画面をサポートスタッフがインターネット経由で拝見しながら、技術サポートを行うサービスです。実際のパソコン操作は、サポートスタッフからの電話とおお客様のパソコンに表示されるマーカの指示に従い、お客様ご自身で行っていただきます。


メモ

- 本サービスの利用を希望される場合は、事前にPCダイヤルにご相談をお願いします。ご相談されずに本サービスを利用することはできません。
- 画面の画像情報を通信するためにブロードバンド回線(ADSLなど)が必要となります。また、電話にてサポートを行うため、インターネットと同時に電話が接続できることも必須となります。
- 本サービスでは、画面情報のみ送信されます。画面に表示されない限り、スタッフがパソコン本体に保存されている情報を見ることはできません。また、本サービスはセキュリティ対策を行っております。情報は暗号化されて送られ、個人情報の漏洩などのおそれはありません。
- 本サービスでは、お客様のパソコンに操作案内用のマーカを表示するためのデータを送りますが、お客様のパソコンの内部データを書き換えることは一切ありません。
- 本サービスは登録が不要です。同意事項を了承いただくことで、利用できます。本サービスは無償サービス*です。

* PCダイヤルへの通話料金やインターネットに接続するための費用などは、お客様の負担となります。

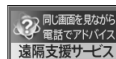
**お客様**

電話やマーカなどによる案内に従い、お客様ご自身でパソコンを操作していただきます。

PCダイヤル

お客様のPCの画面をPCダイヤル側で拝見します。その画面を見ながら、的確な操作方法を電話でお伝えします。

「遠隔支援サービス」に接続する場合は、インターネットに接続してからデスクトップ上の



をクリックし、表示された画面の



をクリックしてください。

詳しい接続方法、動作環境なども記載しております。

4 修理に出す

パソコンの修理のお申し込みは、東芝PC集中修理センターに連絡してください。修理のお申し込み方法には、次の3つがあります。

お申し込み方法**■インターネット**

http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm

からお申し込みください。

■Fax

「修理依頼シート」(同梱の『東芝PCサポートのご案内』に記載)に必要な事項を記入のうえ、

Fax 043-278-8137 に送付してください。

* Fax番号は、おまちがえのないよう、お確かめのうえおかけください。

「修理依頼シート」は当センターのホームページ

http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm

からも印刷できます。

■電話

通話料無料 ハロー キックニ

TEL 0120-86-9192

受付時間 9:00 ~ 17:30 (祝日、特別休日を除く)
海外からの電話、携帯電話等、上記電話番号に接続できない場合は

TEL 043-278-8122 までご連絡ください。

* 電話番号は、おまちがえのないよう、お確かめのうえおかけください。

ピックアップサービス

修理の際は、簡単・便利な「ピックアップサービス」をご利用ください。

輸送業者がパソコン輸送専用の梱包箱を持参してご自宅まで伺い、面倒な梱包から引き取り、修理完了後の納品まで行います。

* 「ピックアップサービス」はメーカー保証修理の場合、「無料」です。

【お申し込みの際、必ずご確認ください】

- 保証期間中に故障した場合、保証書に記載の「保証修理規定」に従い、無料修理をさせていただきます。
- 修理依頼の際は、記憶装置内の内容は保証いたしません。必ずバックアップをお取りください。また、修理にともなうハードディスクの修理・データの初期化(標準出荷状態)の際は、記憶装置内の内容が消去されることをあらかじめご了承ください。
- その他詳細につきましては、当センターのホームページ(http://dynabook.com/assistpc/repaircenter/index_j.htm)に記載の「修理規約」をご覧ください。
- お客様のプライバシー・個人情報の保護については、「個人情報保護方針」(http://www.toshiba.co.jp/privacy/index_j.htm)をご覧ください。

2

トラブル解消によく使う操作

トラブルを解消するために、パソコンの設定を変更する必要がある場合があります。ここでは、パソコンの設定を変更するときによく使う操作を説明します。



メモ コントロールパネルを開くには

- コントロールパネルとは、パソコンのいろいろな設定をまとめたフォルダです。パソコンの設定を変更したいときには、まずコントロールパネルを開き、その中から目的の設定を行うオプション画面を選ぶことがよくあります。

コントロールパネルを開くには、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[コントロールパネル] 画面には、目的のカテゴリを選択する画面（カテゴリ表示）と、すべてのオプションから選択する画面（クラシック表示）の2種類があります。2つの画面は互いに切り替えることができます。

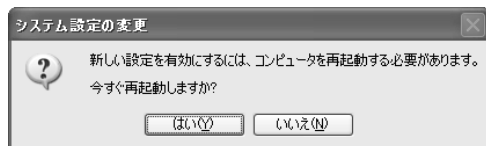
* 本書では、カテゴリを表示しているという前提で、操作の説明をしています。

① パソコンを再起動する

再起動とは、1度パソコン本体の電源を切り、自動的に再び電源を入れることです。設定を変更した後に、設定を有効にするにはパソコンの再起動が必要な場合があります。システムが次に起動したときから設定が適用されます。

1 「再起動しますか？」と表示された場合の方法

設定を変更した後に、次のようなメッセージが表示される場合があります。



1 [はい] ボタンをクリックする

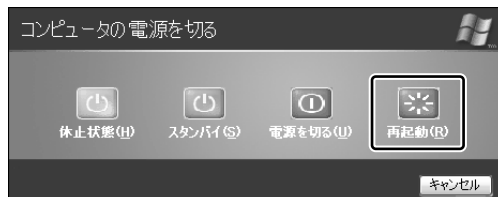
パソコンが再起動します。

2 自分で再起動する方法

1 [スタート] ① → [終了オプション] をクリックする②



2 [再起動] をクリックする



3

問題の切り分け方法

① パソコンの情報を見る／状態を診断する

使用中のパソコンにどのような機能があるか、また調子が悪い場合はどこに問題があるのかを「東芝 PC 診断ツール」で調べることができます。

1 起動方法

1 [スタート] → [すべてのプログラム] → [TOSHIBA] → [ユーティリティ] → [PC 診断ツール] をクリックする

「東芝 PC 診断ツール」が起動します。

2 パソコンを診断する

1 [診断ツール] タブで診断する項目をチェックし
①、[診断開始] ボタンをクリックする②



確認のメッセージが表示されます。

2 [はい] ボタンをクリックする

チェックした項目を上から順番に診断します。チェック項目によっては、診断中にメッセージが表示されますので、確かめて [はい] または [いいえ] / [OK] または [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

診断が終了すると、メッセージが表示されます。[OK] ボタンをクリックしてください。結果が表示されます。問題があった場合は、[ヘルプ] ボタンをクリックしてください。ヘルプファイルが起動し、主な解決方法が表示されます。

[ハードディスク] を診断すると、フォーマットされていない装置は「問題あり」と表示されます。必要に応じて、フォーマットしてください。

3 診断結果を保存する

診断結果をファイルに保存できます。

1 [ファイルに保存] ボタンをクリックする

2 ファイルの保存場所とファイル名を指定し、[保存] ボタンをクリックする

確認のメッセージが表示されます。

3 [はい] ボタンをクリックする

指定した場所にファイルが保存されます。

4 システムに関する情報を表示する

1 [東芝 PC 診断ツール] 画面で、[基本情報] タブをクリックする

本製品の基本情報が表示されます。



表示される内容は、「東芝 PC 診断ツール」を起動した時点での設定内容です。設定を変更した場合は、パソコン本体を起動しなおすと変更後の設定内容が表示されます。ただし、[CPU] の項目には、搭載されている CPU の最大クロック数 (固定値) が表示され、これはユーティリティなどによる設定値には影響されません。

ヘルプの起動方法

1 「東芝 PC 診断ツール」を起動後、[ヘルプ] ボタンをクリックする

② システム構成ユーティリティを使う

Windows XP の動作が不安定な場合や動きが遅い場合、常駐アプリケーションや不要なサービスが影響を与えている場合があります。

「システム構成ユーティリティ」を使用し、これらのプロセスを停止することで影響の有無を確認することができます。

お願い 操作にあたって

- 表示されるサービスやプログラムの中には、Windows の動作に必要な不可欠なものもあり、停止すると、Windows が正常に機能しなくなる場合があります。操作が不安な場合は東芝 PC ダイアルまでお問い合わせください。

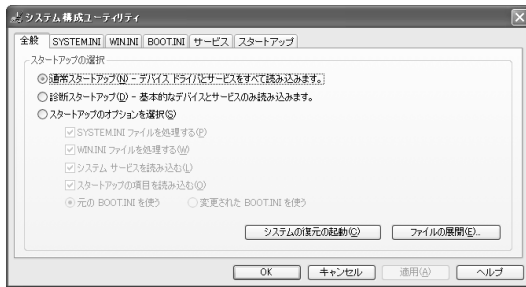
システム構成ユーティリティの操作方法

1 [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする

2 「MSCONFIG」と入力する

3 [OK]ボタンをクリックする

次の画面が表示されます。



4 [診断スタートアップ]を選択し、[OK]ボタンをクリックする

Windows を再起動します。
必要最低限のシステム構成で Windows が起動しますので、動作の確認を行います。
[サービス] タブ、[スタートアップ] タブを開くと、一つ一つのサービスや、プログラムを選択することができます。
チェック (☑) をはずしたプロセスは、次回 Windows 起動時より常駐しなくなります。不要なサービスやプログラムを選択して停止することができます。

③ 正常な状態で起動しなおす

周辺機器のドライバの更新中やシステム (OS) のアップデート中にトラブルが発生した場合、次の手順を行うと、前回正常に起動したときの構成で Windows を起動できます。

1 操作方法

1 (F8)キーを押しながら、電源を入れる

2 画面に「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されたら、(F8)キーから指を離す

3 (↑)または(↓)キーで [前回正常起動時の構成 (正しく動作した最新の設定)] を選択し、(ENTER)キーを押す

4 [Microsoft Windows XP Home Edition] が反転していることを確認し、(ENTER)キーを押す
前回正常に起動したときの構成で Windows が起動します。場合によっては、起動までに時間がかかります。

役立つ操作集

回復コンソールについて

Windows XP に重大なエラーが発生して起動できないような場合、回復コンソールを使って起動環境の復元やファイルの救出などを行うことができます。回復コンソールは正常に機能しているときにインストールする必要があります。
詳しい使用法は [スタート] → [ヘルプとサポート] をクリックして、『ヘルプとサポート センター』で「回復コンソール」を検索し、確認してください。

[回復コンソールのインストール]

- ① [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックする
- ② [C:¥WINDOWS¥I386¥WINNT32.EXE/cmdcons] と入力する
- ③ [OK] ボタンをクリックする

[Windows セットアップ] 画面が表示されます。画面の指示に従ってインストールしてください。

「ファイル XXXX... を読み込めなかったため、アップグレードオプションは現在利用できません。...」というメッセージが表示された場合は、[OK] ボタンをクリックしてください。回復コンソール開始の確認画面が表示されます。
インターネットに接続できない場合は、更新された Windows セットアップをダウンロードすることができませんが、回復コンソールのインストールはそのまま続けることができます。

[回復コンソールの操作方法]

回復コンソールを起動するには、東芝 RAID ドライブディスクが必要になります。
あらかじめ、東芝 RAID ドライブディスクを次の手順で作成しておいてください。

● 東芝 RAID ドライブディスク作成手順について

- ・フォーマット済みのフロッピーディスクを用意する
- ・Windows のコマンドプロンプトを表示して、次のコマンドを実行する

```
copy "C:¥app&drv¥RAID_Drv" a:¥
```

- ① 別売りの USB フロッピーディスクドライブをパソコンに接続する
- ② 電源スイッチを押す
パソコンを起動したときにオペレーティングシステム一覧が表示されます。
- ③ 「Microsoft Windows XP 回復コンソール」を選択し、(ENTER)キーを押す
- ④ 画面の最下部に「Press F6 Key if you need to install a third party SCSI or RAID driver...」のメッセージが表示されたら、(F6)キーを押す
- ⑤ [Setup could not determine the type of one or more mass storage ...]の画面が表示されたら、東芝 RAID ドライブディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、(S)キーを押す
- ⑥ [TOSHIBA RAID Driver for Windows XP]が選択されている画面が表示されたら、(ENTER)キーを押す
- ⑦ 再度(ENTER)キーを押す
画面のメッセージに従ってください。
最後に「C:¥Windows」が表示されます。
- ⑧ コマンドを入力する
「C:¥WINDOWS>_」が表示されているときに「help」を入力すると、回復コンソールで入力できるコマンドの一覧が表示されます。
各コマンドの説明については、『ヘルプとサポート センター』でご確認ください。

4

Q&A 集


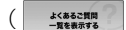
電源を入れるとき／切るとき	90
Q 電源スイッチを押しても反応しない	90
Q 1度電源が入りかけますがすぐに切れる 電源が入らない	90
Q 電源を入れたが、システムが起動しない	90
Q [終了オプション] から電源が切れない	90
Q 使用中に突然電源が切れてしまった	90
Q しばらく操作しないとき、電源が切れる	91
Q 間違っって電源を切ってしまった	91
Q (F12)キーを押しながら電源を入れても、 起動ドライブを変更できない	91
画面／表示	91
Q 画面に何も表示されない (Power LED が消灯、 またはオレンジ色に点滅している場合)	91
Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない (Power LED が青色に点灯している場合)	91
Q 画面が暗い	92
キーボード	92
Q キーを押しても文字が表示されない	92
Q どのキーを押しても反応しない 設定はあっているが、希望の文字が入力できない	92
Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった	93
タッチパッド／マウス	93
Q タッチパッドやマウスを動かしても 画面のポインタが動かない (反応しない)	93
Q 光学式マウスを使用しているとき、 画面のポインタが正しく動かない (正しく反応しない)	93
CD / DVD	93
Q CD / DVD にアクセスできない	93
Q ドライブの LED が消えない	93
Q CD / DVD が取り出せない	93
Q DVD-Video をドライブにセットしたときに、 再生するアプリケーションを選択する画面が 表示されない	94
周辺機器	94
Q 周辺機器を取り付けているときの 電源を入れる順番は?	94
Q 増設メモリが認識されない	94

アプリケーション	94
Q アプリケーションが操作できなくなった	94
Q BeatJam が起動できない	95
メッセージ	95
Q 画面に「Password=」と表示された	95
Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」 「パスワードが誤っています。」と表示された	95
Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが 画面一面に表示された	95
Q 「RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press[F1]Key to set Date/Time.」と表示された	95
Q 「システムの日付または時刻が無効です」 と表示された	95
Q 休止状態から復帰したとき、 「休止モードを準備しています」と表示された	96
Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」 と表示された	96
Q 次のようなメッセージが表示された	96
Q C:¥ >_ のように表示された	96
Q その他のメッセージが表示された	96
その他	96
Q セーフモードで起動した	96
Q フロッピーディスクのフォーマットができない	96
Q 引越したときの手続きは?	97
Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの 調子がおかしい	97
Q パソコンが応答しない	97
Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある	98
Q 異常な臭いや過熱に気づいた!	98
Q この Q&A 集を読んでも解決できない	98
Q 操作できない原因がどうしてもわからない	98
Q パソコンを廃棄したい	98
Q 海外でパソコンを使いたいときは?	99

役立つ操作集

「よくあるご質問」を見てみよう

Q&A 集を見ても知りたいことが見つからない場合は、パソコンで「よくあるご質問」を見てみましょう。「東芝 PC ダイアル」にお問い合わせが多い質問をまとめているので、パソコントラブルの解決に役立ててください。インターネットに接続しなくても閲覧できるため、操作も簡単です。

- ① デスクトップ上の [よくあるご質問] アイコン
() をダブルクリックする
[よくあるご質問] のトップ画面が表示されます。
- ② [よくあるご質問一覧を表示する] ボタン
() をクリックする
- ③ 10 のカテゴリの中から知りたい項目をクリックする
- ④ 参照したい質問をクリックする

電源を入れるとき ／切るとき

Q 電源スイッチを押しても反応しない

A 電源スイッチを押す時間が短いと電源が入らないことがあります。

Power LEDが青色に点灯するまで押し続けてください。

Q 1度電源が入りかけるとすぐに切れる電源が入らない

(Battery LEDがオレンジ色に点滅しているとき)

A バッテリーの充電量が少ない可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用のACアダプタを接続して、電源を供給する
(他製品用のACアダプタは使用できません)
- 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーの充電について

「4章 バッテリー駆動で使う」

(DC IN LEDがオレンジ色に点滅しているとき)

A 電源の接続の接触が悪い可能性があります。

バッテリーパックやACアダプタを接続し直してください。

参照 バッテリーパックの取り付け／取りはずし

「4章 バッテリー駆動で使う」

参照 ACアダプタの接続 『セットアップガイド

1章 3 Windows を使えるようにする』

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、保守サービスに連絡してください。

Q 電源を入れたが、システムが起動しない

A 起動ドライブをハードディスクドライブ以外に設定した場合に、システムの入っていないメディアがセットされている可能性があります。

システムが入っているメディアと取り替えるか、またはドライブからメディアを取り出してから、何かキーを押してください。

それでも正常に起動しない場合は、強制終了してください。強制終了の方法は、「本節 電源を入れるとき／切るとき-Q [終了オプション] から電源が切れない」を確認してください。

強制終了した後、(F12)キーを押しながら電源を入れてください。表示されたアイコンの中からシステムの入っているドライブ（通常はハードディスクドライブ）を(←)(→)キーで選択し、(ENTER)キーを押すと、システムが起動します。

A (F8)キーを押しながら電源を入れると、正常な状態で起動しなおすことができます。

参照 詳細について

「本章 3-③ 正常な状態で起動しなおす」

Q [終了オプション] から電源が切れない

A (CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押して、電源を切ってください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

- ① (CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(ALT)+(U)キーを押してください。
- ③ [コンピュータの電源を切る] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(U)キーを押してください。
プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A (CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押しても反応がない場合は、電源スイッチを5秒以上押してください。

この場合、保存されていない作成中のデータは消失します。

Q 使用中に突然電源が切れてしまった

A パソコン内部の温度が一定以上に達すると保護機能が働き、システムが自動的に停止します。

パソコン本体が熱くなっている場合は、涼しい場所に移動するなどして、パソコンの内部温度が下がるのを待ってください。

また、通風孔をふさぐと、パソコンの温度は非常に上昇しやすくなります。通風孔のまわりには物を置かないでください。

それでも電源が切れる場合は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

A バッテリー駆動で使用している場合、バッテリーの充電量がなくなった可能性があります。

次のいずれかの対処を行ってください。

- 本製品用の AC アダプタを接続して、電源を供給する
(他製品用の AC アダプタは使用できません)
- 充電済みのバッテリーパックを取り付ける

参照 バッテリーの充電について
「4章 バッテリー駆動で使う」

Q しばらく操作しないとき、電源が切れる

A Power LED が青色に点灯している場合、表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

(SHIFT)キーや(CTRL)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A Power LED がオレンジ色に点滅しているか、消灯の場合、自動的にスタンバイまたは休止状態になった可能性があります。

一定時間パソコンを使用しないときに、自動的にスタンバイまたは休止状態にするように設定されています。

復帰させるには、電源スイッチを押してください。また、次の手順で設定を解除できます。

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリックする
- ② [東芝省電力] をクリックする
- ③ [プロファイル] で利用するプロファイルを選択する
- ④ [基本設定] タブで [システムスタンバイ] および [システム休止状態] のチェックをはずす
- ⑤ [OK] ボタンをクリックする

Q 間違えて電源を切ってしまった

A パソコンを終了する場合は、[スタート] メニューから行います。

パソコンが処理をしている最中 (Disk LED が点灯中) に電源が切れてしまうと、ハードディスクが故障する場合がありますので、正しい終了手順を守ってください。

- ① [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- ② [電源を切る] をクリックする

正しい終了手順に従わずに強制終了した後、パソコンの動作に少しでも異常が起きた場合はエラーチェック (ハードディスクの検査) を行ってください。

参照 エラーチェックの方法

「本節 その他 - Q セーフモードで起動した」

Q (F12)キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブを変更できない

A スーパーバイザパスワードを設定するときに、起動ドライブを変更できないように設定を行った可能性があります。

「東芝パスワードユーティリティ」の [スーパーバイザパスワード] タブの [ユーザポリシー] で「HW セットアップ / BIOS セットアップの使用を許可する」のチェックがはずれていると、(F12)キーを押しながら電源を入れても、起動ドライブの選択ができません。「HW セットアップ / BIOS セットアップの使用を許可する」をチェックしてください。

参照 スーパーバイザパスワード 《オンラインマニュアル (検索) : スーパーバイザパスワード》

画面 / 表示

Q 画面に何も表示されない

(Power LED が消灯、またはオレンジ色に点滅している場合)

A 電源が入っていないか、スタンバイまたは休止状態になっています。

電源スイッチを押してください。

Q 電源は入っているが、画面に何も表示されない

(Power LED が青色に点灯している場合)

A 表示自動停止機能が働いた可能性があります。

画面には何も表示されませんが実際には電源が入っていますので、電源スイッチを押さないでください。

(SHIFT)キーや(CTRL)キーを押す、またはタッチパッドを操作すると表示が復帰します。外部ディスプレイを接続している場合、表示が復帰するまでに10秒前後かかることがあります。

A インスタントセキュリティ機能が働いた可能性があります。

次の操作を行ってください。

- [画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで [パスワードによる保護]、または [再開時によろこ画面に戻る] をチェックしていない場合
(SHIFT)キーや(CTRL)キーを押すか、タッチパッドを操作してください。

- [画面のプロパティ] の [スクリーンセーバー] タブで [パスワードによる保護]、または [再開時によこそ画面に戻る] をチェックしている場合

- ① (SHIFT)キーや(CTRL)キーを押すか、タッチパッドを操作する
複数のユーザで使用している場合は、ユーザ名選択画面が表示されますので、ログオンするユーザ名をクリックしてください。
- ② Windows のログオンパスワードを設定している場合は、パスワードの入力画面に Windows のログオンパスワードを入力し、(ENTER)キーを押す

参照 Windows ログオンパスワードの入力

「セットアップガイド 1 章 5-1
他の人に使われたくないとき」

A 表示装置が適切に設定されていない可能性があります。

(FN)+(F5)キーを 3 秒以上押し続けてください。表示装置が本体液晶ディスプレイに切り替わります。

参照 詳細について

「3 章 周辺機器を使って機能を広げよう」

Q 画面が暗い

A (FN)+(F7)キーを押して、本体液晶ディスプレイ(画面)の輝度を明るくしてください*1

(FN)+(F6)キーを押すと、逆に、本体液晶ディスプレイの輝度は暗くなります。(FN)キーで本体液晶ディスプレイの輝度を変更した場合、パソコンの電源を切ったり再起動したりすると設定はもとに戻ります。

A 本体液晶ディスプレイの輝度が低く設定されている可能性があります。

「東芝省電力」には、本体液晶ディスプレイの輝度を落として消費電力を節約する機能があります。この機能で画面の明るさレベルを下げると、画面が暗くなります。

詳細は、「東芝省電力」のヘルプを参照してください。購入時の設定では、明るさレベルは最高に設定されています。次の手順で設定を変更してください。*1

- ① [コントロールパネル] を開き、[パフォーマンスとメンテナンス] をクリック→ [東芝省電力] をクリックする
- ② [プロファイル] で利用するプロファイルを選択する
- ③ [基本設定] タブで [画面の明るさ] を設定する [設定] ボタンをクリックすると、バッテリーの残容量ごとに画面の明るさを設定できます。[解除] ボタンをクリックすると、バッテリーの残容量ごとの設定は無効になります。
- ④ [OK] ボタンをクリックする

*1 この設定は、外部ディスプレイには反映されません。

キーボード

Q キーを押しても文字が表示されない

A システムが処理中の可能性があります。

ポインタが砂時計の形 (⌚) をしている間は、システムが処理をしている状態のため、キーボードやタッチパッドなどの操作を受け付けないうちがあります。システムの処理が終わるまで待つてから操作してください。

Q どのキーを押しても反応しない
設定はあっているが、希望の文字が入力できない

A 次の手順で [スタート] メニューから再起動してください。

- ① [スタート] → [終了オプション] をクリックする
- ② [再起動] をクリックする

A [スタート] メニューから再起動できない場合は、(CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押して、再起動してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

- ① (CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ② メニューバーの [シャットダウン] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(ALT)+(U)キーを押してください。
- ③ [再起動] をクリックする
タッチパッドやマウスで操作できない場合は、(R)キーを押してください。プログラムを強制終了し、電源が切れます。

A (CTRL)+(ALT)+(DEL)キーを押して再起動できない場合は、電源スイッチを 5 秒以上押し続けてください。

電源が切れます。この場合、保存されていないデータは消失します。

しばらくしてから電源を入れ直してください。強制終了した後パソコンの動作に少しでも異常が起きた場合は、エラーチェック (ハードディスクの検査) を行ってください。

参照 エラーチェックの方法

「本節 その他-Q セーフモードで起動した」


Q キーボードに飲み物をこぼしてしまった

A 飲み物など液体がこぼれて内部に入ると、感電、本体の故障、作成データの消失などのおそれがあります。もし、液体がパソコン内部に入ったときは、ただちに電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取りはずして、購入店、または保守サービスにご相談ください。

保守サービスへの相談は『東芝 PC サポートのご案内』を確認してください。

タッチパッド ／マウス

Q タッチパッドやマウスを動かしても画面のポインタが動かない（反応しない）

A システムが処理中の可能性があります。ポインタが砂時計の形（）をしている間は、システムが処理中のため、タッチパッド、マウス、キーボードなどの操作を受け付けられないことがあります。システムの処理が終わるまで待ってから操作してください。

A マウスが正しく接続されていない可能性があります。マウスとパソコン本体が正しく接続されていないと、マウスの操作はできません。マウスのプラグを正しく接続してください。

A タッチパッドのみ操作を受け付けられない場合、タッチパッドが無効に設定されている可能性があります。**(FN)+(F9)**キーを押して、タッチパッドを有効に切り替えてください。

参照 タッチパッドについて
「1章 2 ポインタを動かす／ファイルを開く」

Q 光学式マウスを使用しているとき、画面のポインタが正しく動かない（正しく反応しない）

A 光の反射が正しく認識されていない可能性があります。反射しにくい素材の上で使うと正しくセンサーが動かず、ポインタがうまく動きません。次のような場所では動作が不安定になる場合があります。

- 光沢のある表面（ガラス、研磨した金属、ラミネート、光沢紙、プラスチックなど）
- 画像パターンの変化が非常に少ない表面（人工大理石、新品のオフィスデスクなど）
- 画像パターンの方向性が強い表面（正目の木材、立体映像の入ったマウスパッドなど）

明るめの色のマウスパッドや紙など、光の反射を認識しやすい素材を使ったものの上で使用してください。

CD / DVD

Q CD / DVD にアクセスできない

A CD / DVD がきちんとセットされていない場合は、レーベル面を上にして、水平にセットしてください。

A CD / DVD が汚れている場合は、乾燥した清潔な布でふいてください。それでも汚れが落ちなければ、水または中性洗剤で湿らせた布でふき取ってください。

参照 CD / DVD の手入れ
「1章 3 CD や DVD を使う」

A CD / DVD を認識していない可能性があります。ドライブのLEDが点滅している間は、まだ認識されていません。消灯するまで待って、もう1度アクセスしてください。

Q ドライブのLEDが消えない

A 大量のデータを処理しているときは、時間がかかります。LEDが消えるまで待ってください。どうしても消えないときは作業を中断し、**(CTRL)+(ALT)+(DEL)**キーを押して再起動してください。この場合、保存されていないデータは消失します。

参照 再起動の方法「本節 キーボード - Q
どのキーを押しても反応しない
設定はあっているが、希望の文字が入力できない」
再起動できない場合は、電源スイッチを5秒以上押し、電源を切ってから、もう1度電源を入れてください。この場合、保存されていないデータは消失します。再起動後、同じ操作を行っても、LEDが消えない場合は、電源を切り、保守サービスに連絡してください。

Q CD / DVD が取り出せない

（リモコンの[取り出し]ボタンを押して、CD / DVD を取り出す場合）

A リモコンが正しく操作できる環境になっていない場合は、リモコンの[取り出し]ボタンを押しても、CD / DVD は出てきません。

① リモコンが無効に設定されていたり、リモコンの電池が消耗している可能性があります。リモコンが正しく操作できるように調整してください。

参照 リモコン操作ができない
『オーディオ & ビジュアルガイド 14 Q&A 集』

②パソコンが次の状態になっていることを確認し、
[取り出し] ボタンを押してください。

- WinDVD 動作中で、その画面を選択しているとき
- BeatJam 動作中で、その画面を選択しているとき
- QosmioPlayer 動作中で、その画面を選択しているとき
- 電源が入っていない状態
- 休止状態

(パソコン本体のイジェクトボタンを押して、
CD / DVD を取り出す場合)

A パソコン本体の電源が入っていないと、イジェクトボタンを押しても CD / DVD は出てきません。

電源を入れてから、イジェクトボタンを押してください。イジェクトボタンを押すと、直接スロットから CD / DVD が出てきます。

参照 CD / DVD の取り出し 「1 章 3-⑤ CD / DVD を使い終わったとき (取り出し)」

A パソコン本体の電源が入っている場合は、[マイコンピュータ] を開き、CD / DVD が入っているドライブのアイコンを右クリックして、表示されるメニューの中の「取り出し」をクリックしてください。

A 上記の操作でも取り出せない場合は、CD / DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了してください。

終了後、イジェクトボタンを押してください。

A CD / DVD を使用しているアプリケーションをすべて終了していても、CD / DVD が取り出せない場合は、パソコンを再起動してください。

再起動後、イジェクトボタンを押してください。以上の手順でも解決できない場合は、保守サービスに依頼してください。

Q DVD-Video をドライブにセットしたときに、再生するアプリケーションを選択する画面が表示されない

A 次の手順で設定を変更してください。

- ① [マイコンピュータ] で DVD をセットしているドライブのアイコンを右クリックし、[プロパティ] をクリックする
- ② [自動再生] タブで「DVD ムービー」を選択し、[動作] で [動作を毎回選択する] をチェックする
- ③ [OK] ボタンをクリックする

参照 DVD-Video の再生について
『オーディオ & ビジュアルガイド 9
DVD の映画や映像を観る』

周辺機器

周辺機器については「3 章 周辺機器を使って機能を上げよう」、[周辺機器に付属の説明書] もあわせて確認してください。

Q 周辺機器を取り付けているときの電源を入れる順番は？

A 周辺機器の電源を入れてからパソコン本体の電源を入れてください。

USB 対応機器など、周辺機器によっては、パソコン本体が起動した後に電源を入れても使うことができるものがあります。

Q 増設メモリが認識されない

A メモリを増設しても「システム情報」などでメモリ容量の数値が変わらなかった場合、パソコンが増設メモリを認識していない可能性があります。

「3 章 周辺機器を使って機能を上げよう」を参照して、増設メモリを取りはずしてから、もう 1 度取り付けてください。

アプリケーション

Q アプリケーションが操作できなくなった

A アプリケーション使用中に操作できなくなった場合は、次の手順でアプリケーションを強制終了してください。

終了後、もう 1 度アプリケーションを起動してください。この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

- ① **(CTRL)+(ALT)+(DEL)** キーを押す
[Windows タスクマネージャ] 画面が表示されます。
- ② [アプリケーション] タブで [応答なし] と表示されているアプリケーションをクリックする
- ③ [タスクの終了] ボタンをクリックする
アプリケーションが終了します。
- ④ [Windows タスクマネージャ] 画面で [閉じる] ボタン (**X**) をクリックする

Q BeatJam が起動できない

(OMG ファイル、MP3 ファイル、WMA ファイル、WAV ファイル、CD Audioトラックをダブルクリックしても、「BeatJam」で再生できない場合)

A 「Windows Media Player」の初回起動時に、音楽再生アプリケーションの設定が変更された可能性があります。

次の手順に従って、「BeatJam」が起動するように設定してください。

- ① [スタート] → [すべてのプログラム] → [BeatJam] → [BeatJam] をクリックする
「BeatJam」が起動します。
- ② ツールバーから [メニュー] → [オプション] を選択する
- ③ [関連付け] タブで [OpenMG ファイル (oma.omg)], [MP3 ファイル(mp3)], [Windows Media Audio ファイル(wma)], [WAV ファイル(wav)], [CD Audioトラック (cda)] をチェックする
- ④ [OK] ボタンをクリックする

メッセージ

Q 画面に「Password=」と表示された

A パスワードの入力などによる認証が必要です。

次の操作を行ってください。

- ① 「東芝パスワードユーティリティ」または BIOS セットアップで登録したパスワードを入力し、(ENTER)キーを押す

《オンラインマニュアル (検索) : ユーザパスワード》を参照し、パスワードを忘れた場合に備えるようにしてください。パスワードファイルを作成しておくことができます。

パスワードを忘れた場合や、パスワードファイルを作成していない場合は、使用している機種 (型番) を確認後、保守サービスに連絡してください。有償にてパスワードを解除します。その際、身分証明書 (お客様自身を確認できる物) の提示が必要となります。

Q 「パスワードを忘れてしまいましたか？」 「パスワードが誤っています。」と表示された

A 入力モードの状態により大文字/小文字を誤って入力した可能性があります。

Caps Lock LEDを確認してください。必要に応じて (SHIFT) + (CAPS LOCK 英数) キーを押して入力の状態を切り替え、もう1度入力してください。

Q 画面が青くなり、次のようなメッセージが画面一面に表示された

- 「A problem has been detected and windows has been shut down to prevent damage to your computer.」

A ハードウェアの接続に不具合が起きた、または何らかの原因で電源を切る前の状態を再現できなくなったというメッセージです。

休止状態のまま増設メモリの取り付け/取りはずしをしたときなどに表示されます。電源を切る前の状態は再現できません。

次の操作を行ってください。

- ① 電源スイッチを5秒以上押し、パソコンを強制終了する
- ② 再び電源スイッチを押して、パソコンを再起動する
「システムを前の場所から再起動できませんでした。」というメッセージが表示されます。
- ③ 「復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます」が反転表示していることを確認し、(ENTER)キーを押す
Windows が起動します。

Q RTC battery is low or CMOS checksum is inconsistent」 「Press[F1]Key to set Date/Time.」と表示された

A 時計用バッテリーが不足しています。

時計用バッテリーは、ACアダプタを接続し電源を入れているときに充電されます。

参照 時計用バッテリーについて

「4章 バッテリー駆動で使う」

ACアダプタを接続後、次の手順でBIOS セットアップの日付と時刻を設定してください。

- ① (F1)キーを押す
BIOS セットアップ画面が表示されます。
- ② (↑)(↓)(←)(→)キーを使って、[SYSTEM DATE/TIME] の [Date] を選択し、(SPACE) キーで日付を設定する
- ③ 手順②と同様に [Time] で時刻を設定する
- ④ (FN) + (→) キーを押す
確認のメッセージが表示されます。
- ⑤ (Y) キーを押す
設定内容が有効になり、BIOS セットアップが終了します。パソコンが再起動します。

Q 「システムの日付または時刻が無効です」と表示された

A 日付と時刻を設定してください。

Windows Update やアプリケーションのセットアップを行う場合は、正しい日付と時刻を設定してから行ってください。

参照 日付と時刻の設定について

「セットアップガイド 1章 3-5- 日付と時刻の設定」

Q 休止状態から復帰したとき、「休止モードを準備しています」と表示された

A [コントロールパネル] の [ユーザーアカウント] → [ユーザーアカウント] → [ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する] の [ようこそ画面を使用する] がチェックされていると、休止状態から復帰したときにメッセージが表示される場合があります。

ログオンしたいユーザ名をクリックしてください。正常にログオンできます。

Q 「システムは休止状態からの復帰に失敗しました」と表示された

A 休止状態が無効になったというメッセージです。電源を切る前の状態は再現できません。[復元データを削除してシステムブートメニューにすすみます] を選択し、(ENTER)キーを押してください。Windows が起動します。

Q 次のようなメッセージが表示された

- [Insert system disk in drive.Press any key when ready]
- [Non- System disk or disk error Replace and press any key when ready]
- [Invalid system disk Replace the disk,and then press any key]
- [Boot:Couldn't Find NTLDR Please Insert another disk]
- [Disk I/O error Replace the disk,and then press any key]
- [Cannot load DOS press key to retry]
- [Remove disks or other media.Press any key to restart]
- [NTLDR is missing
Press any key to restart]

A フロッピーディスクなどの起動ディスクを取り出し、何かキーを押してください。

上記の操作を行っても解決しない場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝PCダイヤルに連絡してください。

Q C:¥ >_のように表示された

A コマンドプロンプトが全画面表示されています。次のいずれかの操作を行ってください。

- コマンドプロンプト画面をウィンドウ表示に切り替える
(ALT)+(ENTER)キーを押してください。
- コマンドプロンプト画面を終了する
 - ① (E)(X)(I)(T)とキーを押す
 - ② (ENTER)キーを押す

Q その他のメッセージが表示された

A 使用しているシステムやアプリケーションの説明書を確認してください。

その他

Q セーフモードで起動した

A 周辺機器のドライバやアプリケーションが原因で不具合を起こしている可能性があります。

次の手順でエラーチェック（ハードディスクの検査）を行ってください。

- ① [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックする
- ② (C:) ドライブをクリックする
- ③ メニューバーから [ファイル] → [プロパティ] をクリックする
- ④ [ツール] タブの [エラーチェック] で [チェックする] ボタンをクリックする
- ⑤ [チェック ディスクのオプション] で [不良セクタをスキャンし、回復する] をチェックする ()
- ⑥ [開始] ボタンをクリックする
チェックには時間がかかります。
チェック後パソコンを再起動し、通常起動するか確認してください。

上記の操作を行っても正常に起動しない場合は、東芝PCダイヤルに連絡してください。

参照 セーフモードについて


《オンラインマニュアル（検索）：セーフモード》

Q フロッピーディスクのフォーマットができない

(Norton Internet Security をインストールしている場合)

A 「Norton AntiVirus」の「Auto-Protect」を有効にしているとき、未フォーマットのフロッピーディスクをフォーマットできない場合があります。

次の手順で「Auto-Protect」を無効にしてフォーマットしてください。

- ① 通知領域の [Norton Internet Security] アイコン () をダブルクリックする
- ② [Norton Internet Security] 画面で [オプション] をクリックし、表示されたメニューから [Norton AntiVirus] をクリックする
- ③ [Norton AntiVirus オプション] 画面で [Auto-Protect を有効にする] のチェックをはずす
- ④ [OK] ボタンをクリックする

フォーマット後は手順③で [Auto-Protect を有効にする] をチェックし、「Auto-Protect」を有効にしておくことをおすすめします。

Q 引っ越したときの手続きは？

A 次の変更を行ってください。

1 インターネットに接続する設定を変更する

インターネットに接続する電話回線を、引っ越し後に使用する電話回線に変更してください。また、プロバイダのアクセスポイントは、引っ越し先の住所に最も近いアクセスポイントに変更することを推奨します。詳しくは、契約しているプロバイダに問い合わせてください。設定は次の手順で変更できます。

● 発信元の電話番号の設定

- ① [コントロールパネル] を開き、[プリンタとその他のハードウェア] をクリックする
- ② [電話とモデムのオプション] をクリックする
[電話とモデムのオプション] 画面が表示されます。
- ③ [ダイヤル情報] タブで変更したい所在地を選択し、[編集] ボタンをクリックする
使用する電話回線について、次の点を確認してください。
 - 登録名
引っ越し先を新たに登録したい場合は、[新規] ボタンをクリックしてください。
 - ダイヤル元の市外局番
 - 外線発信番号
 - ダイヤル方法
- ④ [OK] ボタンをクリックする

● 接続先の電話番号の設定

- ① [スタート] → [接続] → [XX (接続先)] をクリックする
[XX (接続先)へ接続] 画面が表示されません。
- ② [プロパティ] ボタンをクリックする
[XX (接続先) プロパティ] 画面が表示されます。
- ③ [全般] タブで [電話番号] 欄に、これから使用したいアクセスポイントの電話番号を市外局番から入力する
- ④ [XX (接続先) プロパティ] 画面で [OK] ボタンをクリックする
- ⑤ [ダイヤル] ボタンをクリックする
変更した設定が有効になります。
すぐに接続する必要がない場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

2 東芝ID (TID) に登録した住所、電話番号などを変更する

● ホームページから変更する

東芝ID (TID) をお持ちの場合はこちらからお願いたします。

- ① インターネットで [http://room1048.jp/] へ接続する
- ② [ログイン] ボタンをクリックする
- ③ [東芝ID (TID)] と [パスワード] に入力し、[ログイン] ボタンをクリックする
お客様専用ページにログインします。

④ ページ右上の [登録情報変更] をクリックする
[登録情報変更メニュー] 画面が表示されます。

⑤ [個人情報とTID・パスワードの確認/変更] をクリックし、[個人情報の確認/変更] をクリックする
[個人情報の確認/変更] 画面が表示されません。
変更する情報を修正してください。

● 電話で変更する

「東芝ID事務局 (お客様情報変更)」までご連絡ください。

- 東芝ID事務局 (お客様情報変更)
TEL :03-3457-4861
受付時間:9:00~17:00
(土・日、祝日、東芝特別休日を除く)

紹介しているホームページ、電話番号はお客様登録の内容変更、削除に関する問い合わせ窓口です。

保守サービス、修理などの技術的な相談は、『東芝PCサポートのご案内』を確認してください。

3 契約しているプロバイダ、Windows や各アプリケーションのユーザ登録などに登録した住所、電話番号などを変更する

詳しくは、各登録先に問い合わせてください。

Q パソコンの近くにあるテレビやラジオの調子がおかしい

A 次の操作を行ってください。

- テレビ、ラジオの室内アンテナの方向を変える
- テレビ、ラジオに対するパソコン本体の方向を変える
- パソコン本体をテレビ、ラジオから離す
- テレビ、ラジオのコンセントとは別のコンセントを使う
- コンセントと機器の電源プラグとの間に市販のノイズフィルタを入れる
- 受信機に屋外アンテナを使う
- 平行フィーダを同軸ケーブルに替える

Q パソコンが応答しない

A 応答しないアプリケーションを強制終了してください。

この場合、保存されていないデータは消失します。

参照 アプリケーションの強制終了の方法

「本節 アプリケーション-Q
アプリケーションが操作できなくなった」

アプリケーションを終了しても調子がおかしい場合は、以降の操作を行ってください。

A Windowsを強制終了し、再起動してください。
システムが操作不能になったとき以外には行わないでください。強制終了を行うと、スタンバイ/休止状態は無効になります。また、保存されていないデータは消失します。

参照 Windowsの強制終了の方法
「本節 電源を入れるとき/切るとき-Q
[終了オプション] から電源が切れない」
強制終了後、パソコン本体の電源を入れてください。

Q コンピュータウイルスに感染した可能性がある

A ウイルスチェックソフトでウイルスチェックを行い、ウイルスが発見された場合は駆除してください。

参照 ウイルスチェックソフト『セットアップガイド 2章 ウイルスからパソコンを守る』
ウイルスチェックの操作方法がわからない場合や、ウイルス駆除ができなかった場合は、ウイルスチェックソフトのメーカーへお問い合わせください。

Q 異常な臭いや過熱に気づいた！

A パソコン本体、周辺機器の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。安全を確認してバッテリーパックをパソコン本体から取りはずしてから購入店、または保守サービスに相談してください。

なお、連絡の際には次のことを伝えてください。

- 使用している機器の名称
- 購入年月日
- 現在の状態（できるだけ詳しく連絡してください）

参照 修理の問い合わせについて
「本章 1-④ 修理に出す」、
『東芝PCサポートのご案内』

Q このQ&A集を読んでも解決できない

A このほかにもいろいろな解決方法があります。

1 オンラインマニュアルで調べる

オンラインマニュアルは、パソコン内の電子マニュアルで、検索する機能があります。知りたい内容がこのQ&A集に載っていない場合は、オンラインマニュアルで検索してみてください。詳細は『セットアップガイド 1章-目的にあわせて使い分ける』を参照してください。

2 「よくあるご質問」で調べる

dynabook.comに掲載されているサポート情報の中で、特にお問い合わせの多い項目やトラブル解決方法について記載しています。インターネットに接続できないときでも見ることができます。詳細は『セットアップガイド 1章-目的にあわせて使い分ける』を参照してください。

3 「dynabook.com」の「よくあるご質問 (FAQ)」を調べる

インターネットに接続できるときは、東芝PC総合情報サイト「dynabook.com」でサポート情報を見てください。問い合わせの多い質問やホットなQ&Aが掲載されています。

参照 dynabook.com

「本章 1-② トラブル事例を見てみる」

「A. 回答・対処方法」の説明を読んでも問題が解決しない場合は、説明の後のアンケートに引き続き、質問メールを出すこともできます。

* メールでの質問には「お客様登録」が必要です。

4 東芝PCダイヤルに電話する

パソコン本体のトラブルは、東芝PCダイヤルでお答えします。『東芝PCサポートのご案内』で必要事項を確認のうえ、東芝PCダイヤルに連絡してください。

参照 東芝PCダイヤル

「本章 1-③ 電話で問い合わせる」、
『東芝PCサポートのご案内』

Q 操作できない原因がどうしてもわからない

A パソコン本体のトラブルの場合は、「本章 1-③-1 トラブルチェックシート」で必要事項を確認のうえ、東芝PCダイヤルに連絡してください。

A アプリケーションのトラブルの場合は、各アプリケーションのサポート窓口にお問い合わせください。

参照 アプリケーションの問い合わせ先
「本章 5 問い合わせ先」

A 周辺機器のトラブルの場合は、各周辺機器のサポート窓口にお問い合わせください。

参照 周辺機器の問い合わせ先
『周辺機器に付属の説明書』

Q パソコンを廃棄したい

A 本製品を廃棄するときは、家庭で使用している場合と企業で使用している場合とで、廃棄方法が異なります。また、ハードディスク上のデータを消去する必要があります。

詳しくは、『セットアップガイド 5章 捨てるとき/人に譲るとき』を参照してください。

Q 海外でパソコンを使いたいときは？

A 次の点に気をつけてください。

1 電圧や電源プラグの形状を確認する

本製品のACアダプタは、AC100～240V(50/60Hz)の電圧に対応しているので、この範囲内の電圧・周波数の国/地域で使用できます。

電源コード(電源プラグからACアダプタまでのケーブル)は、日本の法令・安全規格(AC100V)に適合しています。その他の国/地域で使用する場合は、使用電圧やプラグ形状が異なりますので、お使いになる国/地域の法令・安全規格に適合する電源コード(市販品)をご用意ください。

参照 ACアダプタ、電源コード、電源プラグについて

『セットアップガイド 1章 3-2

電源コードとACアダプタを接続する』

2 通信関係の確認をする

● 内蔵モデム、無線LAN

国/地域によっては、モデムや無線LAN装置の使用に認可が必要です。本製品は出荷時に認可を受けていますが、すべての国/地域の認可は受けていません。本書やオンラインマニュアルの「付録」やカタログ、または対応する国/地域を記載したシートで、使用できる国/地域を確認してください。

それ以外の国/地域で本製品を使用する場合は、その国/地域に対応した機器(別売り)を使用するか、内蔵モデムや無線LAN機能の使用はお控えください。東芝製オプションはありません。各国/地域に適合した機器をご購入ください。

● モジュラージャックの形状

モジュラージャックは、国/地域によって形状が異なります。本製品は北米と日本の形状に対応していますが、その他の国/地域ではプラグをその地にあう形状に変換するためのアダプタ(別売り)が必要です。東芝製オプションはありません。各国/地域で安全規格に適合したコードや変換プラグをご購入ください。

● モデム設定ユーティリティ

本製品に内蔵されているモデムは、多数の国/地域で利用可能です。「内蔵モデム用地域選択ユーティリティ」で、使用する国/地域を設定してください。

参照 設定方法 《オンラインマニュアル(検索)：

海外でインターネットに接続したい》

3 必要なものを準備する

- 取扱説明書
- Office パッケージ
- 保証書

リカバリする必要があるときのために、Office 搭載モデル、OneNote 搭載モデルの場合は Office Personal 2003 または Office OneNote 2003 のパッケージ一式をお持ちください。本製品はハードディスクからリカバリできますが、これらのアプリケーションは同梱のCD-ROMからリカバリする必要があります。

参照 リカバリについて

『セットアップガイド 4章 1 リカバリとは』

故障したときのために、保証書と購入時のレシート*1をお持ちください。

ILW (International Limited Warranty) は海外の所定の地域*2でILWの制限事項・確認事項の範囲内で、修理サービスがご利用いただける、東芝の制限付海外保証制度です。保証書がILWの保証書を兼ねています。

ILWについての詳細は、次のホームページも参照してください。

http://dynabook.com/assistpc/ilw/index_j.htm

*1 保証書に購入店の捺印と購入日が明記されていれば、必要ありません。

*2 ILW対象地域の一部地域では、法律により輸出入が規制されている部品・役務があります。規制に該当する場合は、サービス対象外となりますので、あらかじめご了承ください。

4 プロバイダを選定する

加入しているプロバイダのアクセスポイントがその地域になければ、メールを送受信するたびに、普段よりも料金が余計にかかります。加入しているプロバイダのアクセスポイントが渡航先にあるか、または、アクセスポイントを持つ他のプロバイダと提携接続サービス(ローミングサービス)を行っているれば、通常通りにメール送受信が可能です。

ご出発前に、加入しているプロバイダのホームページで、アクセスポイントやローミングサービスの有無、設定方法などを確認しておくことをお奨めします。

<必要な書類など>

海外に持ち出す物によっては、「輸出貿易管理令および外国為替令に基づく規制貨物の非該当証明」という書類が必要な場合がありますが、現在販売されている東芝のパソコンを、旅行や短期出張で自己使用する目的で持ち出し、持ち帰る場合には、基本的に必要ありません。ただ、パソコンを他人に使わせたり譲渡する場合は、輸出許可が必要となる場合があります。

また、米国政府の定める輸出規制国(キューバ、リビア、朝鮮民主主義人民共和国、イラン、スーダン、シリア)に持ち出す場合は、米国政府の輸出許可が必要となる場合があります。輸出法令の規制内容や手続きの詳細は、経済産業省 安全保障貿易管理のホームページなどを参照してください。

海外で使用する場合については、次のホームページも参照してください。

<http://dynabook.com/assistpc/faq/pcdata/800008.htm>

5

問い合わせ先

－ OS /アプリケーション/プロバイダー

* 2005年7月現在の内容です。
各社の事情で、受付時間などが変更になる場合があります。

① OSの問い合わせ先

Windows セキュリティセンターなど、Microsoft® Windows® XP Service Pack 2 セキュリティ強化機能搭載の新規機能についてのサポート情報は、下記のホームページをご覧ください。

<http://support.microsoft.com/>

Windows XP に関する一般的なお問い合わせは、東芝 PC ダイアルになります。

② アプリケーションの問い合わせ先

各アプリケーションのユーザ登録については、それぞれの問い合わせ先まで問い合わせてください。

- Adobe Reader
- Bluetooth Stack for Windows by TOSHIBA
- CD/DVD 静音ユーティリティ
- ConfigFree
- FinePixViewer Lite
- Fn-esse
- Internet Explorer
- InterVideo WinDVD
- Java™ 2 Runtime Environment
- LaLaVoice
- Microsoft Office OneNote
- Outlook Express
- PadTouch
- Qosmio AV Center
- QosmioPlayer
- QosmioPlayer 転送ユーティリティ
- TOSHIBA Smooth View
- TOSHIBA Virtual Sound
- Windows Media Player
- Windows Movie Maker 2
- 映像調整ユーティリティ
- 簡単インターネット
- できる dynabook
- 東芝 HW セットアップ
- 東芝 PC 診断ツール
- 東芝 RAID
- 東芝 SD メモリカードフォーマット
- 東芝コントロール
- 東芝省電力
- 東芝パスワードユーティリティ
- 内蔵モデム用地域選択ユーティリティ
- ばらちゃん

以上のお問い合わせ先

東芝（東芝 PC ダイアル）

2005年9月13日（火）より、PC ダイアル問い合わせ番号が変更となります。

ナビダイヤル 全国共通電話番号
：0570-00-3100（サポート料無料）

受付時間：9:00～19:00（年中無休）

【電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください】

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様、NTT 以外とマイラインプラスなどの回線契約をご利用のお客様は、043-298-8780 でお受けしています。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただきます場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC ダイアル」（<http://dynabook.com/assistpc/techsupport/dial.htm>）にてお知らせいたします。

●変更後のお問い合わせ先

全国共通電話番号
：0120-97-1048

（通話料・サポート料無料）

受付時間：9:00～19:00（年中無休）

【電話番号はおまちがえないよう、ご確認の上おかけください】

海外からの電話、携帯電話などで上記電話番号に接続できないお客様は、043-298-8780 でお受けしています。

システムメンテナンスのため、サポートを休止させていただきます場合がございます。日程は、dynabook.com「サポート情報」→「東芝 PC ダイアル」（<http://dynabook.com/assistpc/techsupport/dial.htm>）にてお知らせいたします。

- Microsoft Office Excel
 - Microsoft Office Home Style+
 - Microsoft Office Outlook
 - Microsoft Office Word
- 以上のお問い合わせ先

マイクロソフト 無償サポート

〈TEL〉

TEL：東京：03-5354-4500

：大阪：06-6347-4400

※ 次の情報をお手元に用意してご連絡ください。
郵便番号、ご住所、お名前、電話番号、お問い合わせ製品のプロダクト ID
詳細は、製品添付の「パッケージ内容一覧」をご覧ください。

〈受付時間・お問い合わせ回数〉

●セットアップ、インストールに関するお問い合わせ

受付時間：9:30～12:00、13:00～19:00（平日）

10:00～17:00（土曜日、日曜日）

（マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く。日曜日が祝祭日の場合は営業いたします。その場合、振替休日は休業させていただきます）

回数：指定はございません。

●基本操作に関するお問い合わせ

受付時間 : 9:30～12:00、13:00～19:00 (平日)
10:00～17:00 (土曜日)
(マイクロソフト株式会社休業日、年末年始、祝祭日を除く)
回数 : 4 インシデント (4 件のご質問)
無償サポートは4件までです。
あらかじめ、インシデント制などの詳細について、『Microsoft Office Personal Edition 2003 スタートガイド』の「お問い合わせについて」をご覧ください。

〈ホームページ〉

URL : <http://support.microsoft.com/>
※ 電話サポート (無償) もしくは、製品サポートからお問い合わせになる製品をお選びください。
備考 : マイクロソフトサポート Web 上から直接インターネットを通じてお問い合わせも可能です。
答えてねっと : <http://www.kotaete-net.net/>

● The 翻訳インターネット のお問い合わせ先

The 翻訳サポートセンター

受付時間 : 10:00～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝日ならびに本サポートセンター臨時休業日を除く)
TEL : 0120-1048-37 (フリーダイヤル、携帯電話・PHS などをご利用の場合には、03-5465-7290)
E-mail : honyaku@toshiba-sol.co.jp
ホームページ : http://pf.toshiba-sol.co.jp/prod/hon_yaku/seihin/internet/index_j.htm
※ ユーザ登録をおすすめします。 https://pf.toshiba-sol.co.jp/prod/hon_yaku/regist/tti_regist.html からユーザ登録を行うことができます。
※ 日本語のみでお受けいたします。

● プロアトラス SV for TOSHIBA のお問い合わせ先

株式会社アルプス社 カスタマーサポート

受付時間 : 10:00～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝日・休業日を除く)
TEL : 052-789-1510
FAX : 052-789-1570 (24時間受付)
E-mail : support@alpsmap.co.jp
製品サポート : <http://www.alpsmap.co.jp/support/index.html>

● 駅すばあと のお問い合わせ先

株式会社ヴァル研究所

「駅すばあと」ユーザーサポートセンター

受付時間 : 10:00～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝祭日・指定日を除く)
TEL : 03-5373-3522
FAX : 03-5373-3523
E-mail : support@val.co.jp
※ ユーザ登録されたお客様が対象になります。
ホームページ : <http://ekiworld.net/>

● 筆ぐるめ のお問い合わせ先

富士ソフトABC株式会社 インフォメーションセンター

受付時間 : 9:30～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝祭日・休業日を除く)
11月1日から12月30日までは無休
TEL : 03-5600-2551
FAX : 03-3634-1322
E-mail : users@fsi.co.jp
ホームページ : <http://www.fsi.co.jp/product/>

● Norton Internet Security のお問い合わせ先

●期限切れによる「更新サービスの延長」申し込み
シマンテックストア

ホームページ : <http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/regist/oem/toshiba/>
受付時間 : 10:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)
TEL : 0570-005557 (ナビダイヤル)
FAX : 0570-005558 (ナビダイヤル)

●ユーザー登録およびご購入前の一般的なご質問に関するお問合せ

シマンテック

コンシューマ カスタマーサービスセンター

受付時間 : 10:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)
TEL : 0570-054115 (ナビダイヤル)
FAX : 0570-054116 (ナビダイヤル)
※ FAX でのお問い合わせはご回答までにお時間がかかる場合があります。
お急ぎの場合は、お電話でのお問い合わせをお勧めいたします。

●技術的なお問い合わせ

シマンテック

コンシューマ テクニカルサポートセンター

受付時間 : 10:00～18:00
(土・日・祝祭日を除く)

本センターをご利用頂くためには、ユーザー登録が必要です。また、ご利用期間は登録日から90日間となります。期間経過後のご利用は、有償サポートチケットをご購入頂くか、またはパッケージ製品へのアップグレードをご検討ください。

※ テクニカルサポートセンターの連絡先は、ご登録された電子メールアドレス宛に通知いたします。

ユーザー登録サイト :
<http://www.symantec.com/region/jp/techsupp/regist/oem/toshiba/>

- マカフィー・ウイルススキャン
- マカフィー・パーソナルファイアウォールプラス
以上のお問い合わせ先

マカフィー・カスタマーオペレーションセンター
(主に、ユーザ登録や更新時お支払い等、オペレーション上でのお問い合わせ。)

受付時間 : 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)
TEL : 0570-030-088
E-mail : http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/consumer_contact.asp
ホームページ : <http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/>

マカフィー・テクニカルサポートセンター
(主に、ソフトウェアご使用上の操作方法や不具合等技術的なお問い合わせ。)

受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (年中無休)
TEL : 0570-060-033
E-mail : [http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/contact.asp](mailto:techsup@mcafee.com)
ホームページ : <http://www.mcafeesecurity.com/japan/mcafee/support/>

- Ulead Video ToolBox 2 のお問い合わせ先

ユーリード テクニカルサポート

● E-mail によるお問い合わせ

ホームページ : <http://www5.ulead.co.jp/support/>
上記ページでは、よくあるご質問を Q&A 検索できるようになっております。
それでも解決しない場合は、各回答ページに用意されております「お問い合わせフォーム」をご利用のうえ、お問い合わせください。

● 電話によるお問い合わせ

TEL : 03-5491-5662
受付時間 : 平日 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
* 土曜、日曜、祝祭日、年末・年始はお休みです。
* 新製品発売後や時期によってはお電話がつながりにくくなります。
より素早い問題解決のためにも、是非上記 Q&A 検索をご利用ください。
* 2005 年 10 月に移転予定のため、上記お問い合わせ先が変更になります。詳しくはホームページをご覧ください。

<ユーザ登録について>

お客様へのより素早く質の高いサポートをさせていただくため、ご利用製品のユーザ登録をお願いしております。ユーザ登録はホームページより行うことができます。下記ホームページアドレスより [ユーザーサポート] - [ユーリードメンバー (ログイン)] を選択して登録を行ってください。
<http://www.ulead.co.jp/>

- InterVideo WinDVD Creator 2 Platinum
のお問い合わせ先

インタービデオジャパン ユーザーサポート

お問い合わせの前にホームページ (<http://www.intervideo.co.jp/>) のサポートページをご確認ください。当製品の無償サポート期間は、ご購入後 1 年間となります。

受付時間 : 月~金 9:30 ~ 17:00
(12:00 ~ 13:30 および
土、日、祝祭日、特定休業日は休み)
TEL : 045-226-3899
FAX : 045-226-3895
E-mail : techsup@intervideo.co.jp
ホームページ : <http://www.intervideo.co.jp/>

- DisneyBB セレクト のお問い合わせ先

ディズニー・インターネット・グループ・カスタマーセンター

受付時間 : 月~金 10:00 ~ 20:00
(土日祝日を除く)
TEL : 03-5977-7140
E-mail : <http://www.disney.co.jp/disneybb/contact>
ホームページ : <http://www.disney.co.jp/disneybb>

- cocoa のお問い合わせ先

NTT コミュニケーションズ カスタマーズフロント

受付時間 : 9:00 ~ 21:00 : 無休
(年末年始を除きます)
TEL : 0120-506506
ホームページ : <http://coden.ntt.com>

- goo スティック のお問い合わせ先

goo 事務局

受付時間 : 10:00 ~ 17:00
(土・日・祝日・年末年始を除く)
TEL : 045-848-4190
E-mail : info@goo.ne.jp
ホームページ : <http://stick.goo.ne.jp>

- BroadNewsStreet のお問い合わせ先

ニュースウォッチ

E-mail : toshibapc@newswatch.co.jp
対応時間 : 平日 10:00 ~ 17:30
(土、日、祝日、およびニュースウォッチが別途定める日はサポートの対象外となります。)

● 駅探エクスプレス のお問い合わせ先

駅探エクスプレスサポート

受付時間 : メールのため受付時間の制限はありません。
 ※ webmaster からの返信は、基本的に
 平日(10:00～18:00)の対応とさせて
 いただいております。
 また、内容により返信できない場合、
 回答に日数を要する場合がありますの
 で、あらかじめご了承ください。

E-mail : express-support@ekitan.com
 ホームページ : <http://express.ekitan.com/>

- BeatJam
- ホームページミックス /R.2
- MediaMarina 以上のお問い合わせ先

● ユーザー登録に関するお問い合わせ

ユーザー登録ご相談窓口

受付時間 : 平日 10:00～19:00、
 土・日・祝日 10:00～17:00
 (特別休業日を除く)

TEL : 東京 03-5412-2624
 大阪 06-6886-2624

ホームページ : <http://www.justsystem.co.jp/service/>

● 製品の使い方に関するお問い合わせ

ジャストシステムサポートセンター

※ サポートセンターへお問い合わせの際には、お客様の
 User ID および製品のシリアルナンバーが必要です。

受付時間 : 平日 10:00～19:00、
 土・日・祝日 10:00～17:00
 (特別休業日を除く)

TEL : 東京 03-5412-3980
 大阪 06-6886-7160

ホームページ : <http://support.justsystem.co.jp/>

- RecordNow!
- DLA
- Recovery Disc Creator 以上のお問い合わせ先

ソニック・サポートセンター

受付時間 : 10:00～12:00、13:00～17:00
 (土・日・祝祭日・年末年始・特別行事
 日を除く)

TEL : 03-5232-6400

お問い合わせは、ソニック・ソリューションズのサポート
 ページのメールサポートフォームより質問内容をお送り
 ください。

ホームページ : <http://www.sonicjapan.co.jp/support/index.html>

- ゼンリンデータコム デジタル全国地図 its-mo Navi
 のお問い合わせ先

ゼンリンデータコム お客様相談室

E-mail : itsmo_navi@zenrin-datacom.net
 ホームページ : <http://www.zmap.net/contactus/index.html>

● i-フィルター Personal Edition 3 のお問い合わせ先

デジタルアーツ株式会社

i-フィルター・サポートセンター

受付時間 : 平日 10:00～18:00、
 土・日・祝日 10:00～20:00

TEL : 平日 03-5485-1334
 土・日・祝日 0570-001334

E-mail : p-support@daj.co.jp
 ユーザーサポートお問い合わせフォーム
<https://sec2.daj.co.jp/userform/ask/form.htm>

③ プロバイダの問い合わせ先

本製品にインストールされているプロバイダサインアップ
 ソフトから契約できるプロバイダの問い合わせ先は、次の
 とおりです。

- AOL のお問い合わせ先

AOL メンバーサポートセンター

受付時間 : 9:00～21:00 (年中無休)

TEL : 0120-275-265
 * 携帯電話、PHS の場合
 : 03-5331-7400

FAX : 0120-379-930 (自動案内)

E-mail : aoljapanms@aol.com
 ホームページ : <http://support.aol.co.jp/>

- BIGLOBE のお問い合わせ先

NEC BIGLOBE カスタマーサポート
インフォメーションデスク

受付時間 : 9:00～22:00 365日受付

TEL : 0120-86-0962
 * 携帯電話、PHS の場合 CATV 電話の
 かたはこちらへ : 03-3947-0962
 * 電話番号は、おかけ間違いのないよう
 お願いします。

ホームページ : <http://support.biglobe.ne.jp/>

- DION のお問い合わせ先

KDDI カスタマーサービスセンター

● サービス内容に関するお問合わせ

TEL : 0077-7192
 (無料 / 9:00～21:00
 / 土・日・祝日も受付中)

● 接続・設定等に関するお問合わせ

TEL : 0077-7084
 (無料 / 24時間受付
 / 土・日・祝日も受付中)

ホームページ : <http://www.dion.ne.jp/>
 ※ メールでのお問い合わせはホームページから
<http://cs119.kddi.com/dion/>

● infoPepper のお問い合わせ先

infoPepper インターネットサービス

受付時間 : 10:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00
(休業日を除く月曜～金曜)
TEL : 044-201-0450
FAX : 044-246-1131
FAX・音声情報サービス
: 044-201-0449 (24時間受付)
E-mail : support@staff.pep.ne.jp
ホームページ : <http://www.pep.ne.jp/>

● OCN のお問い合わせ先

● OCN サービスの入会に関するご相談

OCN ヘルプデスク

TEL : 0120-047-747
受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (月～金)
9:00 ~ 17:00 (土・日・祝)
* 年末、年始を除く

● OCN サービスご契約者専用お問い合わせ先

OCN カスタマサポート

TEL : 0120-047-860
FAX : 0120-047-861
受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (月～金)
9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日)
* 年末、年始を除く
E-mail : support@ocn.ad.jp
ホームページ : <http://www.ocn.ne.jp/>

● ODN のお問い合わせ先

ODN サポートセンター

● ODN サービスに関するお問い合わせ

TEL : 0088-86
(無料。ダイヤルアップコース)
: 0088-222-375
(無料。ADSL/光コース)
受付時間 : 24時間自動受付
(9:00 ~ 18:00 は
オペレーター受付も可能)

● 接続に関するお問い合わせ

TEL : 0088-85
(無料。ダイヤルアップコース)
: 0088-228-325
(無料。ADSL/光コース)
受付時間 : 24時間自動受付
(9:00 ~ 18:00 は
オペレーター受付も可能。
また、ADSL/光コースの場合、
オペレーター受付は9:00 ~ 21:00)

● E-mail によるお問い合わせ

ダイヤルアップコースサービス案内
: odn-support@odn.ad.jp
ダイヤルアップコース接続サポート
: tech-support@odn.ad.jp
ADSL/光コースサービス案内・接続サポート
: info-adsl@odn.ad.jp

● FAX によるお問い合わせ

ODN FAX サービス : 0088-218-586
(無料。年中無休)

● So-net のお問い合わせ先

So-net インフォメーションデスク

受付時間 : 9:00 ~ 21:00 (年中無休)
TEL : 0570-00-1414
FAX : 03-3446-7557
E-mail : info@so-net.ne.jp
ホームページ : <http://www.so-net.ne.jp/support/>

● Yahoo! BB のお問い合わせ先

Yahoo! JAPAN 新規 Yahoo! BB 申し込み受付センター


TEL : 0120-33-4546 (フリーダイヤル)
受付時間 : 9:00 ~ 22:00 (月曜～金曜)
8:00 ~ 22:00 (土曜、日曜、祝日)
* 多数のお申し込みをいただいているため、20時以降、電話がつながりにくい場合があります。20時以前はつながりやすいので、ぜひご利用ください。

● かるがるネット のお問い合わせ先

かるがるネットサポートセンター

受付時間 : 9:30 ~ 18:30 (土・日・祝日を除く)
TEL : 03-5777-0670
FAX : 03-5777-0665
E-mail : info@karugaru.net
ホームページ : <http://www.karugaru.net/>

付録



技術基準適合などについて記しています。

1	技術基準適合について	106
2	無線 LAN について	108
3	Bluetooth について	109

1

技術基準適合について

オンラインマニュアルにも技術基準適合に関する説明が記載されています。本書だけでなく、オンラインマニュアルの記載もあわせてご確認ください。

高調波対策について
「FCC information」について

参照 ▶ 《オンラインマニュアル（検索）：
技術基準適合について》

瞬時電圧低下について

この装置は、社団法人 電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策のガイドラインを満足しております。しかし、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合を生じることがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

参照 ▶ 「6章 4 Q&A 集 その他-Q パソコンの近くにある
テレビやラジオの調子がおかしい」

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。



参照 ▶ 省電力設定について 《オンラインマニュアル
（検索）：省電力の設定をする》

●対応地域

内蔵モデムは、次の地域で使用できます。

アイスランド、アイルランド、アメリカ合衆国、アラブ首長国連邦、アルゼンチン、イギリス、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、エジプト、エストニア、オーストラリア、オーストリア、オマーン、オランダ、カナダ、韓国、ギリシャ、クウェート、サウジアラビア、シンガポール、スイス、スウェーデン、スペイン、スリランカ、スロバキア、スロベニア、タイ、台湾、チェコ、中国、デンマーク、ドイツ、トルコ、日本、ニュージーランド、ノルウェー、パキスタン、ハンガリー、バングラデシュ、フィリピン、フィンランド、ブラジル、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、香港、マルタ、マレーシア、南アフリカ、メキシコ、モロッコ、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、ルクセンブルグ、レバノン、ロシア

(2005年9月現在)

なお、その他の地域での許認可は受けていないため、その他の地域では使用できません。注意してください。内蔵モデムが使用できない地域では、その地域で許認可を受けているモデムを購入してください。内蔵モデムに接続する回線がPBX等を経由する場合は使用できない場合があります。上記の注意事項を超えてのご使用における危害や損害などについては、当社では責任を負えませんのであらかじめ了承してください。

参照 ▶ 設定について 《オンラインマニュアル（検索）：
海外でインターネットに接続したい》

●自動再発信の制限

内蔵モデムは2回を超える再発信（リダイヤル）は、発信を行わず『BLACK LISTED』を返します（『BLACK LISTED』の応答コードが問題になる場合は、再発信を2回以下または再発信間隔を1分以上にしてください）。

* 内蔵モデムの自動再発信機能は、電気通信事業法の技術基準（アナログ電話端末）「自動再発信機能は2回以内（但し、最初の発信から3分以内）」に従っています。

TOSHIBA

EU Declaration of Conformity



TOSHIBA declares, that the product: PQG21* conforms to the following Standards:

Supplementary Information : “The product complies with the requirements of the Low Voltage Directive 73/23/EEC, the EMC Directive 89/336/EEC and the R&TTE Directive 1999/5/EEC.”

This product is carrying the CE-Mark in accordance with the related European Directives.

Responsible for CE-Marking is TOSHIBA Europe, Hammfelddamm 8, 41460 Neuss, Germany.

Panasonic Shikoku
DVDスーパーマルチドライブ UJ-846
(DVDスーパーマルチドライブ DVD±R 2層式メディア対応)
安全にお使いいただくために

本装置を正しくご使用いただくために、この説明書をよくお読みください。
 また、お読みになった後は、必ず保管してください。

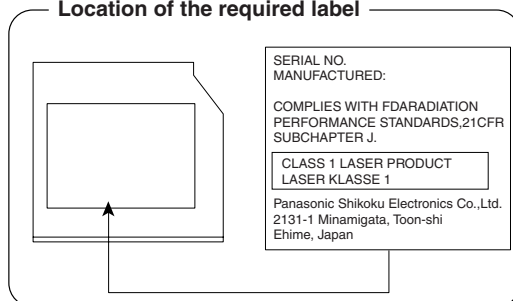
⚠ 注意

1. 本装置はレーザーシステムを使用しています。
 本装置の定格銘板には、右記の表示がされています。
 本装置はヨーロッパ共通のレーザ規格 EN60825 で
 “クラス1レーザー機器” に分類されています。
 レーザー光を直接被爆することを防ぐために、この装
 置の筐体を開けないでください。
2. 分解および改造をしないでください。感電の原因にな
 ります。信頼性、安全性、性能の保証をすることがで
 きなくなります。
3. 本装置はある確率で読み取り誤りをおこすことがあり
 ます。従って、本装置を使用するシステムには、これ
 らの誤りや故障に起因する二次的な損失、障害および
 事故を防止するために、安全性や保全性に関する十分
 な配慮が必要です。本装置の故障、取り出されたデー
 タの誤りによって、人体への危害や物質的損害を誘発
 する可能性があるシステムには、本装置を使用しない
 てください。
4. ご使用のディスクが損傷を受けても保証はいたしません。
5. ご使用中に異常が生じた場合は、電源を切って、お買い上げの販売店にご相談ください。

CLASS 1 LASER PRODUCT
 LASER KLASSE 1

CAUTION	CLASS 3B VISIBLE AND INVISIBLE LASER RADIATION WHEN OPEN. AVOID EXPOSURE TO BEAM.
ATTENTION	CLASSE 3B RAYONNEMENT LASER VISIBLE ET INVISIBLE EN CAS D'OUVERTURE. EXPOSITION DANGEREUSE AU FAISCEAU.
VORSICHT	KLASSE 3B SICHTBARE UND UNSICHTBARE LASERSTRAHLUNG, WENN ABDECKUNG GEÖFFNET. NICHT DEM STRAHL AUSSETZEN.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING VED ÅBNING. UNDGÅ UDS/ETTELSE FOR STRÅLING.
ADVARSEL	KLASSE 3B SYNLIG OG USYNLIG LASERSTRÅLING NÅR DEKSEL ÅPNES. UNNGÅ EKSPONERING FOR STRÅLEN.
WARNING	KLASS 3B SYNLIG OCH OSYNLIG LASERSTRÅLNING NÅR DENNA DEL ÅR ÖPPNAD. STRÅLE ÄR FARLIG.
VARO!	KURSSI 3B NÄKYVÄ JA NÄKYMÄTÖN AVATTAESSA OLET ALTTIINA LASERSÄTEILYLLE, ÄLÄ KATSO SÄTEESEN.

Location of the required label



2

無線 LAN について

オンラインマニュアルにも、無線 LAN に関する説明が記載されています。
本書だけでなく、オンラインマニュアルの記載もあわせてご確認ください。

参照 《オンラインマニュアル
(検索)：無線 LAN について》

1 ご使用になれる国/地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国/地域の無線規格を取得しております。これらの国/地域以外では使用できません。
- 802.11b および 802.11g モードでのアドホック接続は、チャンネル 1～チャンネル 11 で使用できます。
- 802.11b および 802.11g モードでのインフラストラクチャ接続は、チャンネル 1～チャンネル 11 で使用できません。

【 802.11b/g (2.4GHz) 】

アイスランド	シンガポール	フィンランド
アイルランド	スイス	フランス
アメリカ合衆国	スウェーデン	ブルガリア
イギリス	スペイン	ベルギー
イタリア	スロバキア	ポーランド
インド	スロベニア	ポルトガル
インドネシア	チェコ	香港
ウクライナ	中国	マルタ
エストニア	デンマーク	マレーシア
オーストラリア	ドイツ	ヨルダン
オーストリア	トルコ	ラトビア
オマーン	日本	リトアニア
オランダ	ニュージーランド	リヒテンシュタイン
カナダ	ノルウェー	ルクセンブルク
キプロス	ハンガリー	ロシア
ギリシャ	フィリピン	

3

Bluetooth について

* Bluetooth モデルのみ

オンラインマニュアルにも、Bluetooth に関する説明が記載されています。
本書だけでなく、オンラインマニュアルの記載もあわせてご確認ください。

参照 ▶ 《オンラインマニュアル》
(検索) : Bluetooth について

1 ご使用になれる国/地域について

お願い

- 本製品は、次にあげる国/地域の無線規格を取得しております。これらの国/地域以外では使用できません。

アイスランド	スイス	フィンランド
アイルランド	スウェーデン	フランス
アメリカ合衆国	スペイン	ベルギー
イギリス	スロバキア	ポーランド
イタリア	スロベニア	ポルトガル
エストニア	チェコ	マルタ
オーストラリア	デンマーク	ラトビア
オーストリア	ドイツ	リトアニア
オランダ	日本	リヒテンシュタイン
カナダ	ニュージーランド	ルクセンブルク
キプロス	ノルウェー	
ギリシャ	ハンガリー	

さくいん

A	
ACアダプタの仕様	14
ACアダプタの取り扱い	14
AV入力端子	13

B	
Battery LED	11, 60
BIOS セットアップ	72
Bluetooth 機能	37
Bluetooth について	109

C	
CD/DVD LED	11, 23
CD / DVD のセット	22
CD / DVD の取り扱い	24
CD / DVD の取り出し	23

D	
DC IN LED	11
Disk LED	11
dynabook.com (サポート情報)	82
D 映像出力端子	13
D 端子ケーブルの取り付け	47
D 端子ケーブルの取りはずし	50

E	
ExpressCard スロット	13
ExpressCard の取り付け	55
ExpressCard の取りはずし	56

I	
i.LINK (IEEE1394) コネクタ	13
i.LINK (IEEE1394) 対応機器の 取り付け/取りはずし	45

L	
LAN ケーブルの接続	30
LAN コネクタ	13
LAN コネクタに関するインジケータ	31

P	
PC カードスロット	13
PC カードの取り付け	53
PC カードの取りはずし	54
Power LED	11

R	
RGB コネクタ	13

S	
S-Video 出力コネクタ	13
SD メモリカードのセットと取り出し	27
S 端子ケーブルの取り付け	46
S 端子ケーブルの取りはずし	50

T	
TFT カラー液晶ディスプレイ	25

U	
USB コネクタ	10, 13
USB 対応機器の取り付け/取りはずし	44

X	
xD-ピクチャーカードのセットと取り出し	27

ア	
アンテナ入力端子	13

エ	
液晶ディスプレイの取り扱い	25

カ	
回復コンソール	88
外部ディスプレイの接続	51
型番	13, 84
画面の明るさを調整する	25

キ	
キーボード	10
キーボードの取り扱い	14

サ	
再起動	86

シ	
システムインジケータ	10, 11
使用できる CD	20
使用できる DVD	21

ス	
スピーカ	10

セ	
製造番号	13
赤外線受光窓	10
セキュリティロック・スロット	13

ソ

増設メモリスロット	13
増設メモリの取り付け／取りはずし	42

タ

タッチパッド	10
タッチパッドを無効／有効にするには	17

ツ

通風孔	13
-----------	----

テ

ディスプレイ	10
ディスプレイ開閉ラッチ	10
テレビに表示する	46
電源コードの仕様	14
電源コードの取り扱い	14
電源コネクタ	13
電源スイッチ	10

ト

東芝 PC オンライン	83
東芝 PC 集中修理センタ	85
東芝 PC 診断ツール	87
東芝 RAID	67
時計用バッテリー	61
ドライブ	10

ナ

内蔵モデム用地域選択ユーティリティ	33
-------------------------	----

ハ

パソコン本体の取り扱い	14
バッテリー安全ロック	13
バッテリー駆動で使用できる時間	61
バッテリー充電量の確認	60
バッテリーの充電完了までの時間	61
バッテリーの充電方法	61
バッテリーパック	13
バッテリーパックの交換	62
バッテリー・リリースラッチ	13
バッテリーを長持ちさせるには	62

ヒ

光デジタルオーディオ出力端子	10
光デジタルオーディオ出力端子対応機器の 取り付け／取りはずし	57
光デジタル対応機器への再生／録音	58
左ボタン	10
ビデオ入力 (S-Video) コネクタ	13

フ

プラグアンドプレイ	40
ブリッジメディア LED	11, 27
ブリッジメディアスロット	13, 27
フロントオペレーションパネル	11

ヘ

ヘッドホン出力端子	10
ヘッドホンの接続	52

ホ

ボリュームインジケータ	10
ボリュームダイヤル	10

マ

マイク入力端子	10
マイクロホンの接続	52
マルチメディアカードのセットと取り出し	27

ミ

右ボタン	10
------------	----

ム

無線 LAN	34
無線 LAN について	108

メ

メモリースティックのセットと取り出し	27
メモリ容量の確認	43

モ

モジュラーケーブルの接続	32
モジュラージャック	10

ユ

ユーザパスワードの削除	75
ユーザパスワードの登録	74
ユーザパスワードを忘れてしまったとき	75

リ

リリース情報	8
--------------	---

ワ

ワイヤレスコミュニケーション LED	11, 35, 38
ワイヤレスコミュニケーションスイッチ	10